技術資料

パークリフト NHT シリーズ

エレベータ方式　立体駐車装置

2017-05-1000

日本コンベヤ株式会社

はじめに

　本書は、タワー式立体駐車装置パークリフトＮＨＴシリーズ(以下、パークリフト)建設のための技術資料です。
　バリアフリー、電気自動車対応も可能です。ご検討される場合は、お問い合わせ下さい。
　巻末には、パークリフト建設に関する主要な法規制を抜粋した駐車装置関連法規を用意しておりますので、計画の際の参考資料として広くお役立て下さい。

・本書に示した寸法及び仕様は改善のため、変更する場合があります。ご了承下さい。

目次

基本仕様..... 2
バリエーション..... 3
立体駐車装置のタイプと収容車サイズ..... 4
自動車の最小旋回軌跡..... 7
自動車諸元(代表例)と入庫の可否..... 8
駐車装置 型式表示..... 10
タワー平面寸法..... 12
車の収容台数とタワー高さ..... 16
中間・上部乗入式..... 18
中間乗入式タワー平面寸法.....21
ビル組込コラムレス..... 23
ビル組込鉄塔型(ブレースなし)平面寸法..... 27
正面意匠・寸法図..... 28
棟内乗降室の設備..... 32
操作盤..... 34
入出庫動作..... 35
建具表・外部仕上表..... 37
屋根断面図..... 38
雨どい..... 39
斜線カット..... 40
雨仕舞参考図..... 41
柱・外装・アンカーベース関係寸法..... 42
基礎仕上図..... 44
アンカーボルト・ベースプレート..... 48
基礎標準杭径と位置..... 50
基礎・埋込金物仕上がり公差..... 51
消火設備(標準系統図)..... 52
消火設備(二酸化炭素:CO_2)..... 54
消火設備(窒素:N_2)..... 56
消火ボンベ室 計画例..... 58
消火ガス排出方法..... 59
消火設備機器 意匠図..... 60
避雷設備図..... 62
避雷設備用アース板設置図..... 63
電気設備資料..... 64
電気品配置図..... 65
電気系統図..... 68
分電盤詳細図..... 70
1次側電源引き込み要領図..... 71
電力料金表(概算)..... 72
入出庫時間表..... 73
騒音／振動対策..... 74
電波障害対策..... 75
タワー外置ターンテーブル(オプション)..... 76
オプション..... 80
工事区分表..... 84
据付工事標準工程表..... 86
駐車装置関連法規..... 87

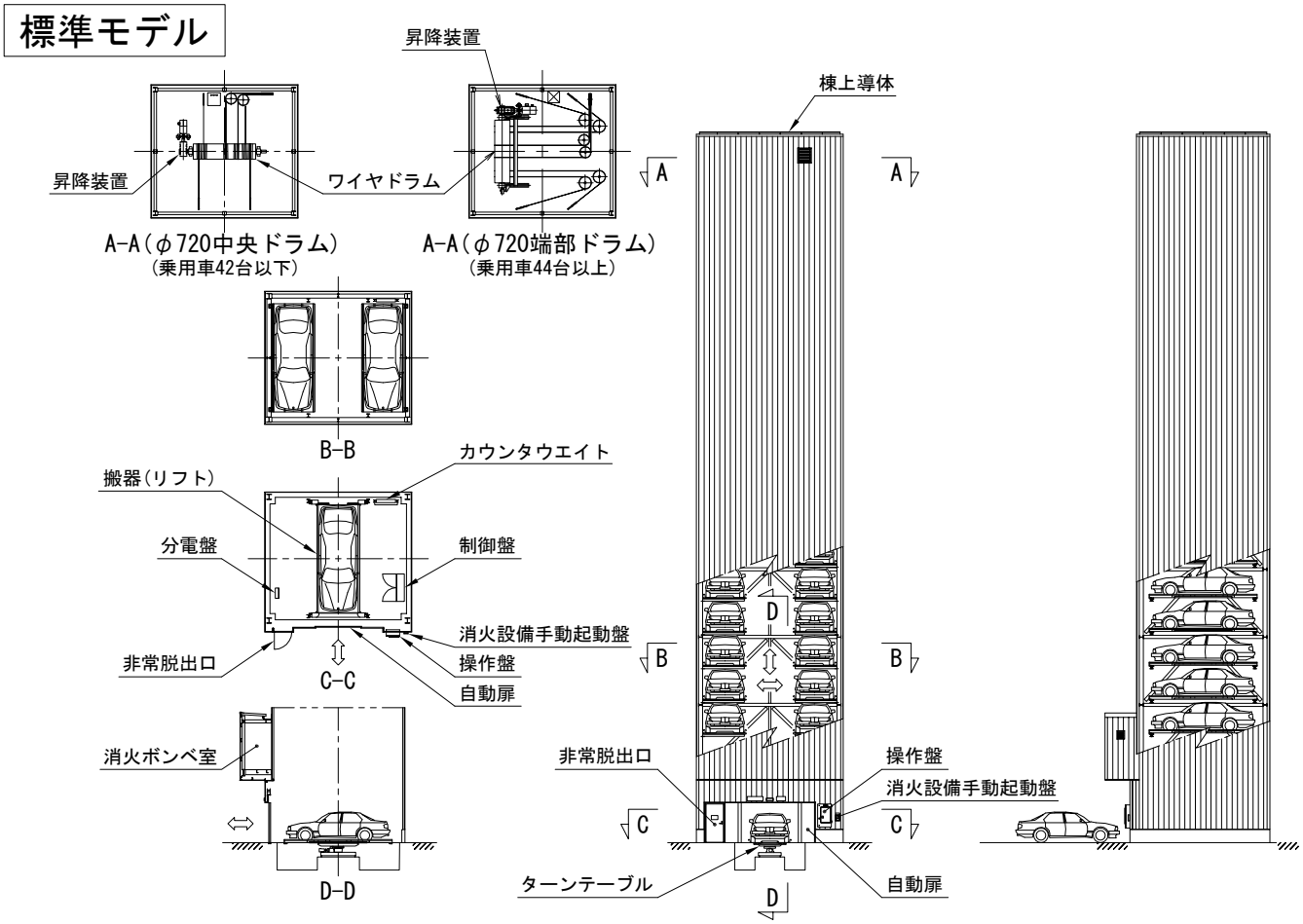
基本仕様

仕様表

装置型式			M 型 { M-G 型 }	W 型 { W-G 型 }	Z 型
収容車サイズ	全 長 (mm)		5,050	5,300	
	全 幅 (mm)		1,850	1,950	2,050
	全高 (mm)	乗用車	1,550		
		セミハイルーフ車	1,850		
		ハイルーフ車	2,000		
	タイヤ外幅 (mm)		1,815	1,865	1,915
	最低地上高 (mm)		120		
収容車重量	車両重量 (kg)		2,050 { 2,400 }		2,400
	最大重量 (kg)		2,150 { 2,500 }		2,500
昇降装置	モータ容量		15kW { 18.5kW }		18.5kW
	速 度		max.120m/min		
横送り装置	モータ容量		1.5kW		
	速 度		39m/min		
旋回装置	モータ容量		0.75kW		
	速 度		3rpm		
操作方法	標 準		テンキー方式 又は ICカード方式		
	オプション		タッチパネル		
電源容量	動力用		3φ3W 200V・D種接地		
			24kVA { 28kVA }		28kVA
	照明・制御用		1φ3W 100/200V・D種接地 3kVA		
	消火設備用 (専用電源)		1φ2W 100V・D種接地 1kVA		

注1) 車両重量とは空車重量で燃料・潤滑油・冷却水は含みますが、乗員・工具・スペアタイヤなどは含みません。
注2) 最大重量とは搬器に収容可能な最大積載重量を示します。
注3) { } は重量車仕様を示します。
注4) 中間・上部乗入型のモータ容量及び電源容量については、上記と異なる場合があります。

標準モデル



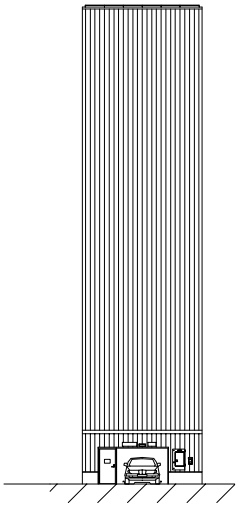
注) 上図は消火ボンベ室を庇上に設置した場合を示します。

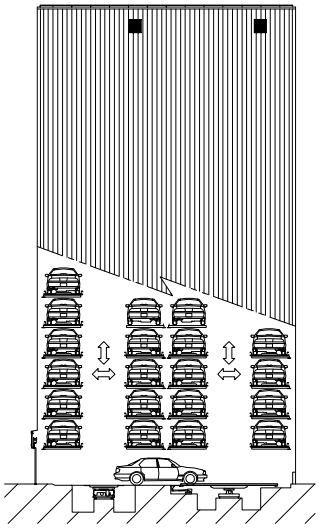
バリエーション

縦列モデル

縦列乗入式

奥側タワーを利用する際、運転者が奥側タワーまで車を乗り入れ、出庫時も奥側タワーで車に乗り込むタイプです。奥行きのある敷地の有効活用に適しています。

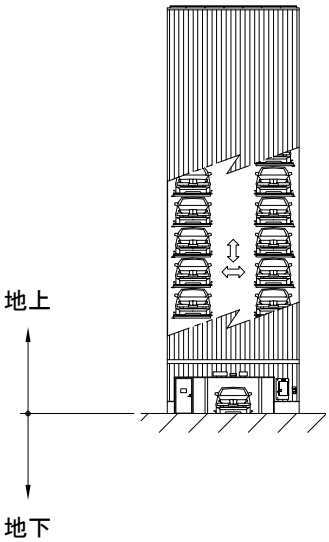




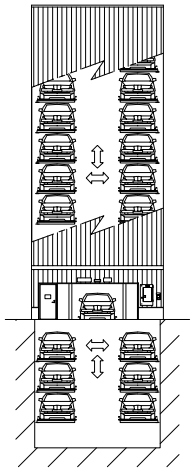
乗入方式

立地条件や建築計画に合わせ、標準的な下部乗入式の他に、中間乗入式、上部乗入式があります。また、立体駐車装置をビル内に取り込む「ビル組込コラムレス」、入庫した反対側に出庫する「通り抜け方式」(B型のみ)にも対応できます。

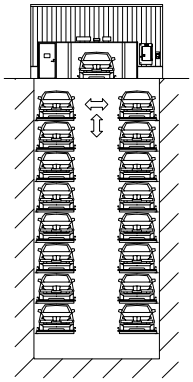
下部乗入式



中間乗入式



上部乗入式



立体駐車装置のタイプと収容車サイズ

1.乗用車(全高=1,550mm以下)

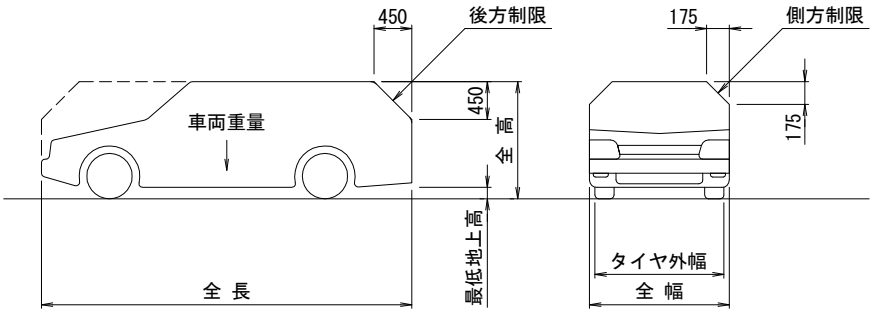
装置型式 / 車サイズ	中型乗用車			大型乗用車			大型乗用車		
	M 型 { M-G型 }			W 型 { W-G型 }			Z 型		
		EV※1	EV※2		EV※1	EV※2		EV※1	EV※2
全　長　(mm以下)	5,050	4,650	4,650	5,300	4,900	4,900	5,300	4,900	4,900
全　幅　(mm以下)	1,850	1,850	1,730	1,950	1,950	1,780	2,050	2.050	1,830
全　高　(mm以下)	1,550								
タイヤ外幅(mm以下)	1,815	1,815	1,695	1,865	1,865	1,745	1,915	1,915	1,795
車両重量　(kg以下)	2,050 { 2,400 }						2,400		
最大重量　(kg以下)	2,150 { 2,500 }						2,500		
最低地上高(mm以上)	120								
適用車種の例	トヨタ クラウン トヨタ プリウス ＬＥＸＵＳ IS 日産 スカイライン 日産 ノート ホンダ フィット ホンダ アコード ＢＭＷ 3シリーズ メルセデスベンツ Cクラス ボルボ V40 スズキ アルト(軽) ダイハツ ミラ(軽)			トヨタ センチュリー 日産 フーガ 日産 シーマ マツダアテンザ メルセデスベンツ Eクラス ボルボ S60 ボルボ V70 ＬＥＸＵＳ GS			ＬＥＸＵＳ LS ＢＭＷ 5シリーズ ＢＭＷ 7シリーズ メルセデスベンツ Sクラス		
ＥＶ車種	日産 リーフ			日産 リーフ トヨタ　プリウスPHV			日産 リーフ トヨタ　プリウスPHV		

注1) { } は重量車仕様を示します。

注2) EV※1　充電口が前面 又は 後面にある車種

EV※2　充電口が側面にある車種

注3) 適用車種は、2016年 1月時点で日本国内において販売されているモデルを参考としています。同じ車名でも、モデルチェンジ等により収容が不可になっている場合がありますので、収容可否の判断は実際の自動車の寸法・重量を確認して下さい。(2015年以前の旧モデルでも同様です。)



2.セミハイルーフ車(全高=1,850mm以下)

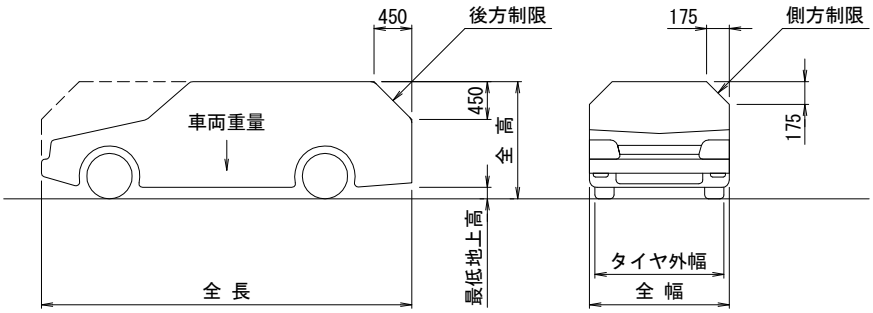
装置型式 / 車サイズ	中型セミハイルーフ車			大型セミハイルーフ車			大型セミハイルーフ車		
	M-F 型 { M-FG型 }			W-F 型 { W-FG型 }			Z-F 型		
		EV※1	EV※2		EV※1	EV 2		EV※1	EV 2
全 長 (mm以下)	5,050	4,650	4,650	5,300	4,900	4,900	5,300	4,900	4,900
全 幅 (mm以下)	1,850	1,850	1,730	1,950	1,950	1,780	2,050	2.050	1,830
全 高 (mm以下)	1,850								
タイヤ外幅(mm以下)	1,815	1,815	1,695	1,865	1,865	1,745	1,915	1,915	1,795
車両重量 (kg以下)	2,050 { 2,400 }						2,400		
最大重量 (kg以下)	2,150 { 2,500 }						2,500		
最低地上高(mm以上)	120								
適用車種の例	トヨタ エスティマ トヨタ プリウスα トヨタ bB 日産 キューブ 日産 エクストレイル ホンダ ステップワゴン マツダ CX-5 スズキ ワゴンR(軽) ダイハツ ムーヴ(軽)			マツダ MPV **トヨタランドクルーザープラド** メルセデスベンツ GLK ボルボ XC70 フォード クーガ			レンジローバー イヴォーク ＢＭＷ X3 ＢＭＷ X5		
ＥＶ車種	三菱 i-MiEV			三菱 i-MiEV			三菱 i-MiEV		

注1) { } は重量車仕様を示します。

注2) EV※1　充電口が前面 又は 後面にある車種

EV※2　充電口が側面にある車種

注3) 適用車種は、2016年 1月時点で日本国内において販売されているモデルを参考としています。同じ車名でも、モデルチェンジ等により収容が不可になっている場合がありますので、収容可否の判断は実際の自動車の寸法・重量を確認して下さい。(2015年以前の旧モデルでも同様です。)

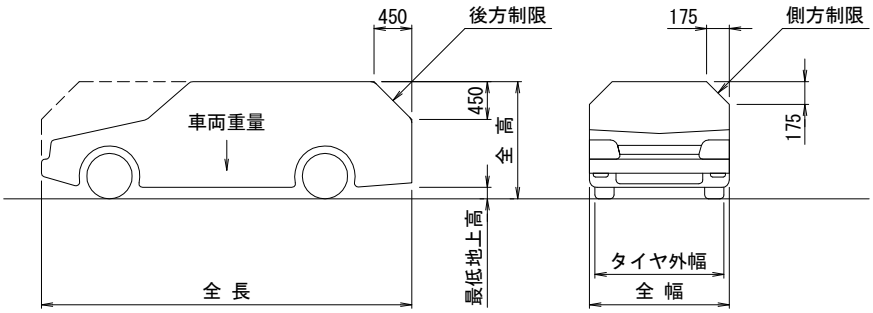


3.ハイルーフ車(全高=2,000mm以下)

装置型式 / 車サイズ	中型ハイルーフ車			大型ハイルーフ車			大型ハイルーフ車		
	M-GH 型			W-GH 型			Z-H 型		
		EV※1	EV※2		EV※1	EV※2		EV※1	EV※2
全　長　(mm以下)	5,050	4,650	4,650	5,300	4,900	4,900	5,300	4,900	4,900
全　幅　(mm以下)	1,850	1,850	1,730	1,950	1,950	1,780	2,050	2.050	1,830
全　高　(mm以下)	2,000								
タイヤ外幅(mm以下)	1,815	1,815	1,695	1,865	1,865	1,745	1,915	1,915	1,795
車両重量　(kg以下)	2,400								
最大重量　(kg以下)	2,500								
最低地上高(mm以上)	120								
適用車種の例	トヨタ エクスファイア 日産 セレナ 三菱 デリカ D:5 ホンダ バモスホビオ(軽) スズキ エブリイワゴン(軽) ダイハツ アトレーワゴン(軽)			日産 エルグランド 三菱 パジェロ トヨタ アルファード トヨタ ヴェルファイア					
ＥＶ車種	三菱 ミニキャブ MiEV			三菱 ミニキャブ MiEV			三菱 ミニキャブ MiEV		

注1) EV※1　充電口が前面 又は 後面にある車種
　　EV※2　充電口が側面にある車種

注2) 適用車種は、2016年 1月時点で日本国内において販売されているモデルを参考としています。同じ車名でも、モデルチェンジ等により収容が不可になっている場合がありますので、収容可否の判断は実際の自動車の寸法・重量を確認して下さい。(2015年以前の旧モデルでも同様です。)

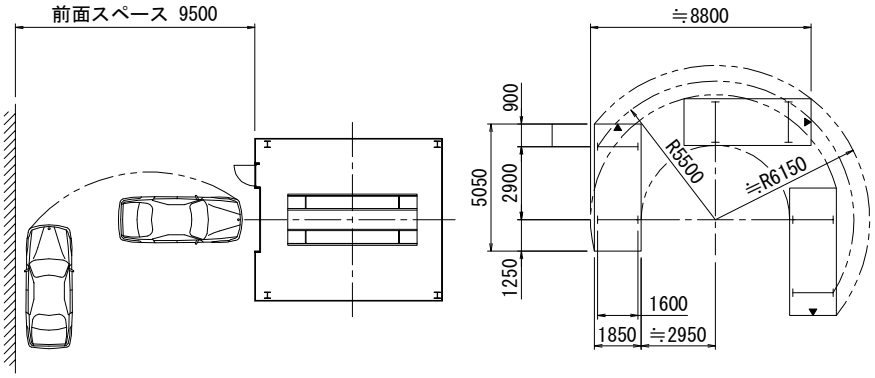


自動車の最小旋回軌跡

本図は、各型式における収容車サイズの自動車が、最小半径で旋回した場合を示します。計画の際には、本図に示す寸法に余裕を見込んで計画する必要があります。

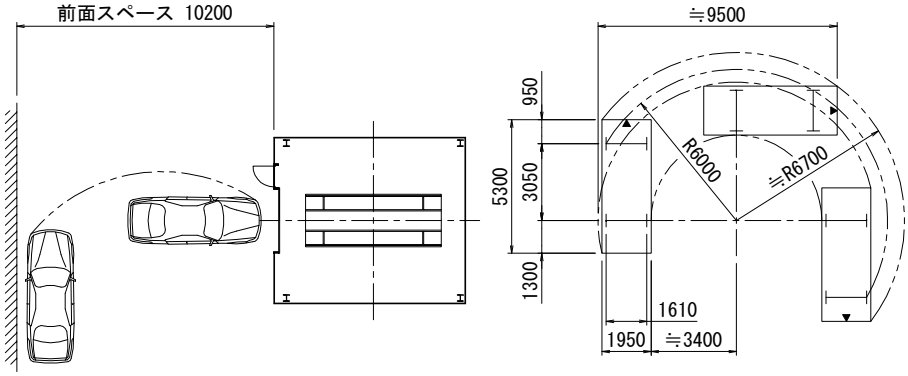
M 型

全長	5,050mm
全幅	1,850mm
ホイールベース	2,900mm
トレッド	1,600mm
最小旋回半径	5,500mm



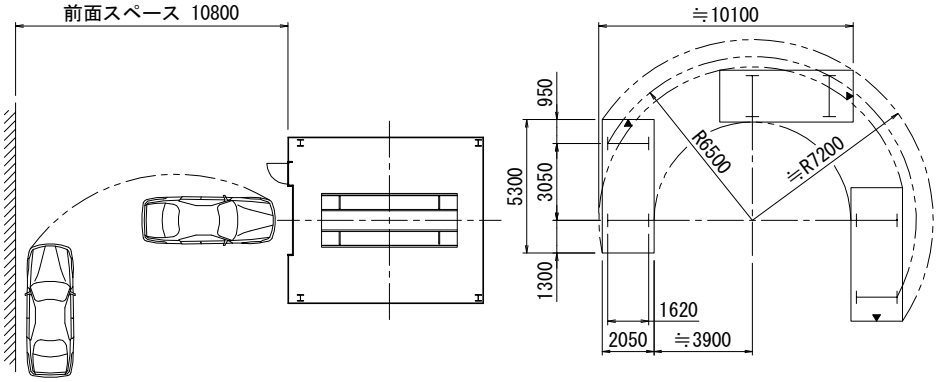
W 型

全長	5,300mm
全幅	1,950mm
ホイールベース	3,050mm
トレッド	1,610mm
最小旋回半径	6,000mm



Z 型

全長	5,300mm
全幅	2,050mm
ホイールベース	3,050mm
トレッド	1,620mm
最小旋回半径	6,500mm



自動車諸元（代表例）と入庫の可否

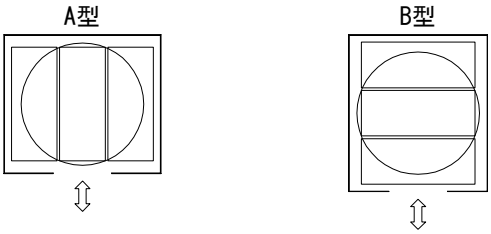
	自動車諸元										入庫可否			備考・特記事項
	メーカ	車　名	グレード	型式	タイプ	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	タイヤ外幅 (mm)	車両重量 (kg)	装置型式 M型	装置型式 W型	装置型式 Z型	
国産車	トヨタ	イスト	150Ｇ（ＣＶＴ）	NCP110	コンパクト	3,930	1,725	1,525	1,685	1,150	○	○	○	
		ポルテ／スペイド	1.5Ｇ（ＣＶＴ）	NSP141	コンパクト	3,995	1,695	1,690	1,660	1,170	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ｂＢ	1.5Ｚ(4ＡＴ)	QNC21	コンパクト	3,795	1,690	1,635	1,645	1,050	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		カローラフィールダー	1.8Ｓ エアロツアラー（ＣＶＴ）	ZRE162G	ワゴン	4,360	1,695	1,465	1,655	1,160	○	○	○	
		プリウス	Ａ ﾌﾟﾚﾐｱﾑﾂｰﾘﾝｸﾞ ｾﾚｸｼｮﾝ(CVT)	ZVW51	ワゴン	4,540	1,760	1,470	1,735	1,390	○	○	○	
		シエンタ	1.5Ｇ（ＣＶＴ）	NSP170G	ミニバン	4,235	1,695	1,675	1,665	1,320	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		エスティマ	ハイブリッドＧ（ＣＶＴ）7人乗り	AHR20W	ミニバン	4,800	1,820	1,760	1,765	1,990	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ノア／ヴォクシー	Ｇ（ＣＶＴ）7人乗り	ZRR80G	ミニバン	4,695	1,695	1,825	1,675	1,610	○Ｆ*	○Ｆ*	○Ｆ*	*一部グレードは全高が1850mmを超えます
		アルファード／ヴェルファイア	3.5ＧＦ(6ＡＴ)	GGH30W	ミニバン	4,915	1,850	1,880	1,830	2,070	×	○Ｈ	○Ｈ	タイヤ外幅、重量オーバー
		プレミオ	2.0Ｇ（ＣＶＴ）	ZRT261	セダン	4,595	1,695	1,475	1,675	1,270	○	○	○	
		カムリ	ハイブリッドＧ（ＣＶＴ）	AEXNB	セダン	4,850	1,825	1,470	1,790	1,540	○	○	○	
		マークＸ	350Ｓ(6ＡＴ)	GRX133	セダン	4,730	1,795	1,435	1,770	1,550	○	○	○	
		クラウン	3.5 アスリートＧ(8ＡＴ)	GRS214	セダン	4,895	1,800	1,460	1,770	1,650	○	○	○	
		センチュリー	5000 フロアシフト(6ＡＴ)	GZG50	セダン	5,270	1.890	1,475	1,800	2,050	×	○	○	全長、全幅オーバー
		トヨタ８６	ＧＴ リミテッド(6ＡＴ)	ZN6	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,240	1,775	1,300	1,755	1,250	○	○	○	
		ハリアー	ハイブリッドプレミアム（ＣＶＴ）	ANXGB	ＳＵＶ	4,720	1,835	1,690	1,805	1,770	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
	ＬＥＸＵＳ	ＩＳ	350(6ＡＴ)	GSE31	セダン	4,665	1,810	1,430	1,775	1,630	○	○	○	
		ＧＳ	450h バージョンＬ（ＣＶＴ）	GWL10	セダン	4,880	1,840	1,455	1,825	1,860	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		ＬＳ	600hL ｴｸｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾊﾟｯｹｰｼﾞ 4WD(CVT)	UVF46	セダン	5,180	1,875	1,475	1,850	2,380	×	○*	○	全長、全幅、タイヤ外幅、重量オーバー *重量車仕様のみ入庫可能
		ＲＣ	Ｆ(8ＡＴ)	USC10	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,705	1,850	1,390	1,835	1,790	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		ＲＸ	450h バージョンＬ（ＣＶＴ）	GYL20W	ＳＵＶ	4,890	1,885	1,710	1,875	2,070	×	×	○Ｆ	タイヤ外幅、重量オーバー
		ＬＸ	570	URJ201	ＳＵＶ	5,065	1,980	1,910	1,930	2,720	×	×	×	タイヤ外幅、重量オーバー
	日　産	キューブ	15Ｇ（ＣＶＴ）	Z12	コンパクト	3,890	1,695	1,680	1,675	1,210	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ノート	メダリスト（ＣＶＴ）	E12	コンパクト	4,100	1,695	1,525	1,670	1,090	○	○	○	
		リーフ	Ｇ（ＣＶＴ）	ZE0	ＥＶ	4,445	1,770	1,545	1,745	1,520	○*	○*	○*	*ｵﾌﾟｼｮﾝで電気自動車対応可
		ラフェスタ	**ハイウェイスター(6ＡＴ)**	VPS	ミニバン	4,615	1,750	1,615	1,725	1,500	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		セレナ	**ハイウェイスターＳハイブリッド(ＣＶＴ)**	CC25	ミニバン	4,770	1,735	1,865	1,680	1,660	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
		エルグランド	350 ハイウェイースター（ＣＶＴ）	PE52	ミニバン	4,915	1,850	1,815	1,825	1,900	×	○Ｆ	○Ｆ	タイヤ外幅オーバー
		ティアナ	ＸＶ（ＣＶＴ）	L33	セダン	4,880	1,830	1,470	1,800	1,470	○	○	○	
		スカイライン	200ＧＴ－ｔタイプＳＰ(7ＡＴ)	ZV37	セダン	4,800	1,820	1,450	1,800	1,680	○	○	○	
		フーガ	ハイブリッドＶＩＰ(7ＡＴ)	HY51	セダン	4,980	1,845	1,510	1,820	1,880	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		シーマ	ハイブリッドＶＩＰ Ｇ(7ＡＴ)	HGY51	セダン	5,120	1,845	1,510	1,815	1,950	×	○	○	全長オーバー
		スカイラインクーペ	370ＧＴ Type ＳＰ(7ＡＴ)	CKV36	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,655	1,820	1,390	1,805	1,670	○	○	○	
		フェアレディＺ	ニスモ(6ＭＴ)	Z34	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,330	1,870	1,315	1,865	1,530	×	○	○	全幅、タイヤ外幅オーバー
		ジューク	ニスモＲＳ（ＣＶＴ）	NF15	ＳＵＶ	4,165	1,770	1,570	1,770	1,410	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		エクストレイル	**20X エクストリーマーX 3列 4WD(ＣＶＴ)**	NT32	ＳＵＶ	4,670	1,820	1,715	1,800	1,580	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		デイズ	ハイウェイスターＧターボ（ＣＶＴ）	B21W	軽自動車	3,395	1,475	1,620	1,465	880	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
	ホンダ	フィットハイブリッド	Ｓパッケージ(7セミＡＴ)	GP5	コンパクト	3,955	1,695	1,525	1,660	1,140	○	○	○	
		フリード	ハイブリッド（ＣＶＴ）	GP3	ワゴン	4,215	1,695	1,715	1,665	1,390	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ステップワゴン	ＧＥＸ（ＣＶＴ）	RP1	ミニバン	4,690	1,695	1,815	1,690	1,670	○Ｆ*	○Ｆ*	○Ｆ*	*一部グレードは全高が1850mmを超えます
		オデッセイ	アブソルート ＥＸ（ＣＶＴ）	RC1	ミニバン	4,830	1,820	1,695	1,785	1,820	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		アコード	ハイブリッドＥＸ（ＣＶＴ）	CR6	セダン	4,915	1,850	1,465	1,810	1,630	○	○	○	
		レジェンド	ハイブリッド(7ＡＴ)	KC2	セダン	4,995	1,890	1,480	1,875	1,980	×	×	○	タイヤ外幅オーバー
		ＣＲ－Ｚ	α（ＣＶＴ）	ZF1	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,075	1,740	1,395	1,710	1,130	○	○	○	
		ヴェゼル	ハイブリッド Ｚ(7セミＡＴ)	RU3	ＳＵＶ	4,295	1,770	1,605	1,755	1,300	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ＣＲ－Ｖ	24Ｇ(5ＡＴ)	RM4	ＳＵＶ	4,565	1,820	1,690	1,790	1,540	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		Ｎ ＢＯＸ	スラッシュ Ｘ（ＣＶＴ）	JF1	軽自動車	3,395	1,475	1,670	1,460	930	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
	三菱	デリカＤ：２	**カスタムハイブリッド MV 4WD(ＣＶＴ)**	MB36S	ワゴン	3,710	1,620	1,765	1,595	990	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		デリカＤ：５	Ｄ プレミアム4ＷＤ(6ＡＴ)	CV1W	ミニバン	4,730	1,795	1,870	1,765	1,880	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
		プラウディア	370ＶＩＰ(7ＡＴ)	BKY51	セダン	4,945	1,845	1,510	1,820	1,760	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		ＲＶＲ	ローデスト Ｍ（ＣＶＴ）	GA4W	ＳＵＶ	4,295	1,770	1,615	1,740	1,350	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		アウトランダー	24Ｇナビパッケージ4ＷＤ（ＣＶＴ）	GG2W	ＳＵＶ	4,695	1,800	1,710	1,765	1,570	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		パジェロ	**ロングSUPER EXCEED ディーゼル(5ＡＴ)**	V98W	ＳＵＶ	4,900	1,875	1,870	1,835	2,290	×	○Ｈ	○Ｈ	全幅、タイヤ外幅オーバー
		ｅＫワゴン	カスタムＧ（ＣＶＴ）	B11W	軽自動車	3,395	1,475	1,620	1,455	850	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		タウンボックス	Ｇスペシャル(4ＡＴ)	DS71W	軽自動車	3,395	1,475	1,910	1,465	990	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	

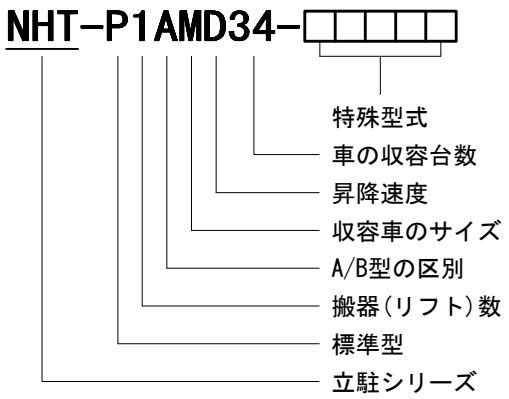
	自動車諸元										入庫可否			備考・特記事項
	メーカ	車　名	グレード	型式	タイプ	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	タイヤ外幅 (mm)	車両重量 (kg)	装置型式 M型	装置型式 W型	装置型式 Z型	
国産車	マツダ	アクセラスポーツ	ＸＤ(6ＡＴ)	BM2FS	ワゴン	4,460	1,795	1,470	1,775	1,450	○	○	○	
		アテンザワゴン	ＸＤ Ｌパッケージ(6ＡＴ)	GJ2FW	ワゴン	4,805	1,840	1,480	1,820	1,550	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		アテンザセダン	ＸＤ Ｌパッケージ(6ＡＴ)	GJ2FP	セダン	4,865	1,840	1,450	1,820	1,530	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		プレマシー	20Ｓ スカイアクティブ(6ＡＴ)	CWEFW	ミニバン	4,585	1,750	1,615	1,725	1,500	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ビアンテ	グランツ スカイアクティブ(6ＡＴ)	CCFFW	ミニバン	4,715	1,770	1,835	1,735	1,660	○Ｆ*	○Ｆ*	○Ｆ*	*一部グレードは全高が1850mmを超えます
		ＭＰＶ	23Ｓ Ｌパッケージ(5ＡＴ)	LY3P	ミニバン	4,860	1,850	1,685	1,825	1,770	×	○Ｆ	○Ｆ	タイヤ外幅オーバー
		ロードスター	Ｓ レザーパッケージ(6ＡＴ)	ND5RC	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	3,915	1,735	1,235	1,700	1,060	○	○	○	
		ＣＸ－３	**ＸＤ ツーリング Ｌパッケージ4WD(6ＡＴ)**	DK5AW	ＳＵＶ	4,275	1,765	1,550	1,740	1,330	○*	○*	○*	*装備により全高が1550mmを超える場合があります
		ＣＸ－５	ＸＤ Ｌパッケージ4WD(6ＡＴ)	KE2AW	ＳＵＶ	4,540	1,840	1,705	1,810	1,640	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
	スバル	トレジア	1.5i (ＣＶＴ)	NSP120X	コンパクト	3,990	1,695	1,585	1,660	1,110	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		インプレッサスポーツ	2.0i アイサイト4WD(ＣＶＴ)	GP7	ワゴン	4,420	1,740	1,465	1,720	1,350	○	○	○	
		レヴォーグ	2.0ＧＴ-Ｓ アイサイト(ＣＶＴ)	VMG	ワゴン	4,690	1,780	1,490	1,765	1,560	○	○	○	
		ＷＲＸ	Ｓ4 2.0ＧＴ-Ｓ アイサイト(ＣＶＴ)	VAG	セダン	4,595	1,795	1,475	1,765	1,540	○	○	○	
		レガシィＢ４	リミテッド(ＣＴＶ)	BN9	セダン	4,795	1,840	1,500	1,820	1,530	×	○	○	タイヤ外幅オーバー
		ＢＲＺ	Ｓ(6ＡＴ)	ZC6	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨ	4,240	1,775	1,320	1,755	1,250	○	○	○	
		ＸＶ	2.0i-Ｌ EyeSight(ＣＴＶ)	GPE	ＳＵＶ	4,450	1,780	1,550	1,765	1,410	○*	○*	○*	*装備により全高が1550mmを超える場合があります
		フォレスター	2.0Ｓ リミテッド(ＣＴＶ)	SJ5	ＳＵＶ	4,595	1,795	1,715	1,775	1,510	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		レガシィアウトバック	リミテッド(ＣＴＶ)	BS9	ＳＵＶ	4,815	1,840	1,605	1,815	1,580	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ディアスワゴン	ＬＳ(4ＡＴ)	S321N	軽自動車	3,395	1,475	1,875	1,460	980	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
	スズキ	ソリオ	バンデッド(ＣＶＴ)	MA36S	コンパクト	3,710	1,625	1,745	1,600	950	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		スイフト	ＸＳ－ＤＪＥ(ＣＶＴ)	ZC72S	コンパクト	3,850	1,695	1,500	1,670	1,000	○	○	○	
		ランディ	2.0Ｇ(ＣＶＴ)	SC26	ミニバン	4,685	1,695	1,865	1,680	1,660	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
		エスクード	2.4 4WD(4ＡＴ)	TDA4W	ＳＵＶ	4,300	1,810	1,695	1,785	1,620	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ＭＲワゴン	ウイットＴＳ(ＣＶＴ)	MF33S	軽自動車	3,395	1,475	1,625	1,460	840	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ワゴンＲ	スティングレーＴ(ＣＶＴ)	MH34S	軽自動車	3,395	1,475	1,660	1,460	820	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ハスラー	Ｘ ターボ 4WD(ＣＶＴ)	MH31S	軽自動車	3,395	1,475	1,665	1,455	870	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ジムニー	ＸＣ(5ＭＴ)	JB23W	軽自動車	3,395	1,475	1,715	1,450	990	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		エブリイワゴン	ＰＺ ターボ標準ルーフ(4ＡＴ)	DA17W	軽自動車	3,395	1,475	1,815	1,455	950	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		エブリイワゴン	ＪＰ ターボハイルーフ4WD(4ＡＴ)	DA17W	軽自動車	3,395	1,475	1,910	1,455	980	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
	ダイハツ	ブーン	1.0ＣＬ リミテッド(ＣＶＴ)	M600S	コンパクト	3,640	1,665	1,535	1,630	910	○	○	○	
		ムーヴ	カスタムＲＳ(ＣＶＴ)	LA150S	軽自動車	3,395	1,475	1,630	1,470	850	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		キャスト	アクティバG ターボ ＳＡⅡ(ＣＶＴ)	LA250S	軽自動車	3,395	1,475	1,630	1,460	840	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		タント	カスタム ＲＳ(ＣＶＴ)	L600S	軽自動車	3,395	1,475	1,750	1,455	960	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		ウェイク	Ｇ(ＣＶＴ)	L700S	軽自動車	3,395	1,475	1,835	1,470	1,020	○Ｆ	○Ｆ	○Ｆ	
		アトレーワゴン	**カスタムターボＲＳ リミテッド(ＣＶＴ)**	S321G	軽自動車	3,395	1,475	1,875	1,460	990	○Ｈ	○Ｈ	○Ｈ	
		コペン	セロ(ＣＶＴ)	LA400K	軽自動車	3,395	1,475	1,280	1,475	870	×	×	×	最低地上高不足
輸入車	アウディ	Ａ４	2.0 ＴＦＳＩクワトロ(7セミＡＴ)	8KCDNF	セダン	4,705	1,825	1,440	1,775	1,510	○	○	○	
		Ａ５スポーツバック	2.0 ＴＦＳＩクワトロ(6セミＡＴ)	8TCDNL	セダン	4,730	1,855	1,390	1,835	1,710	×	○	○	全幅、タイヤ外幅オーバー
		Ａ８	4.0 ＴＦＳＩクワトロ(8ＡＴ)	4HCTGF	セダン	5,145	1,950	1,465	1,895	2,040	×	×	○	タイヤ外幅オーバー
		Ｑ５	2.0 ＴＦＳＩクワトロ(8ＡＴ)	8RCNCF	ＳＵＶ	4,630	1,900	1,660	1,850	1,880	×	○Ｆ	○Ｆ	全幅、タイヤ外幅オーバー
	フォルクスワーゲン	ゴルフ	ＴＳＩコンフォートライン(7セミＡＴ)	AUCJZ	コンパクト	4,265	1,800	1,460	1,750	1,240	○*	○*	○*	*一部グレードは最低地上高さが120mm以下です
		パサートヴァリアント	ＴＳＩハイライン(7セミＡＴ)	3CCZE	ワゴン	4,775	1,830	1,510	1,800	1,510	○	○	○	
		トゥアレグ	Ｖ6(6ＡＴ)	7PCGRS	ＳＵＶ	4,815	1,945	1,745	1,925	2,190	×	×	×	タイヤ外幅オーバー
	ＢＭＷ	３シリーズ	320i(8ＡＴ)	3B20	セダン	4,625	1,800	1,440	1,775	1,500	○	○	○	
		５シリーズ	550iラグジュアリー(8AT)	FR44	セダン	4,910	1,860	1,475	1,900	1,960	×	×	○	タイヤ外幅オーバー
		Ｘ３	xDrive 20d M Sport(8AT)	WY20	ＳＵＶ	4,655	1,900	1,675	1,875	1,870	×	×	○Ｆ	タイヤ外幅オーバー
		Ｘ５	xDrive 35d SE(8AT)	KS30S	ＳＵＶ	4,910	1,940	1,760	1,905	2,200	×	×	○Ｆ	タイヤ外幅オーバー
	メルセデスベンツ	Ｃクラス	Ｃ200 アバンギャルド(7ＡＴ)	205042C	セダン	4,690	1,810	1,435	1,790	1,540	○	○	○	
		Ｅクラス	Ｅ550 アバンギャルド(7ＡＴ)	212073	セダン	4,890	1,855	1,455	1,850	1,920	×	○	○	
		Ｓクラス	Ｓ550 ロング(7ＡＴ)	222182	セダン	5,250	1,900	1,495	1,880	2,180	×	×	○	

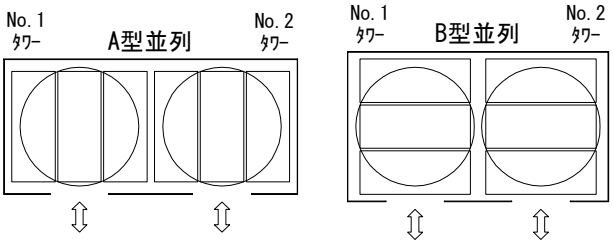
・上表の寸法は「最新国産＆輸入車全モデル購入ガイド2016 JAF出版社」により調査したもので、同一車名でも発売時期やグレードによって寸法が異なる場合があります。
・「入庫可否」の記号は、○：入庫可、○Ｆ：入庫可(セミハイルーフ車)、○Ｈ：入庫可(ハイルーフ車)、○*：入庫可(特記事項あり)、×：入庫不可を示します。
・上表の寸法はアンテナやルーフレール、ミラー、スポイラー等の付属品の寸法は含みません。
・輸入車については、最低地上高さを考慮しておりません。
・改造車については、考慮しておりません。
・上表で、○印がついていてもグレードや仕様変更等により、寸法が異なり入庫できない場合があります。
・入庫の可否は、必ず実車でご確認下さい。

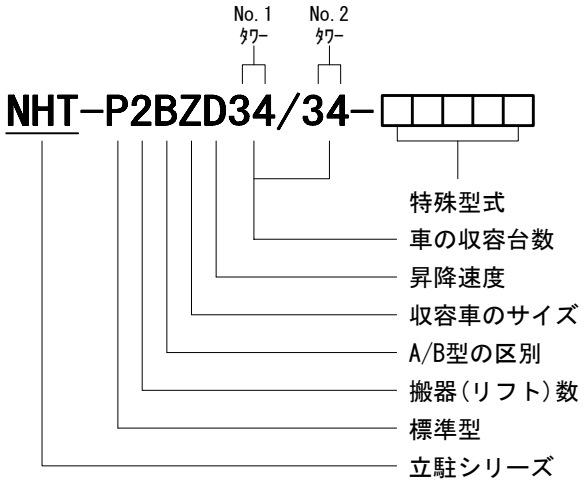
駐車装置 型式表示

標準モデル







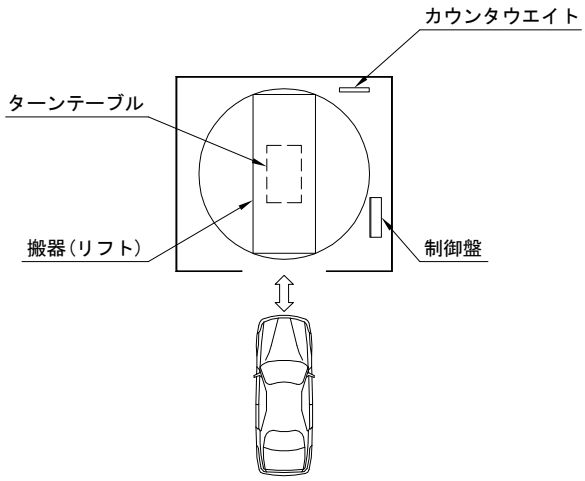


注）B型のみ斜め入出庫型も対応できます。

A型とB型の特徴

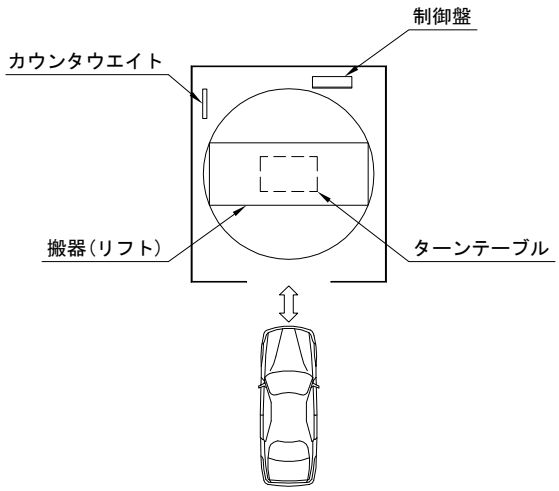
A型

搬器と同一方向に車が入出庫します。間口が広く、奥行きのない敷地にご利用下さい。



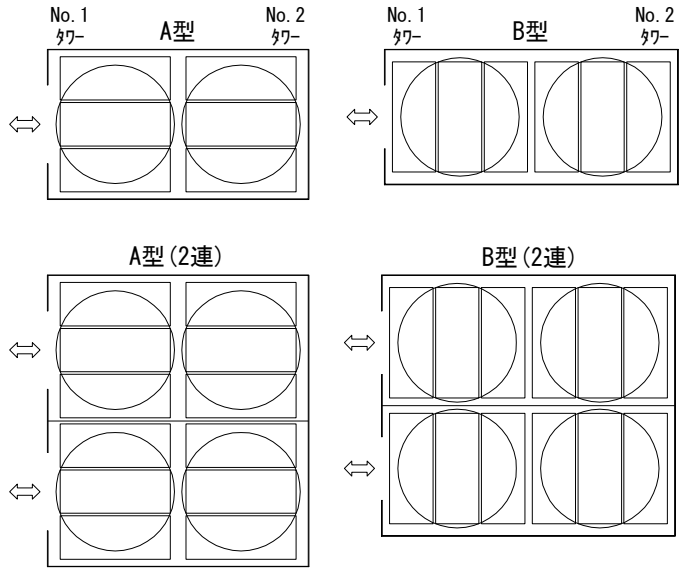
B型

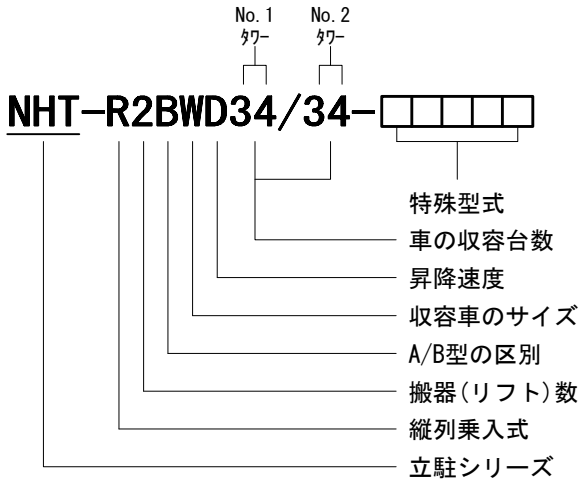
搬器と直角方向に車が入出庫します。間口が狭く、奥行きのある敷地にご利用下さい。



縦列モデル

縦列乗入式(R2)



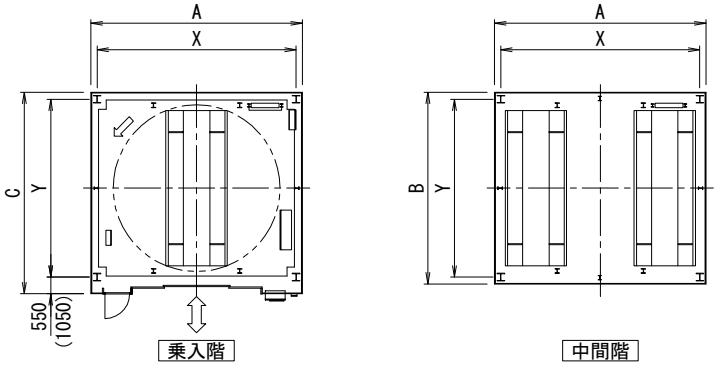


特殊型式

B　：ビル組込コラムレス型
D　：ワイヤドラム方式
F　：セミハイルーフ車
G　：重量車
H　：ハイルーフ車
I　：中間乗入式
P　：通り抜け式
R　：駐車室高さピッチ 1610mm
S　：旋回ベアリング型ターンテーブル 1.5kW又は0.75kW
T　：ターンテーブル搭載型
Y　：寒冷地仕様
Z　：旋回ベアリング型ターンテーブル 0.75kW
・BF：バリアフリー対応（最下層4台まで）
・EV：電気自動車対応
・RP：縦列乗入式NO.1棟車路用パレット方式(B型のみ)
-S　：ビル組込鉄塔型(ブレースなし)
-SB：ビル組込鉄塔型(ブレースあり)

タワー平面寸法

標準モデル　P1A型

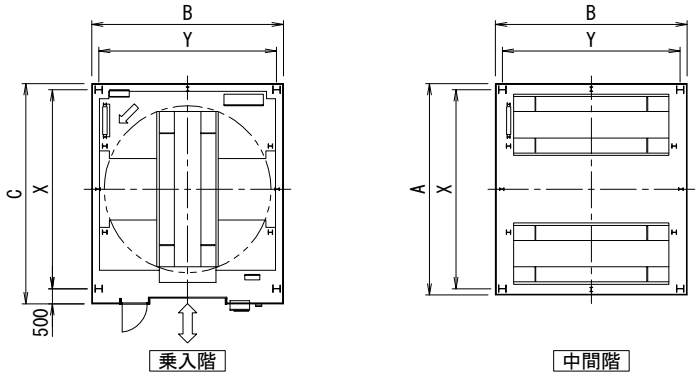


単位：mm

立駐型式	収容台数(乗用車)40台以下			収容台数(乗用車)42～48台			収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	6,340	6,590		6,340	6,590		6,530	6,650	
C寸法	6,660 (7,160)	6,910 (7,410)		6,660 (7,160)	6,910 (7,410)		6,820 (7,320)	6,940 (7,440)	
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		6,010	6,130	

バリアフリー時は(　)寸法

P1B型

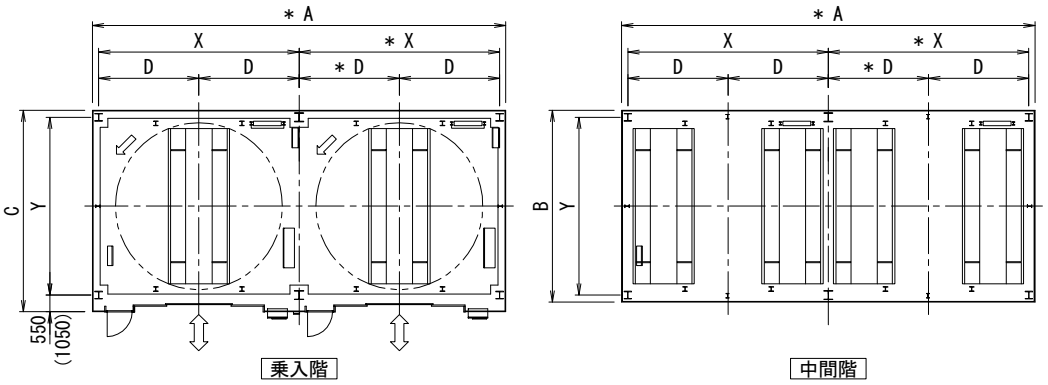


立駐型式	収容台数(乗用車)40台以下			収容台数(乗用車)42～48台			収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	6,340	6,590		6,340	6,590		6,530	6,650	
C寸法	7,285	7,435	7,585	7,310	7,460	7,610	7,340	7,490	7,640
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		6,010	6,130	

バリアフリー時も同寸法

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) 上記収容台数を超えるご計画の場合は、弊社にご相談下さい。

標準モデル　P2A型

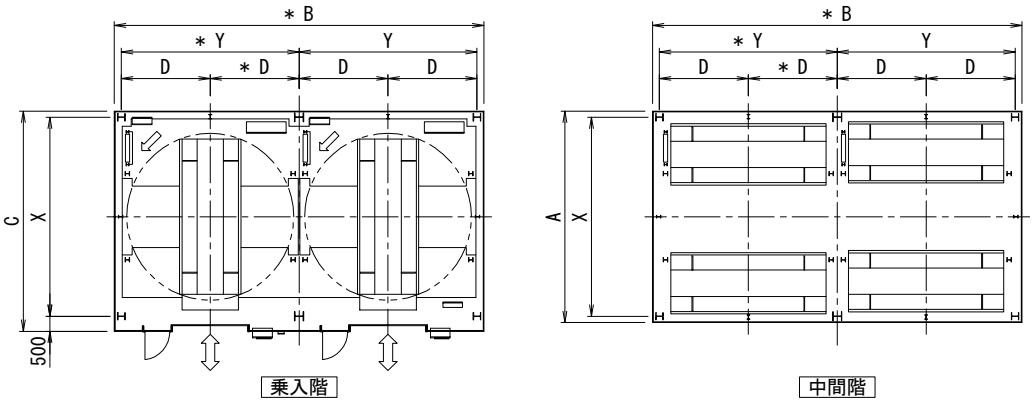


単位：mm

立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)44台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)46,48台			1基当たりの収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	13,670	13,970	14,270	13,720	14,020	14,320	13,780	14,080	14,380
B寸法	6,340	6,590		6,400	6,650		6,530	6,650	
C寸法	6,660 (7,160)	6,910 (7,410)		6,690 (7,190)	6,940 (7,440)		6,820 (7,320)	6,940 (7,440)	
X通り芯間寸法	6,630	6,780	6,930	6,630	6,780	6,930	6,630	6,780	6,930
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		6,010	6,130	
D寸法	3,315	3,390	3,465	3,315	3,390	3,465	3,315	3,390	3,465

バリアフリー時は(　)寸法

P2B型



単位：mm

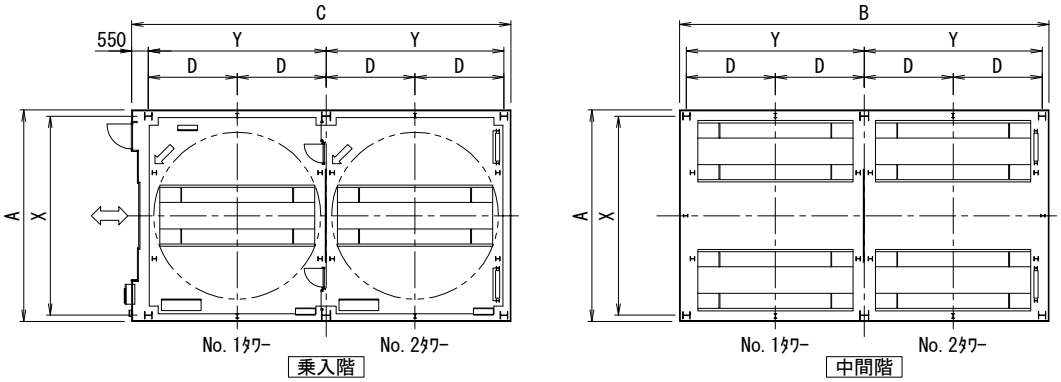
立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)38台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)40,42台			1基当たりの収容台数(乗用車)44～50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	12,220	12,720		12,220	12,720		12,220	12,720	
C寸法	7,285	7,435	7,585	7,310	7,460	7,610	7,340	7,490	7,640
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		5,880	6,130	
D寸法	2,940	3,065		2,940	3,065		2,940	3,065	

バリアフリー時も同寸法

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) ＊：間仕切壁で区画する場合は ＊ 寸法を100mm拡げて計画願います。
注4) 上記収容台数を超えるご計画の場合は、弊社にご相談下さい。

縦列モデル

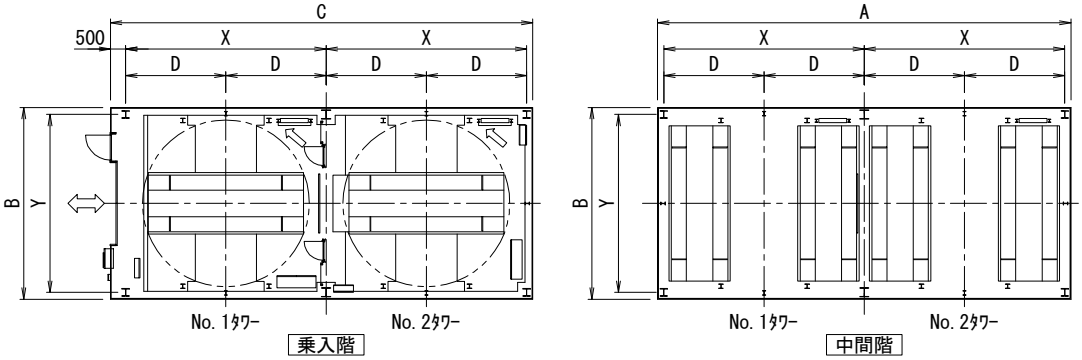
縦列乗入式／A型(R2A)



単位：mm

立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)38台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)40,42台			1基当たりの収容台数(乗用車)44～50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	12,200	12,720		12,200	12,720		12,200	12,720	
C寸法	12,540	13,040		12,540	13,040		12,540	13,040	
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		5,880	6,130	
D寸法	2,940	3,065		2,940	3,065		2,940	3,065	

縦列乗入式／B型(R2B)



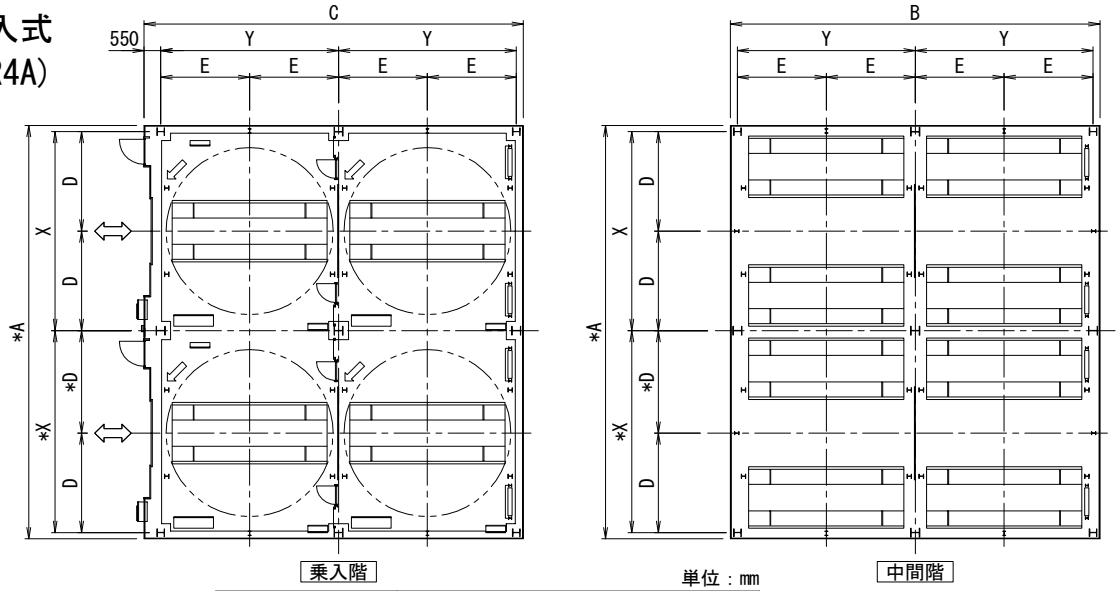
単位：mm

立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)44台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)46,48台			1基当たりの収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	13,670	13,970	14,270	13,720	14,020	14,320	13,720	14,020	14,320
B寸法	6,340	6,590		6,400	6,650		6,580	6,650	
C寸法	13,965	14,265	14,565	13,990	14,290	14,590	13,990	14,290	14,590
X通り芯間寸法	6,630	6,780	6,930	6,630	6,780	6,930	6,630	6,780	6,930
Y通り芯間寸法	5,880	6,130		5,880	6,130		6,060	6,130	
D寸法	3,315	3,390	3,465	3,315	3,390	3,465	3,315	3,390	3,465

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) 上記収容台数を超えるご計画の場合は、弊社にご相談下さい。

縦列モデル

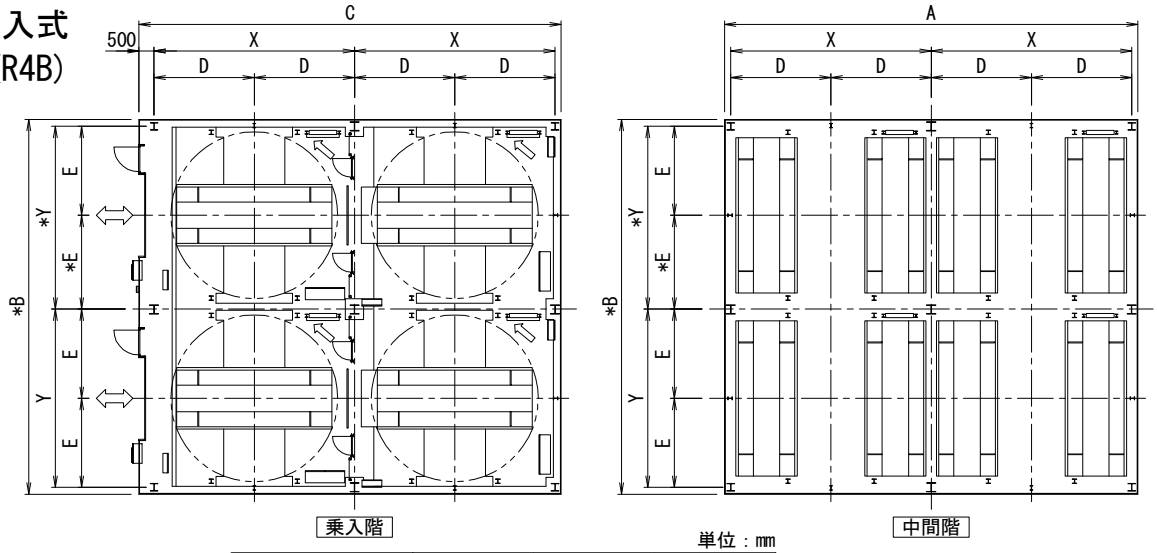
縦列乗入式／A型(R4A)



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	13,780	14,080	14,380
B寸法	12,280	12,780	
C寸法	12,570	13,070	
X通り芯間寸法	6,630	6,780	6,930
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	
D寸法	3,315	3,390	3,465
E寸法	2,940	3,065	

縦列乗入式／B型(R4B)



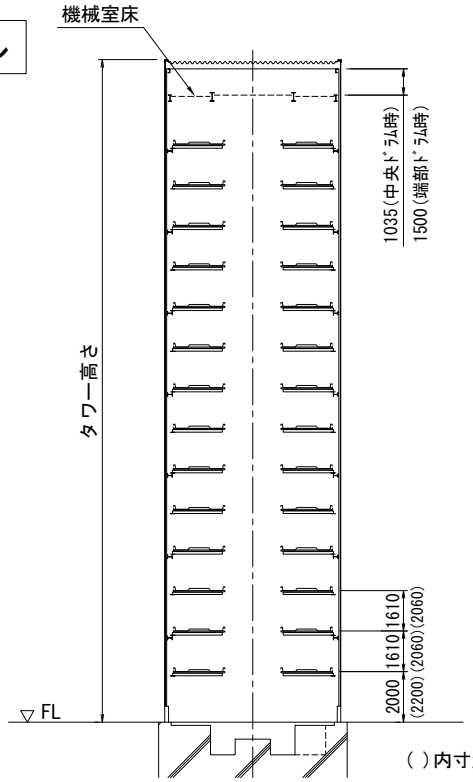
単位：mm

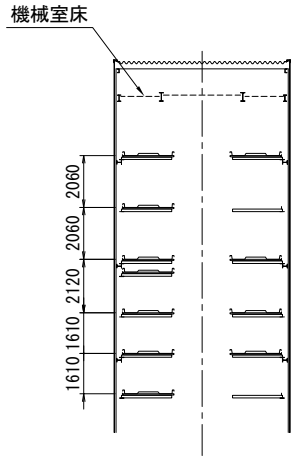
立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	13,780	14,080	14,380
B寸法	12,280	12,780	
C寸法	14,020	14,320	14,620
X通り芯間寸法	6,630	6,780	6,930
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	
D寸法	3,315	3,390	3,465
E寸法	2,940	3,065	

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) ＊：間仕切壁で区画する場合は*寸法を100mm拡げて計画願います。

車の収容台数とタワー高さ

標準モデル





( )内寸法はハイルーフ車対応型を示します。

クイックエントリーシステム

乗用車及びハイルーフ車混載立駐において、入庫待機状態であれば、乗用車でもハイルーフ車でも、パレット入替なしで入庫が可能となる方式です。計画時にご相談下さい。

収容台数／タワー高さ早見表(参考)

標準モデル

太線より上は(φ720中央ドラム)、太線より下は(φ720端部ドラム)　　単位：mm

台数		ハイルーフ車										
		0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20
乗用車	20	19,845	22,105	24,165	26,225	28,285	30,345	32,405	34,465	36,525	38,585	41,110
	22	21,455	23,715	25,775	27,835	29,895	31,955	34,015	36,075	38,135	40,660	42,720
	24	23,065	25,325	27,385	29,445	31,505	33,565	35,625	37,685	40,210	42,270	44,330
	26	24,675	26,935	28,995	31,055	33,115	35,175	37,235	39,760	41,820	43,880	−
	28	26,285	28,545	30,605	32,665	34,725	36,785	39,310	41,370	43,430	−	−
	30	27,895	30,155	32,215	34,275	36,335	38,395	40,920	42,980	−	−	−
	32	29,505	31,765	33,825	35,885	37,945	40,470	42,530	44,590	−	−	−
	34	31,115	33,375	35,435	37,495	40,020	42,080	44,140	−	−	−	−
	36	32,725	34,985	37,045	39,570	41,630	43,690	−	−	−	−	−
	38	34,335	36,595	39,120	41,180	43,240	−	−	−	−	−	−
	40	35,945	38,205	40,730	42,790	44,850	−	−	−	−	−	−
	42	37,555	40,280	42,340	44,400	−	−	−	−	−	−	−

例：乗用車=24台とハイルーフ車=6台を収容する場合
上の列で6、左の行で24と交差する所=29,445(mm)がタワー高さとなります。

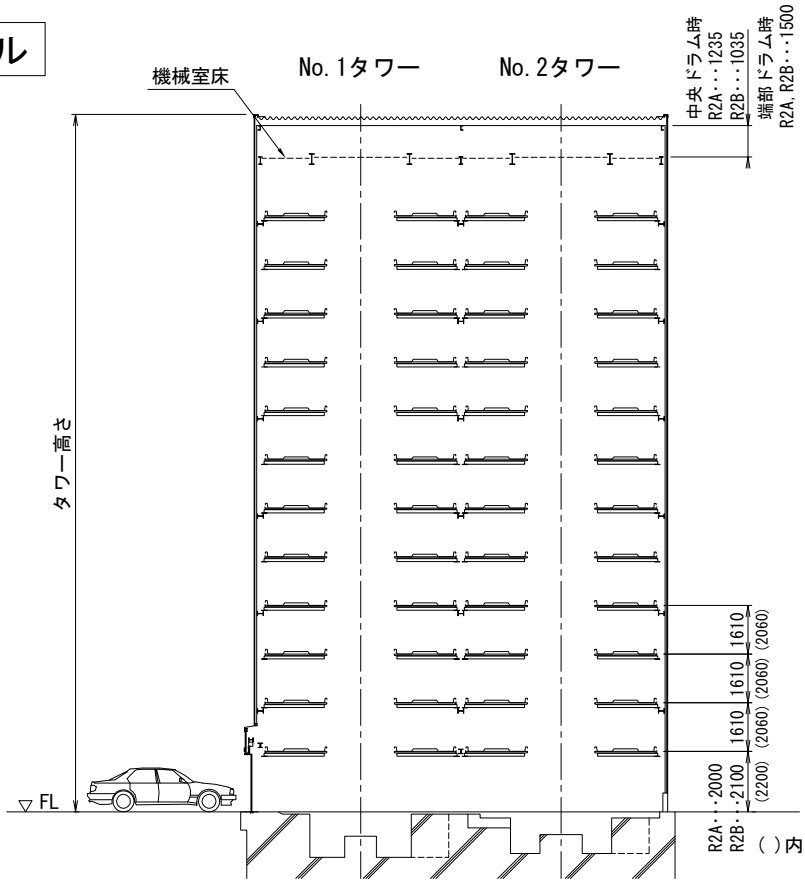
クイックエントリーシステム

太線より上は(φ720中央ドラム)、太線より下は(φ720端部ドラム)　　単位：mm

台数		ハイルーフ車										
		3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23
乗用車	17	21,005	23,065	25,125	27,185	29,245	31,305	33,365	35,425	37,485	40,010	42,070
	19	22,615	24,675	26,735	28,795	30,855	32,915	34,975	37,035	39,560	41,620	43,680
	21	24,225	26,285	28,345	30,405	32,465	34,525	36,585	38,645	41,170	43,230	−
	23	25,835	27,895	29,955	32,015	34,075	36,135	38,195	40,720	42,780	44,840	−
	25	27,445	29,505	31,565	33,625	35,685	37,745	40,270	42,330	44,390	−	−
	27	29,055	31,115	33,175	35,235	37,295	39,820	41,880	43,940	−	−	−
	29	30,665	32,725	34,785	36,845	39,370	41,430	43,490	−	−	−	−
	31	32,275	34,335	36,395	38,455	40,980	43,040	−	−	−	−	−
	33	33,885	35,945	38,005	40,530	42,590	44,650	−	−	−	−	−
	35	35,495	37,555	40,080	42,140	44,200	−	−	−	−	−	−
	37	37,105	39,630	41,690	43,750	−	−	−	−	−	−	−
	39	39,180	41,240	43,300	−	−	−	−	−	−	−	−

例：乗用車=21台とハイルーフ車=9台を収容する場合
上の列で9、左の行で21と交差する所=30,405(mm)がタワー高さとなります。

縦列モデル



( )内寸法はハイルーフ車対応型を示します。

収容台数／タワー高さ早見表(参考)

縦列乗入式／A型(R2A)

太線より上は(φ720中央ドラム)、太線より下は(φ720端部ドラム)　　単位：mm

台数			ハイルーフ車(No.1タワー／No.2タワー)										
			0／0	2／2	4／4	6／6	8／8	10／10	12／12	14／14	16／16	18／18	20／20
乗用車	18	18	18,435	20,695	22,755	24,815	26,875	28,935	30,995	33,055	35,115	37,175	39,500
	20	20	20,045	22,305	24,365	26,425	28,485	30,545	32,605	34,665	36,725	38,785	41,110
	22	22	21,655	23,915	25,975	28,035	30,095	32,155	34,215	36,275	38,335	40,660	42,720
	24	24	23,265	25,525	27,585	29,645	31,705	33,765	35,825	37,885	40,210	42,270	44,330
	26	26	24,875	27,135	29,195	31,255	33,315	35,375	37,435	39,760	41,820	43,880	－
	28	28	26,485	28,745	30,805	32,865	34,925	36,985	39,310	41,370	43,430	－	－
	30	30	28,095	30,355	32,415	34,475	36,535	38,595	40,920	42,980	－	－	－
	32	32	29,705	31,965	34,025	36,085	38,145	40,470	42,530	44,590	－	－	－
	34	34	31,315	33,575	35,635	37,695	40,020	42,080	44,140	－	－	－	－
	36	36	32,925	35,185	37,245	39,570	41,630	43,690	－	－	－	－	－

No.1タワー　No.2タワー

例：No.1タワーに乗用車=24台とハイルーフ車=6台を収容する場合
上の列で6、左の行で24と交差する所=29,645(mm)がタワー高さとなります。

縦列乗入式／B型(R2B)

太線より上は(φ720中央ドラム)、太線より下は(φ720端部ドラム)　　単位：mm

台数			ハイルーフ車(No.1タワー／No.2タワー)										
			0／0	2／2	4／4	6／6	8／8	10／10	12／12	14／14	16／16	18／18	20／20
乗用車	18	18	18,335	20,595	22,655	24,715	26,775	28,835	30,895	32,955	35,015	37,075	39,500
	20	20	19,945	22,205	24,265	26,325	28,385	30,445	32,505	34,565	36,625	38,685	41,110
	22	22	21,555	23,815	25,875	27,935	29,995	32,055	34,115	36,175	38,235	40,660	42,720
	24	24	23,165	25,425	27,485	29,545	31,605	33,665	35,725	37,785	40,210	42,270	44,330
	26	26	24,775	27,035	29,095	31,155	33,215	35,275	37,335	39,760	41,820	43,880	－
	28	28	26,385	28,645	30,705	32,765	34,825	36,885	39,310	41,370	43,430	－	－
	30	30	27,995	30,255	32,315	34,375	36,435	38,495	40,920	42,980	－	－	－
	32	32	29,605	31,865	33,925	35,985	38,045	40,470	42,530	44,590	－	－	－
	34	34	31,215	33,475	35,535	37,595	40,020	42,080	44,140	－	－	－	－
	36	36	32,825	35,085	37,145	39,570	41,630	43,690	－	－	－	－	－

No.1タワー　No.2タワー

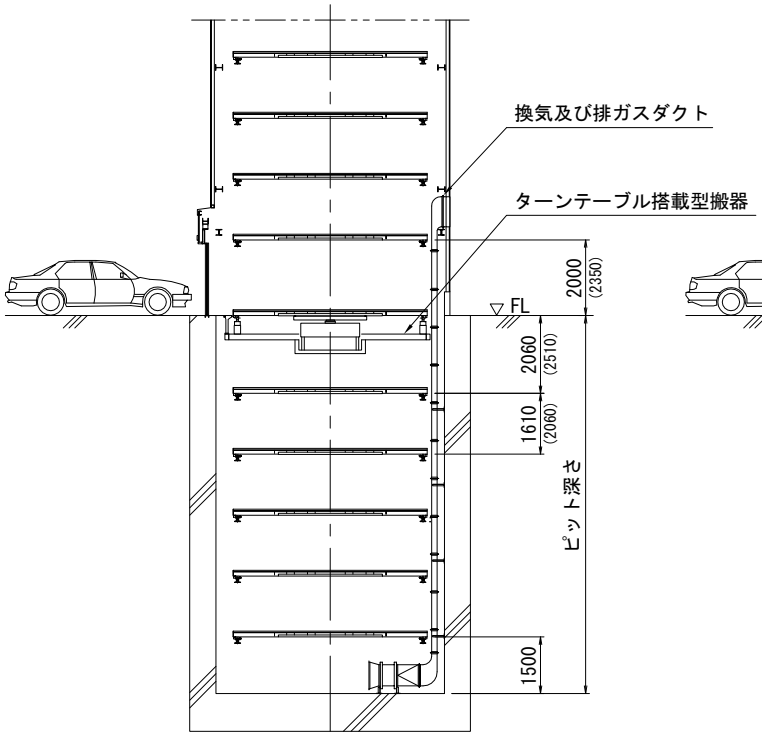
例：No.1タワーに乗用車=24台とハイルーフ車=6台を収容する場合
上の列で6、左の行で24と交差する所=29,545(mm)がタワー高さとなります。

中間・上部乗入式

地下収容台数とピット深さ

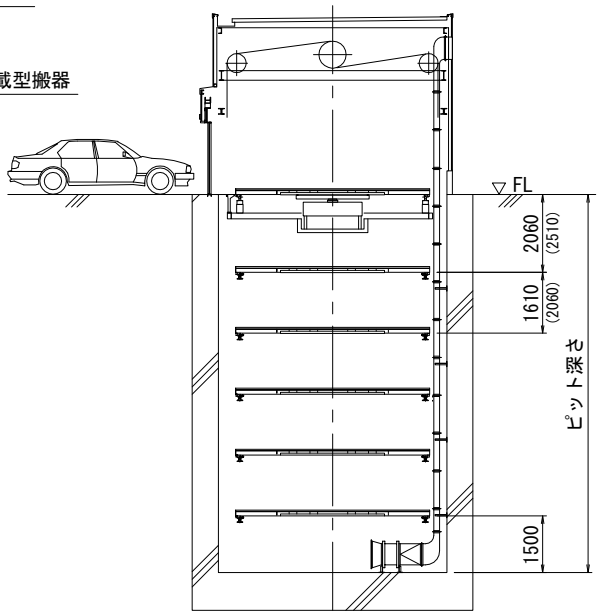
搬器にターンテーブルを搭載した中間・上部乗入式です。

中間乗入式



( )内寸法はハイルーフ車対応型を示します。

上部乗入式



( )内寸法はハイルーフ車対応型を示します。

地下部収容台数/ピット深さ早見表(参考)

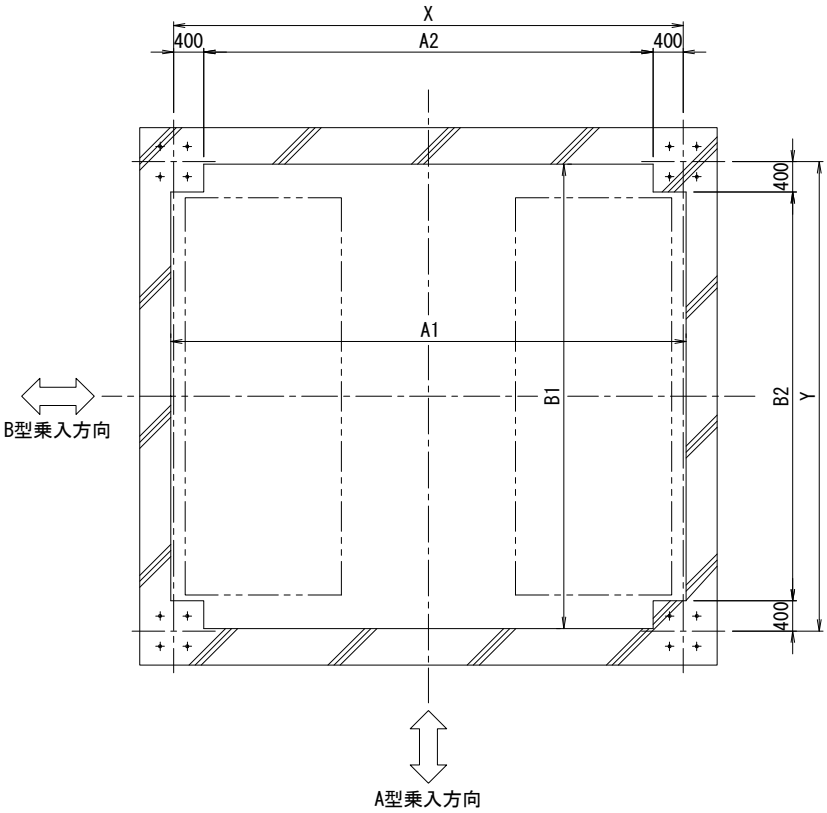
単位：mm

台数		ハイルーフ車					
		0	2	4	6	8	10
乗用車	0		4,010	6,070	8,130	10,190	12,250
	2	3,560	5,620	7,680	9,740	11,800	13,860
	4	5,170	7,230	9,290	11,350	13,410	15,470
	6	6,780	8,840	10,900	12,960	15,020	17,080
	8	8,390	10,450	12,510	14,570	16,630	18,690
	10	10,000	12,060	14,120	16,180	18,240	20,300

例：地下部へ乗用車を6台のみ収容の場合
上の列で0、左の行で6と交差する所=6,780(mm)が
ピット深さとなります。

ピット平面寸法

P1型

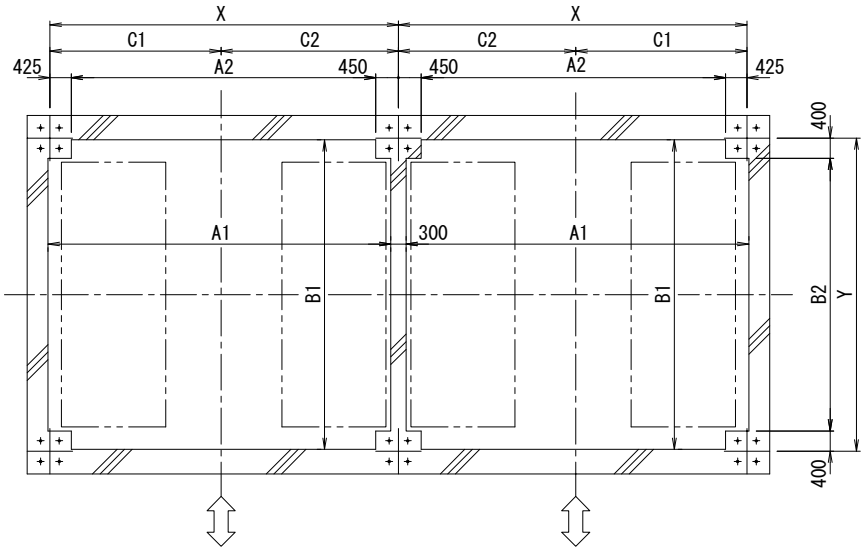


単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	6,100	6,350	
A1寸法	6,630	6,780	6,930
A2寸法	5,780	5,930	6,080
B1寸法	6,040	6,290	
B2寸法	5,300	5,550	

注）上記寸法は地上部の収容台数(乗用車)50台以下の場合を示します。それ以上でご計画の場合は弊社にご相談下さい。

P2A型

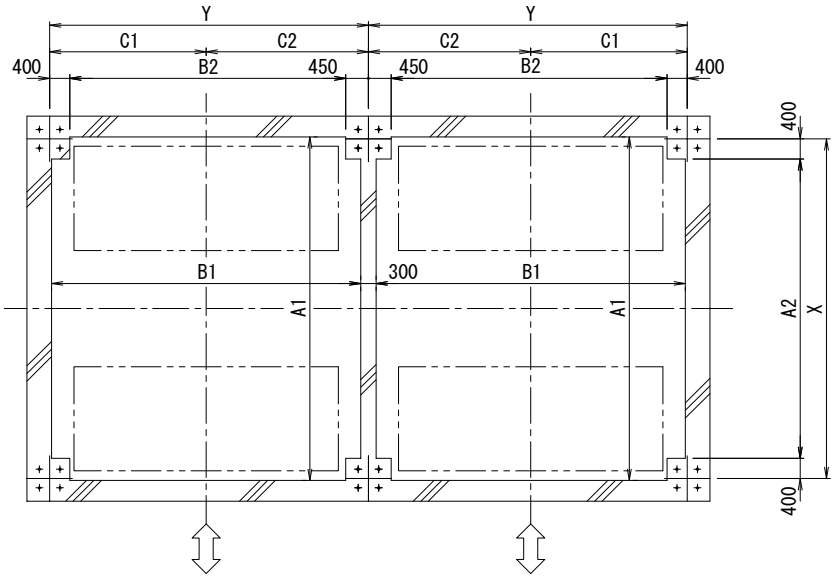


単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
X通り芯間寸法	6,755	6,905	7,055
Y通り芯間寸法	6,100	6,350	
A1寸法	6,630	6,780	6,930
A2寸法	5,905	6,055	6,205
B1寸法	6,040	6,290	
B2寸法	5,300	5,550	
C1寸法	3,290	3,365	3,440
C2寸法	3,465	3,540	3,615

注）上記寸法は地上部の収容台数(乗用車)50台以下の場合を示します。それ以上でご計画の場合は弊社にご相談下さい。

P2B型



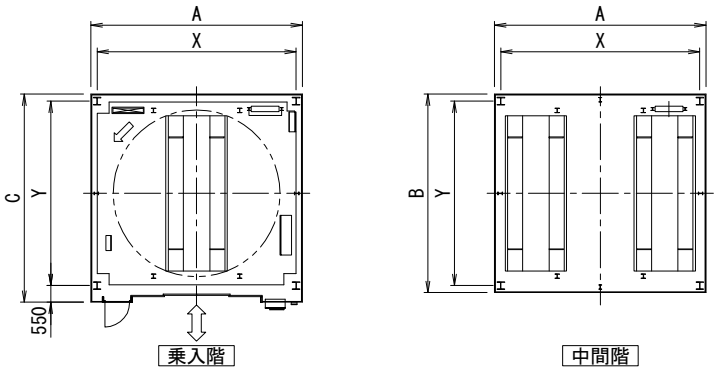
単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	6,220	6,470	
A1寸法	6,630	6,780	6,930
A2寸法	5,780	5,930	6,080
B1寸法	6,040	6,290	
B2寸法	5,370	5,620	
C1寸法	3,050	3,175	
C2寸法	3,170	3,295	

注）上記寸法は地上部の収容台数(乗用車)50台以下の場合を示します。それ以上でご計画の場合は弊社にご相談下さい。

中間乗入式タワー平面寸法

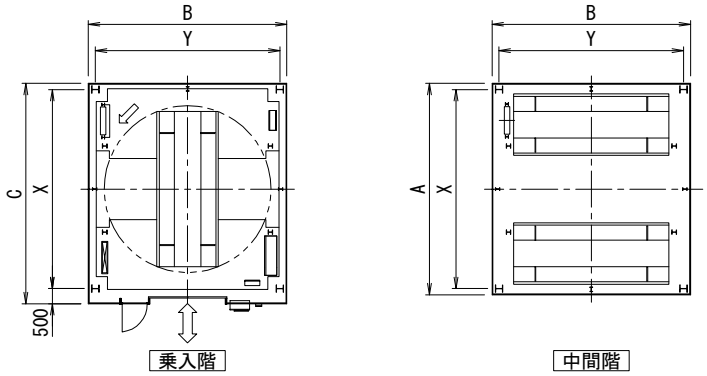
P1A型



単位：mm

立駐型式	収容台数(乗用車)40台以下			収容台数(乗用車)42～48台			収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	6,560	6,810		6,560	6,810		6,620	6,870	
C寸法	6,880	7,130		6,880	7,130		6,910	7,160	
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	6,100	6,350		6,100	6,350		6,100	6,350	

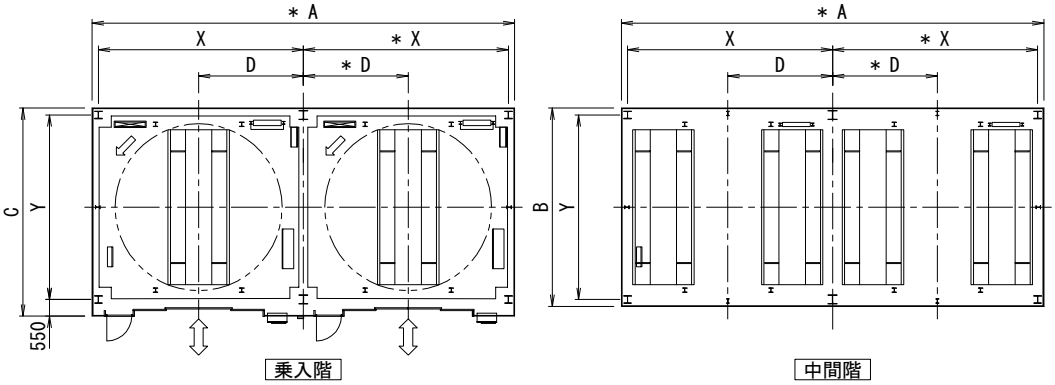
P1B型



立駐型式	収容台数(乗用車)40台以下			収容台数(乗用車)42～48台			収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	6,560	6,810		6,560	6,810		6,620	6,870	
C寸法	7,285	7,435	7,585	7,310	7,460	7,610	7,340	7,490	7,640
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	6,100	6,350		6,100	6,350		6,100	6,350	

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) 上記収容台数を超えるご計画の場合は、弊社にご相談下さい。

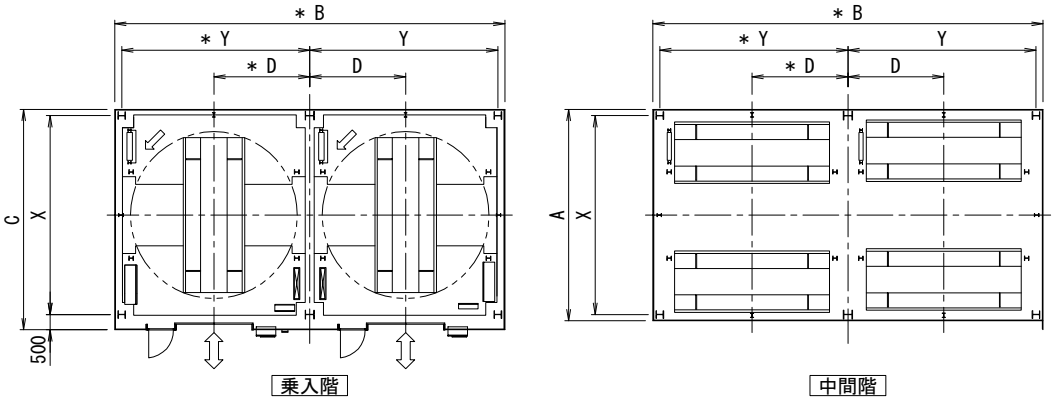
P2A型



単位：mm

立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)44台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)46,48台			1基当たりの収容台数(乗用車)50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	13,920	14,220	14,520	13,970	14,270	14,570	14,030	14,330	14,630
B寸法	6,560	6,810		6,620	6,870		6,620	6,870	
C寸法	6,880	7,130		6,910	7,160		6,910	7,160	
X通り芯間寸法	6,755	6,905	7,055	6,755	6,905	7,055	6,755	6,905	7,055
Y通り芯間寸法	6,100	6,350		6,100	6,350		6,100	6,350	
D寸法	3,465	3,540	3,615	3,465	3,540	3,615	3,465	3,540	3,615

P2B型



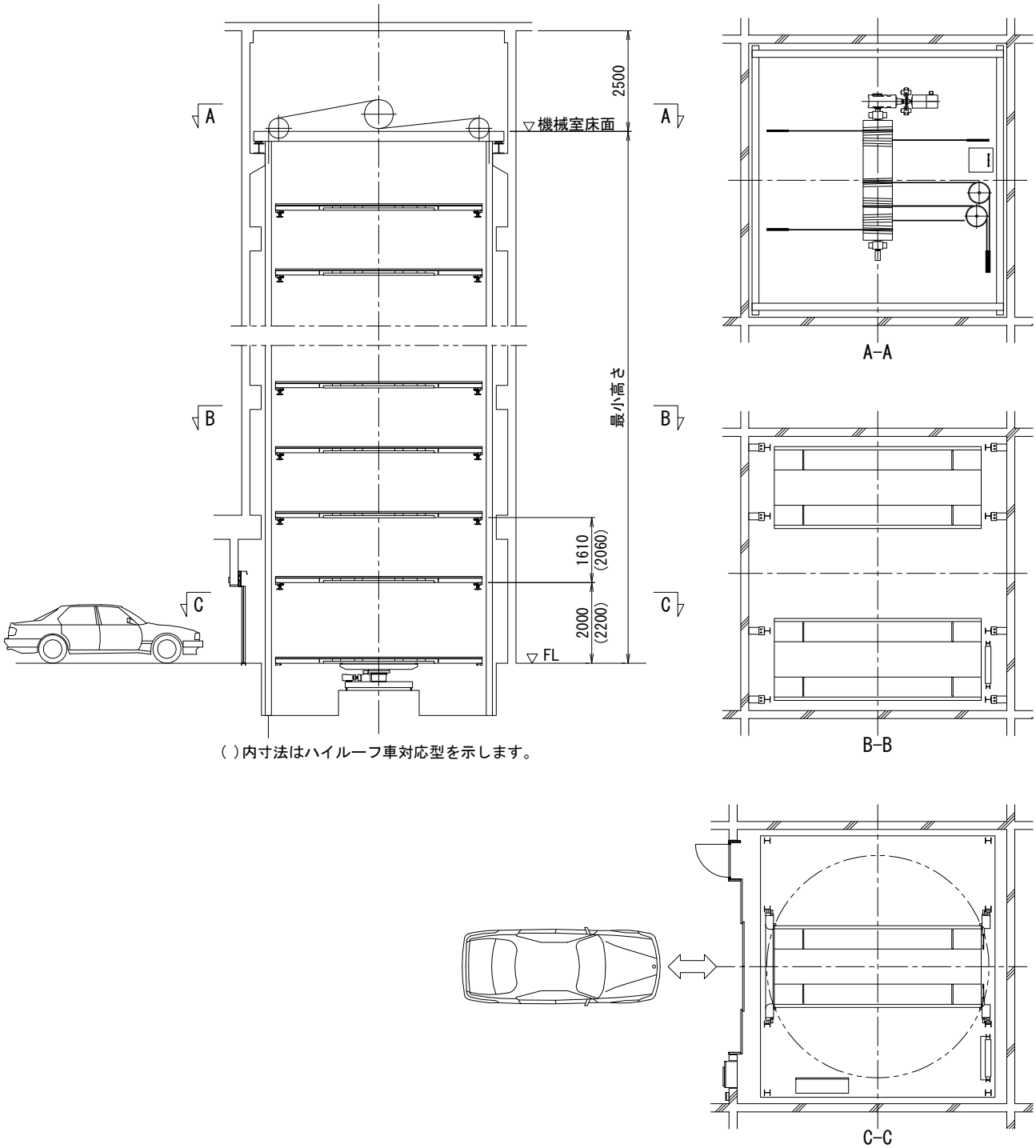
単位：mm

立駐型式	1基当たりの収容台数(乗用車)38台以下			1基当たりの収容台数(乗用車)40,42台			1基当たりの収容台数(乗用車)44～50台		
	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
A寸法	6,990	7,140	7,290	7,040	7,190	7,340	7,100	7,250	7,400
B寸法	12,900	13,400		12,900	13,400		12,900	13,400	
C寸法	7,285	7,435	7,585	7,310	7,460	7,610	7,340	7,490	7,640
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	6,220	6,470		6,220	6,470		6,220	6,470	
D寸法	3,170	3,295		3,170	3,295		3,170	3,295	

注1) A・B・C各寸法は、いずれも鋼板外壁(嵩高25mm)を使用した場合の寸法です。
注2) 建設地域によっては上記寸法表と異なる場合があります。
注3) ＊：間仕切壁で区画する場合は ＊ 寸法を100mm拡げて計画願います。
注4) 上記収容台数を超えるご計画の場合は、弊社にご相談下さい。

ビル組込コラムレス

車の収容台数と高さ



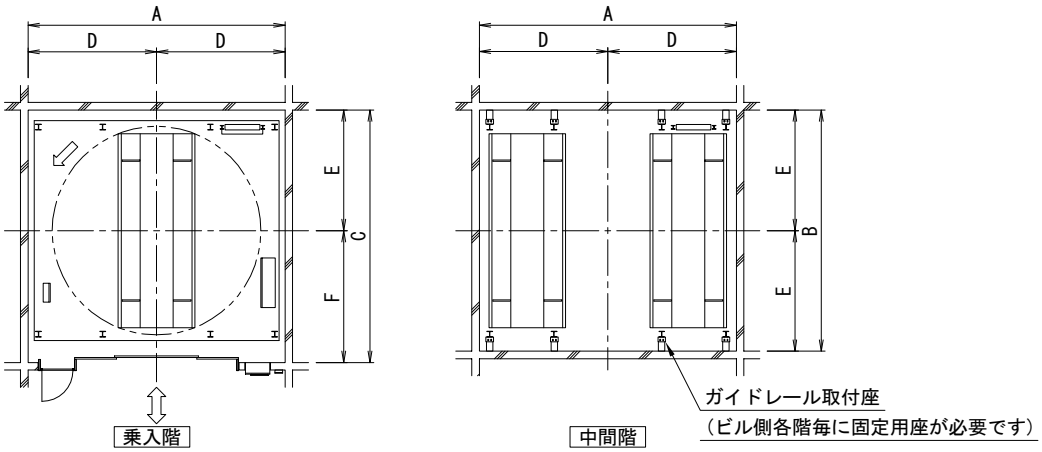
( )内寸法はハイルーフ車対応型を示します。

単位：mm

台数	乗用車											
	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42
最小高さ	18,540	20,150	21,760	23,370	24,980	26,590	28,200	29,810	31,420	33,030	34,640	36,250

平面寸法

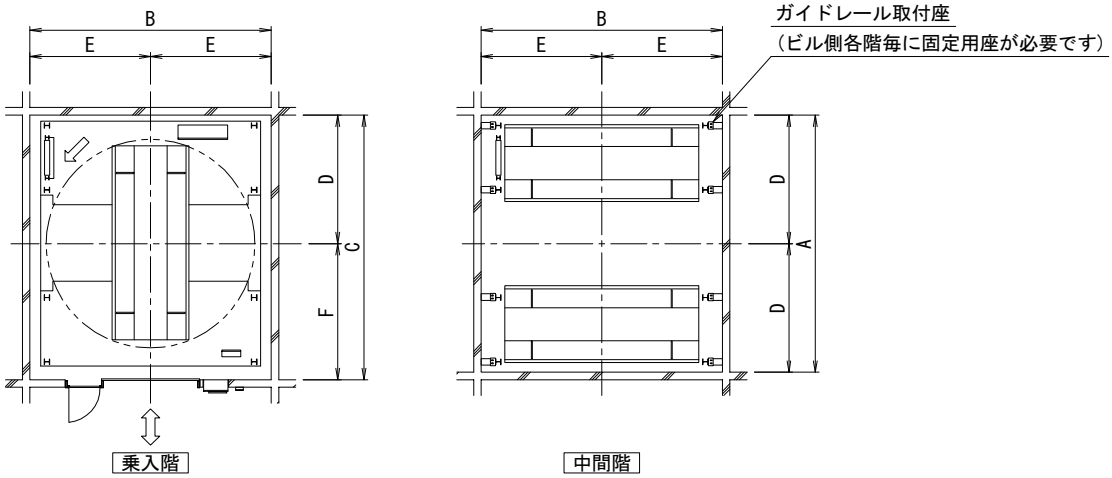
P1A型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	6,800	6,950	7,100
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	6,680	6,930	
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,490	3,615	

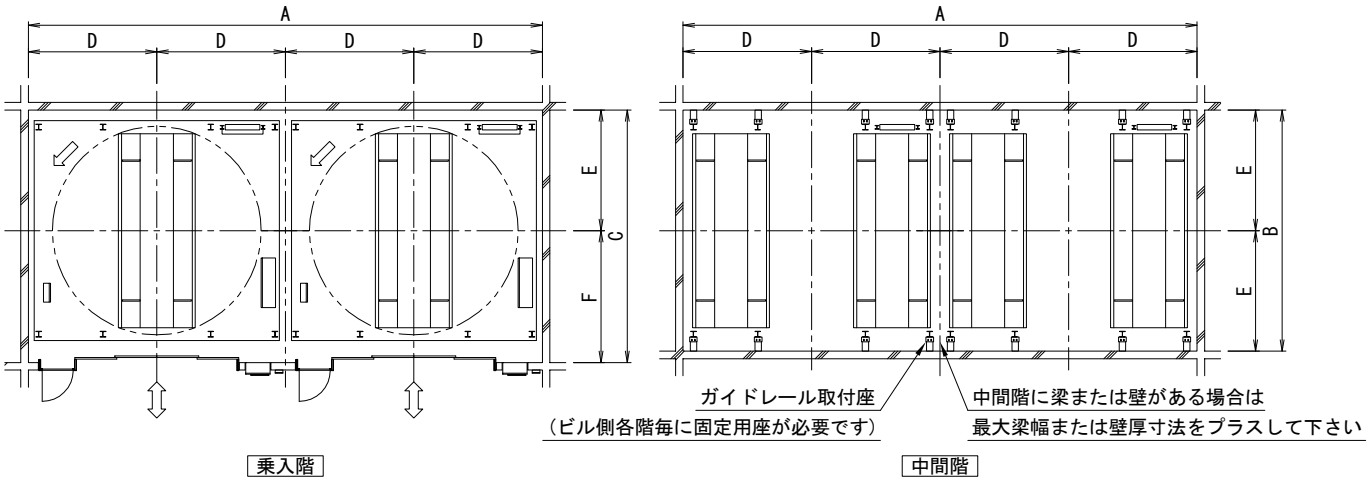
P1B型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	6,800	6,950	7,100
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	7,000	7,150	7,300
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,600	3,675	3,750

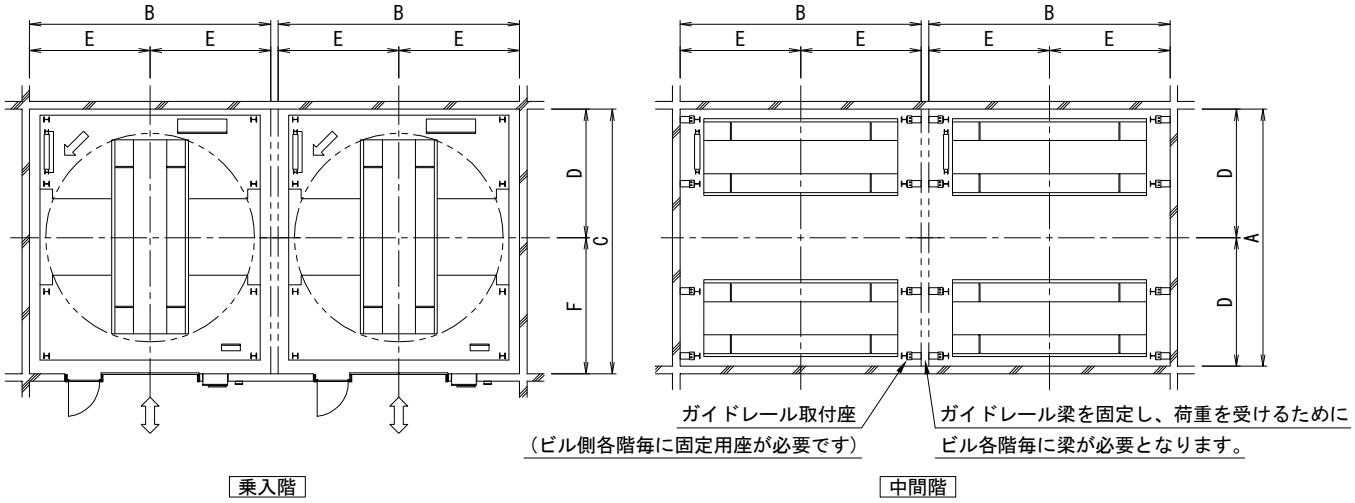
P2A型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	13,600	13,900	14,200
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	6,680	6,930	
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,490	3,615	

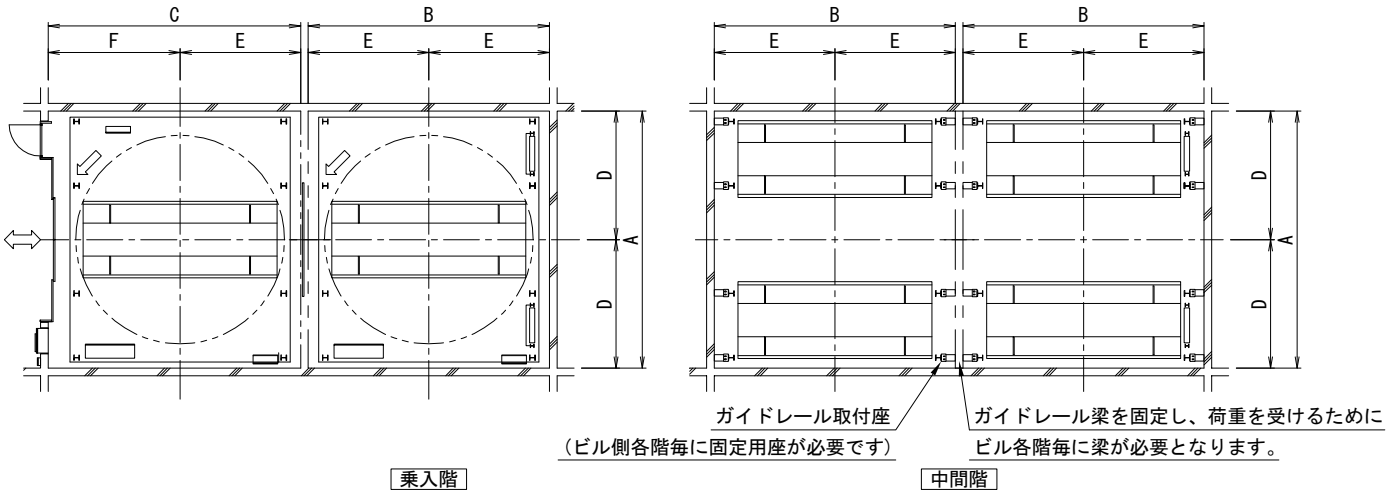
P2B型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	6,800	6,950	7,100
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	7,000	7,150	7,300
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,600	3,675	3,750

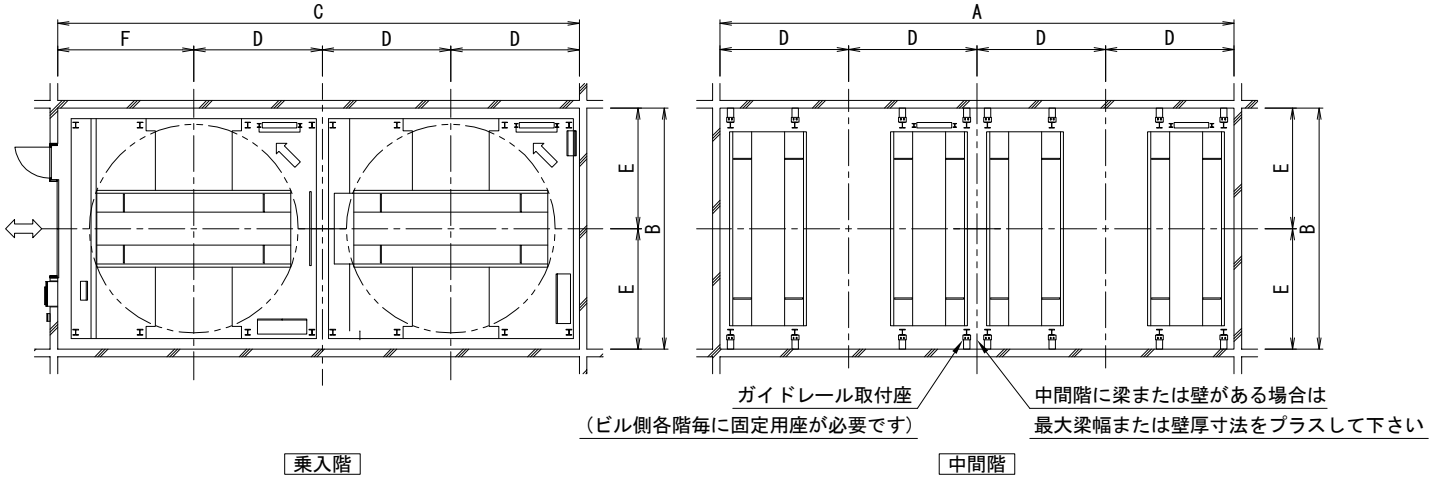
R2A型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	6,800	6,950	7,100
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	6,680	6,930	
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,490	3,615	

R2B型

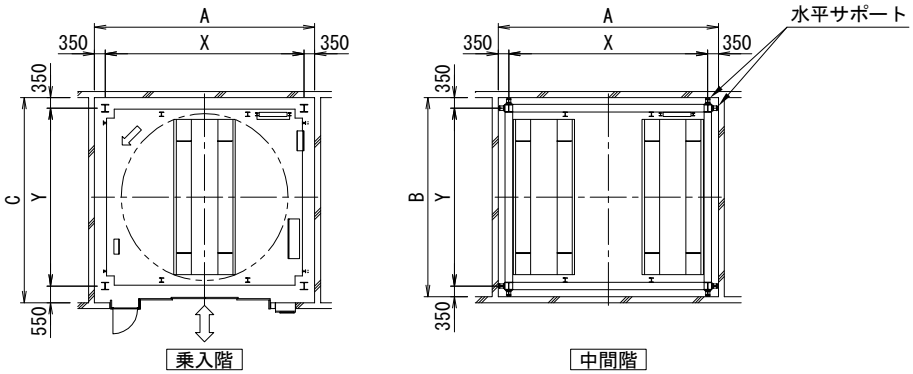


単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	13,600	13,900	14,200
B寸法	6,380	6,630	
C寸法	13,800	14,100	14,400
D寸法	3,400	3,475	3,550
E寸法	3,190	3,315	
F寸法	3,600	3,675	3,750

ビル組込鉄塔型(ブレースなし)平面寸法

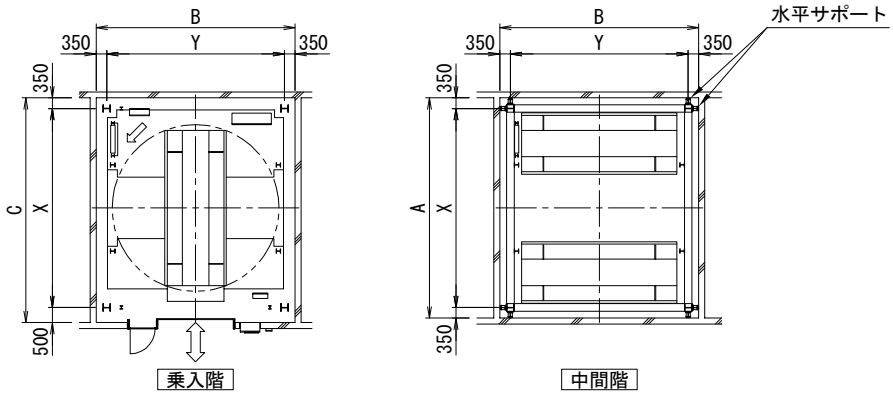
P1A型



単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	7,280	7,430	7,580
B寸法	6,580	6,830	
C寸法	6,730	7,030	
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	

P1B型



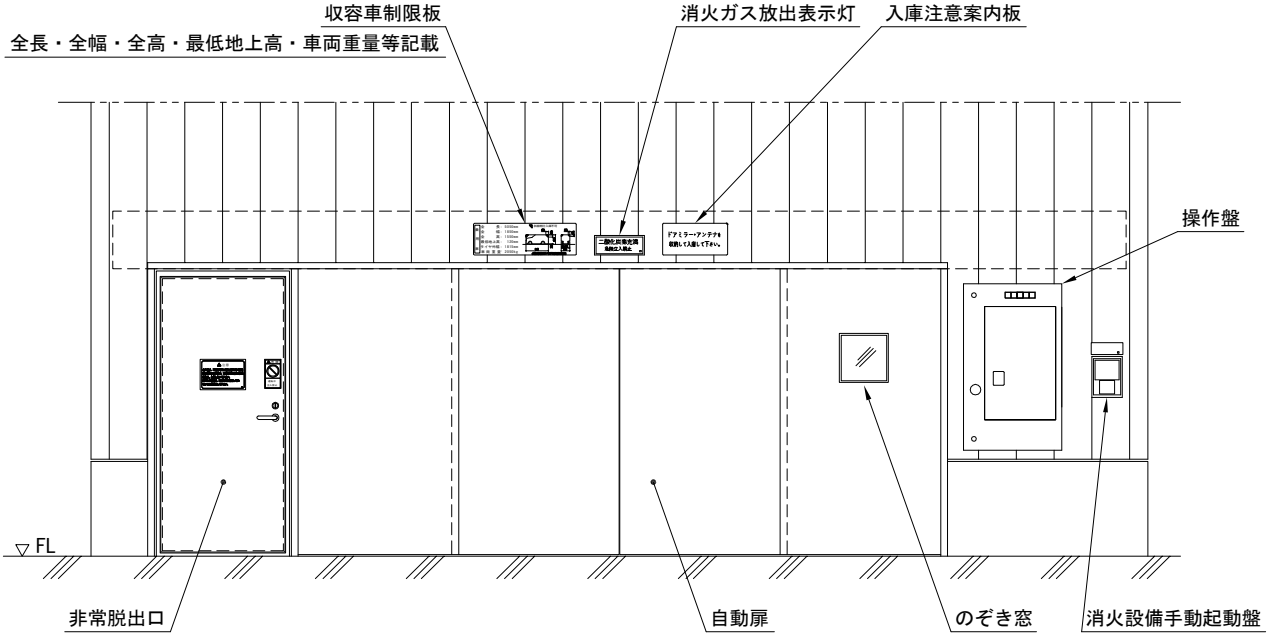
単位：mm

立駐型式	M型	W型	Z型
A寸法	7,280	7,430	7,580
B寸法	6,580	6,830	
C寸法	7,430	7,580	7,730
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	

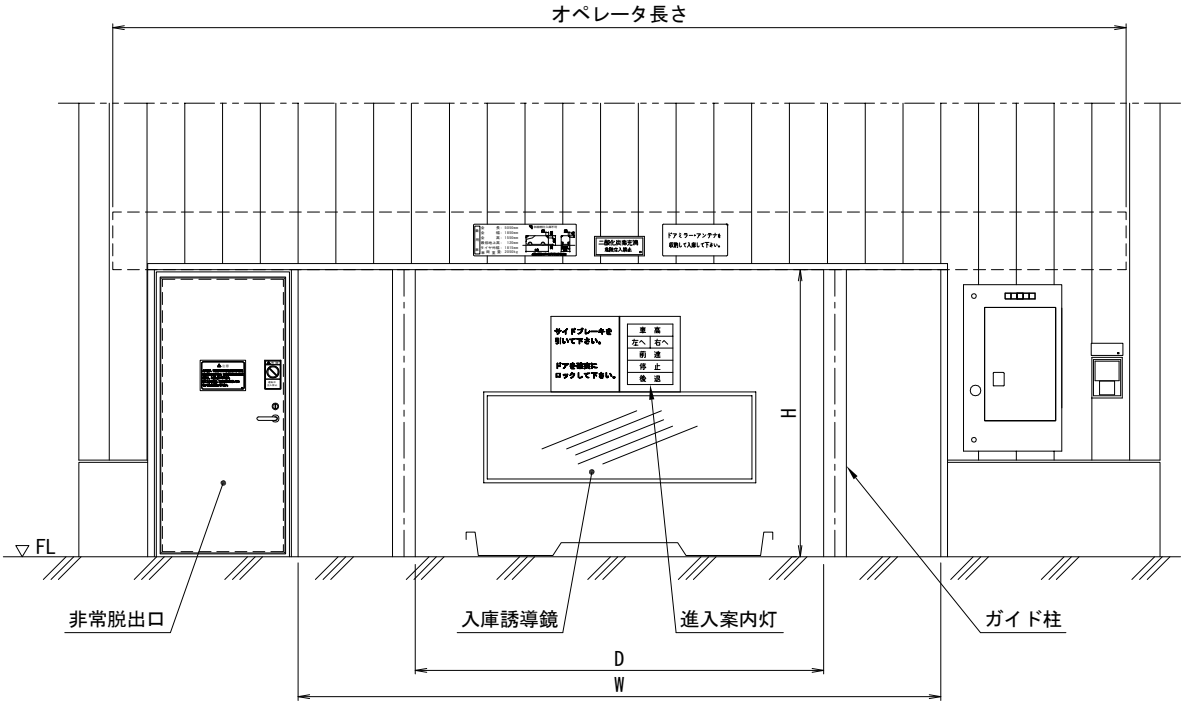
正面意匠・寸法図

A型

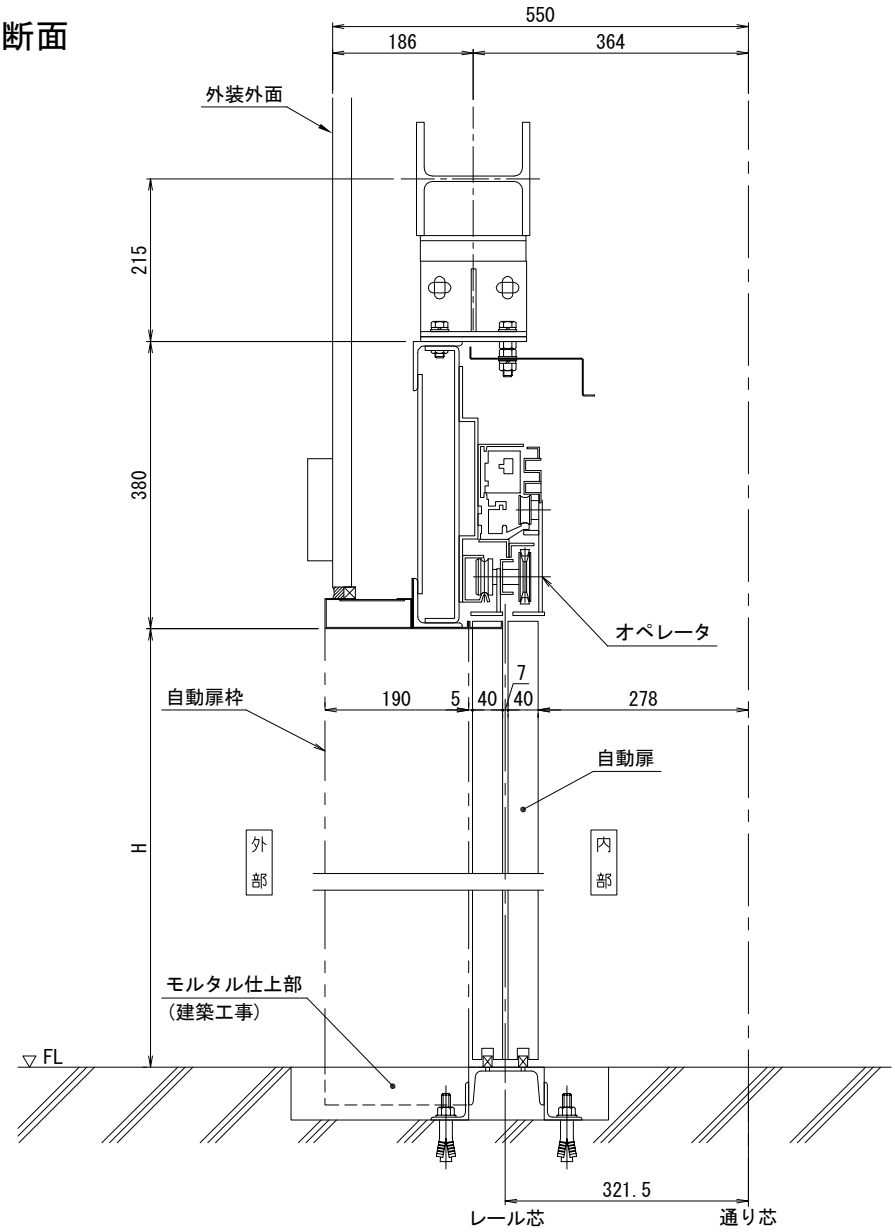
前面(扉閉鎖時)



内面(扉開放時)



自動扉部断面



寸法表

単位：mm

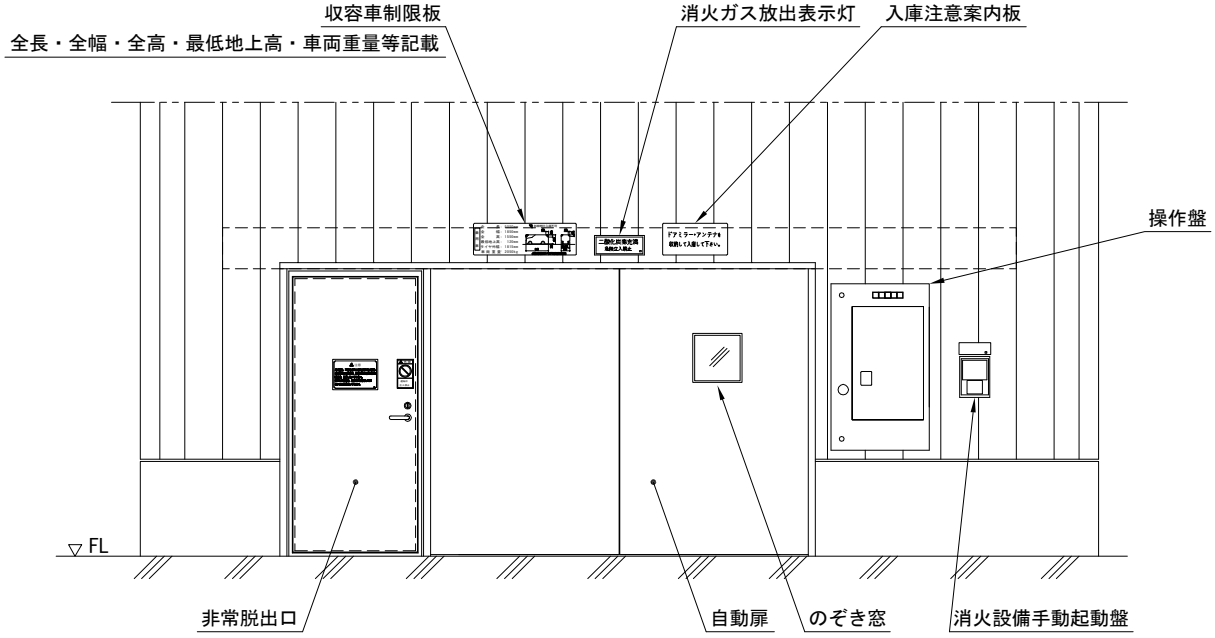
項目 ＼ 型式		M型	W型	Z型
扉開放時開口寸法:W		4,250		
非常脱出口 幅 x 高さ		800 x 1,800		
高さ:H	乗用車用	1,900		
	ハイルーフ車用	2,100		
ガイド柱内寸法:D		2,700	2,750	2,800
オペレータ長さ		6,700 <6,610>		

< >内寸法は P2AM型 を示します。

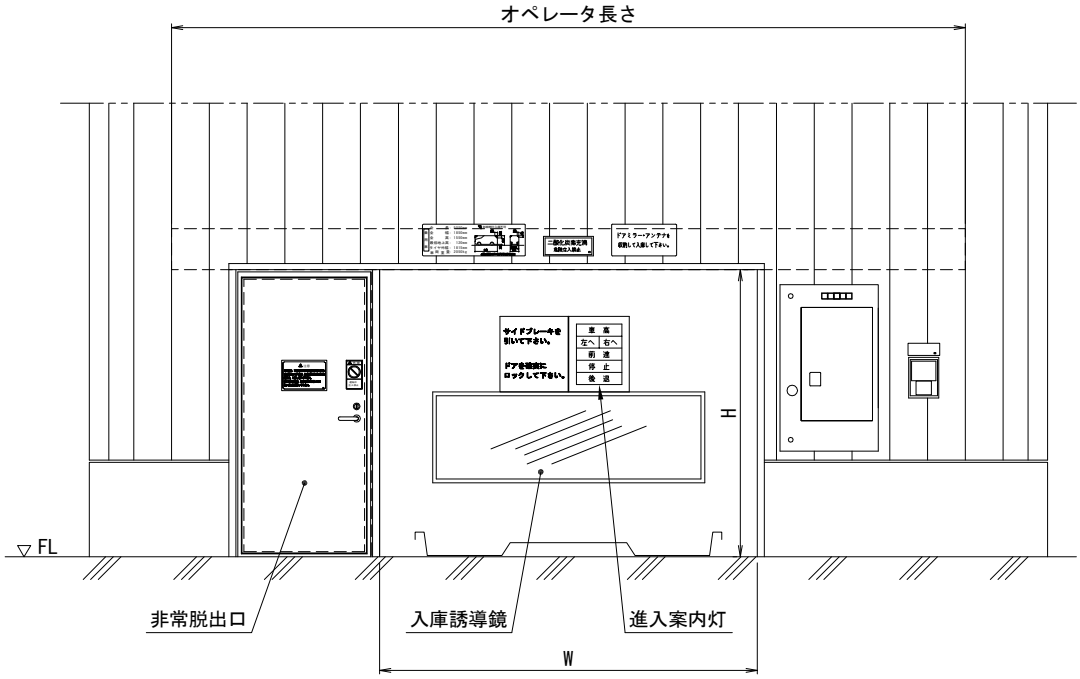
注1) 非常脱出口と操作盤の位置は、左右入れ替えることが可能です。
注2) 自動扉に非常脱出口を内蔵することも可能です。

B型

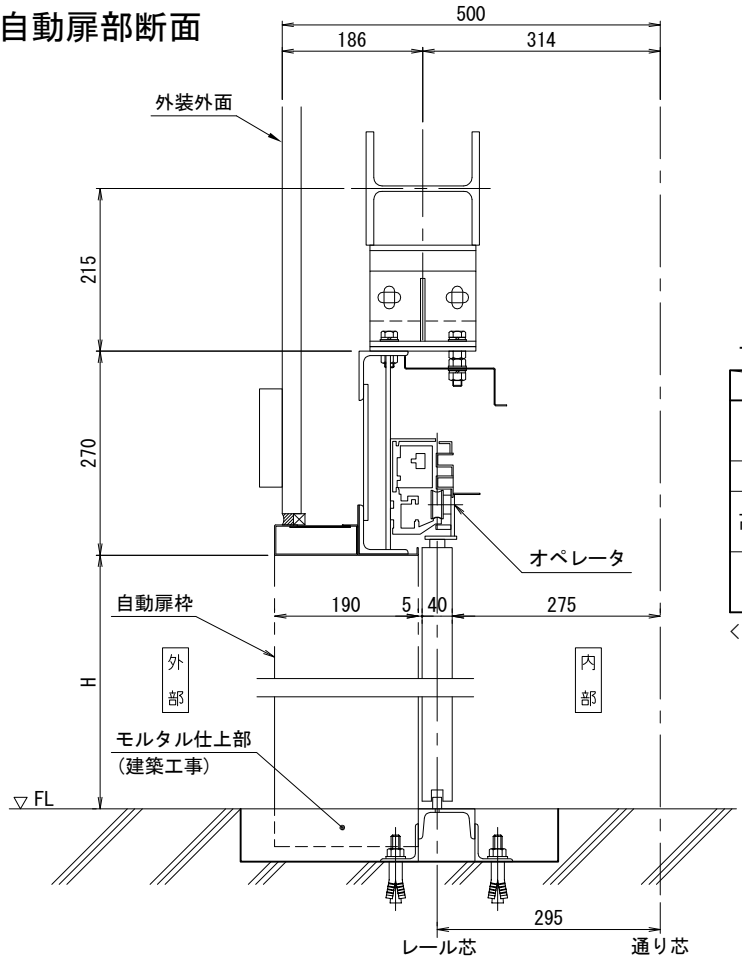
前面(扉閉鎖時)



内面(扉開放時)



自動扉部断面



寸法表

単位：mm

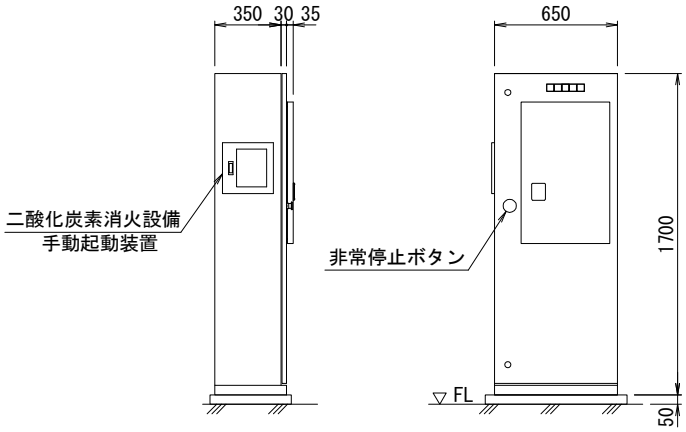
項目＼型式		M型	W型	Z型
扉開放時開口寸法:W		2,500 <2,700>		2,700 <2,700>
非常脱出口 幅 x 高さ		800 x 1,800		
高さ:H	乗用車用	1,900		
	ハイルーフ車用	2,100		
オペレータ長さ		5,250 <5,520>		5,520 <5,520>

< >内寸法は 縦列乗入式/B型 を示します。

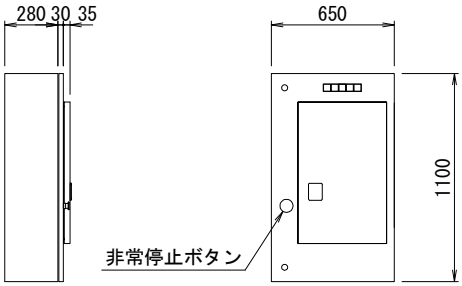
注1) 非常脱出口と操作盤の位置は、左右入れ替えることが可能です。
注2) 自動扉に非常脱出口を内蔵することも可能です。

操作盤外形寸法

標準仕様（テンキー方式、ICカード方式仕様）



自立 操作盤



壁付 操作盤

注）操作部の扉は右開き・左開きのいずれも対応可能です。

棟内乗降室の設備

1. 入庫誘導鏡

車を正しい位置に入庫するための確認用鏡です。

2. 進入案内灯

車を正しい位置に停止するために指示を出す表示灯です。

車　高：高さオーバーのため、後退して棟外に出して下さい(入庫不可)
左　へ：左へ寄せて下さい
右　へ：右へ寄せて下さい
前　進：前進して下さい
停　止：停止して下さい
後　退：後退して下さい

3. 各種センサ

車の安全な入庫及び棟内の安全を確保するためのセンサです。

(1) 車はみ出し検知センサ
車の前部または後部がパレットからはみ出している場合に検知します。

(2) ドア開検知センサ
搬器昇降時にパレットからはみ出したドアを検知し、機械を停止させます。
(車種、停車位置、ドア位置及びドア形状により検知できない場合があります。)

(3) 車検知センサ
パレット上に車があることを検知します。

(4) パレット検知センサ
ターンテーブル上にパレットが載っていることを検知します。

(5) 車高さ検知センサ
高さ制限を超えた車を検知します。

(6) 出入口安全センサ
自動扉閉動作中に人や車を検知します。

(7) エリアセンサ
機械停止中に棟内の限られた範囲で動いている人を検知します。
ただし、車内の人・車の陰の人・動かない人は検知できません。

(8) 車幅検知センサ
車の側部がパレットからはみ出している場合に検知します。

注）設備によって配置・仕様が異なる場合があります。

4. 非常脱出口閉センサ

非常脱出口の扉が確実にしまっていることを検知するセンサです。機械の動作中に扉を開くと機械を停止させます。

5. 非常停止ボタン

非常事態が発生し、機械を緊急に停止する必要がある場合に使用します。
棟内(4ヶ所)及び操作盤(棟外)に設置されています。

6. 分電盤

ビルまたは屋外引込盤からの電源を引込みます。

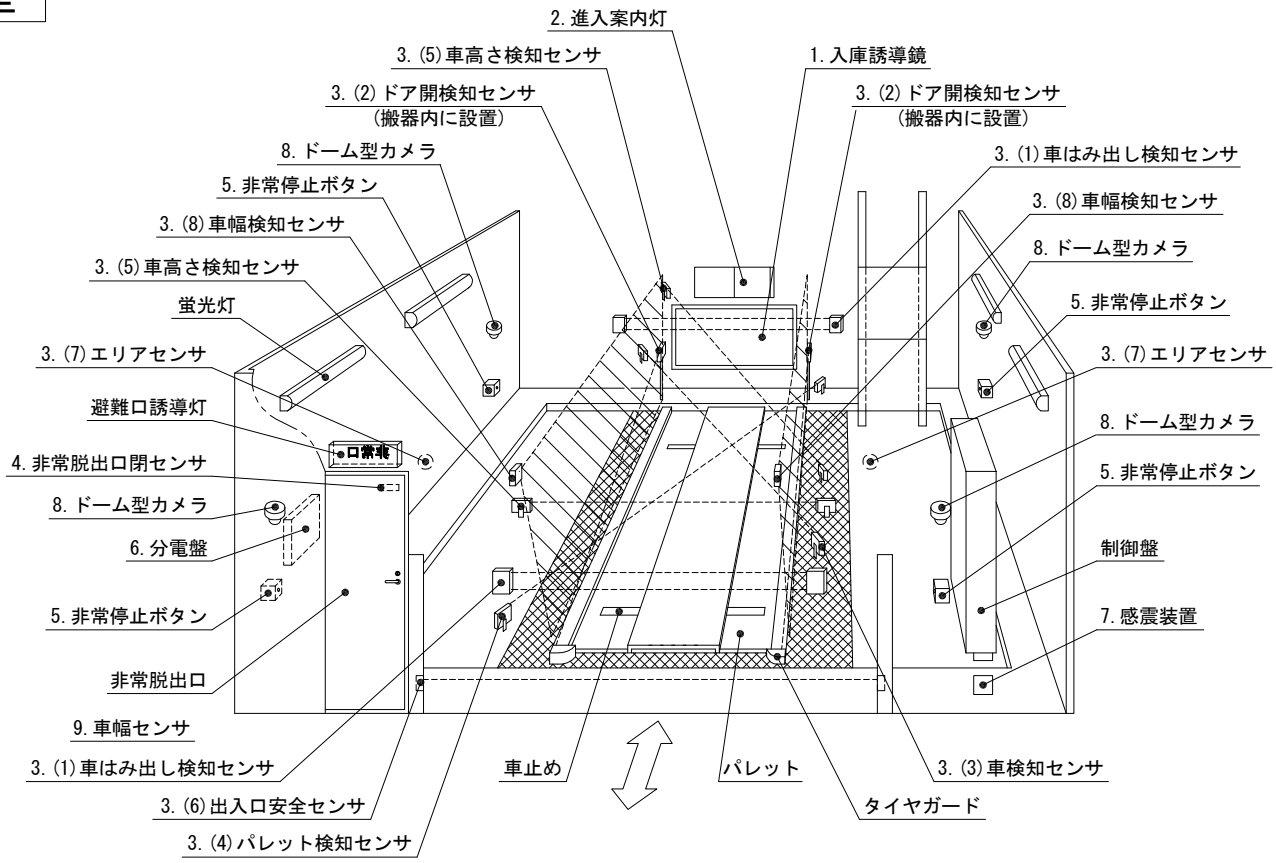
7. 感震装置

震度５弱以上の地震が発生した場合に機械を停止させます。

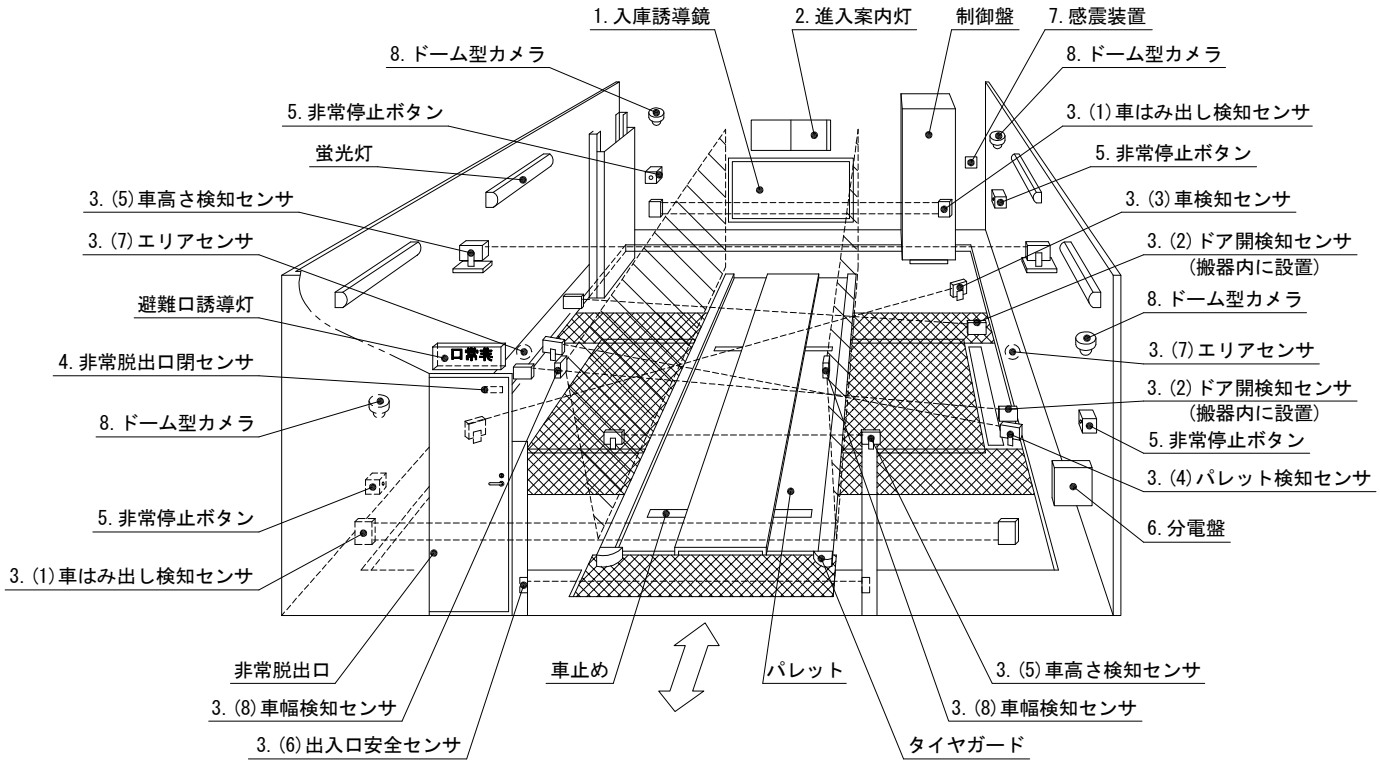
8. ドーム型カメラ

乗降領域のすべての範囲を写すカメラを設けて、その映像を操作盤の監視モニタで視認できるようにします。(棟内無人の確認用)

A型

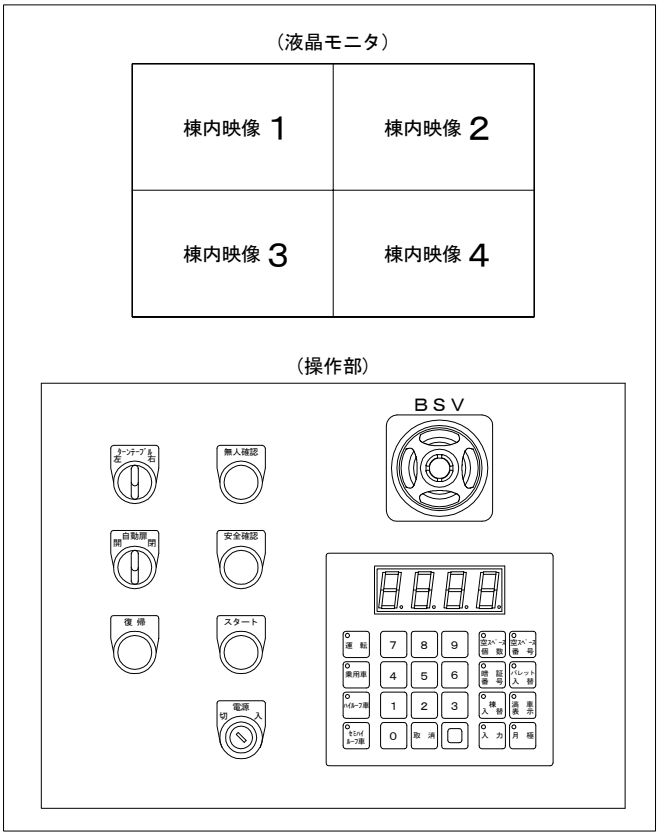

2. 進入案内灯
3. (5) 車高さ検知センサ
1. 入庫誘導鏡
3. (2) ドア開検知センサ
(搬器内に設置)
3. (2) ドア開検知センサ
(搬器内に設置)
8. ドーム型カメラ
3. (1) 車はみ出し検知センサ
5. 非常停止ボタン
3. (8) 車幅検知センサ
3. (8) 車幅検知センサ
3. (5) 車高さ検知センサ
8. ドーム型カメラ
蛍光灯
5. 非常停止ボタン
3. (7) エリアセンサ
3. (7) エリアセンサ
避難口誘導灯
8. ドーム型カメラ
4. 非常脱出口閉センサ
5. 非常停止ボタン
8. ドーム型カメラ
6. 分電盤
制御盤
5. 非常停止ボタン
7. 感震装置
非常脱出口
9. 車幅センサ
3. (1) 車はみ出し検知センサ
車止め
パレット
3. (3) 車検知センサ
3. (6) 出入口安全センサ
タイヤガード
3. (4) パレット検知センサ

B型

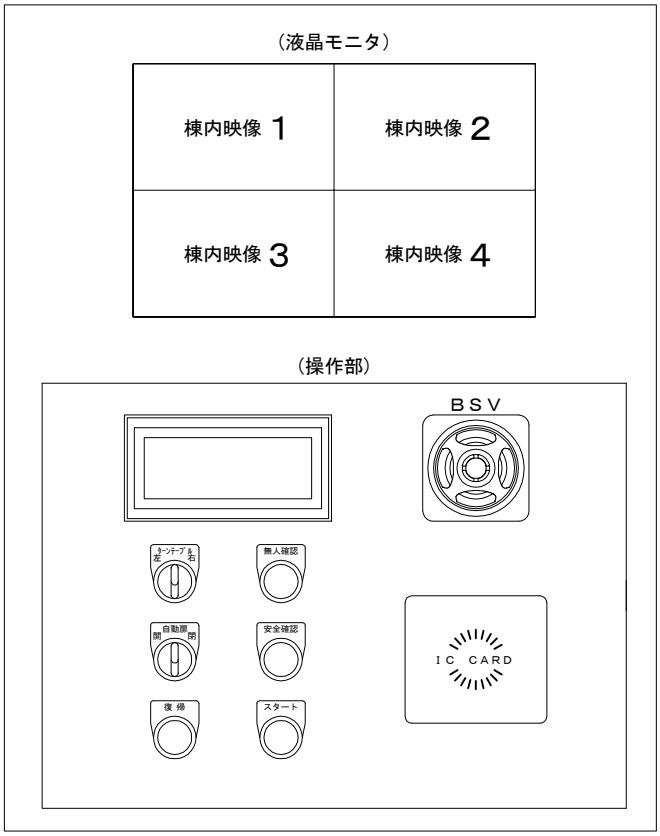

1. 入庫誘導鏡
2. 進入案内灯
制御盤
7. 感震装置
8. ドーム型カメラ
8. ドーム型カメラ
5. 非常停止ボタン
3. (1) 車はみ出し検知センサ
蛍光灯
5. 非常停止ボタン
3. (5) 車高さ検知センサ
3. (3) 車検知センサ
3. (7) エリアセンサ
3. (2) ドア開検知センサ
(搬器内に設置)
避難口誘導灯
8. ドーム型カメラ
4. 非常脱出口閉センサ
3. (7) エリアセンサ
3. (2) ドア開検知センサ
(搬器内に設置)
8. ドーム型カメラ
5. 非常停止ボタン
3. (4) パレット検知センサ
5. 非常停止ボタン
6. 分電盤
3. (1) 車はみ出し検知センサ
非常脱出口
車止め
パレット
3. (5) 車高さ検知センサ
3. (8) 車幅検知センサ
3. (8) 車幅検知センサ
3. (6) 出入口安全センサ
タイヤガード

操作盤

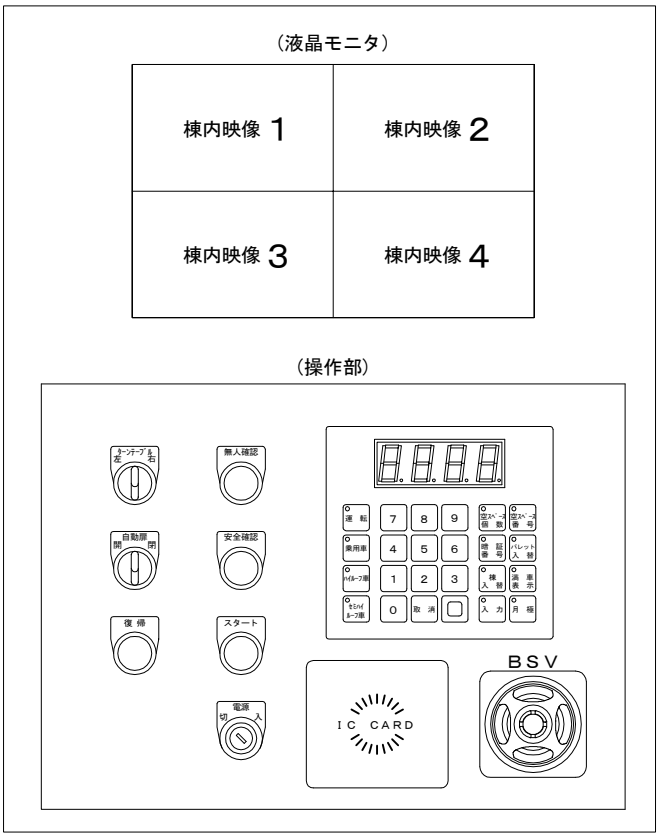
テンキー方式（パレット番号）



ICカード方式



テンキー、ICカード併用方式（パレット番号）



入出庫動作

テンキー方式
（パレット番号）
管理人操作

入庫動作

操作者のパスワードをテンキーで押す。

↓

入力ボタンを押す。

↓

安全確認ボタンを押す。

↓

スタートボタンを押す。

↓

自動扉が開く。

↓

① 入庫

操作者のパスワードをテンキーで押す。

↓

入力ボタンを押す。

↓

無人確認ボタンを押す。

↓

安全確認ボタンを押す。

↓

② スタートボタンを押す。

↓

自動扉が閉まる。

↓

ターンテブルが回転

↓

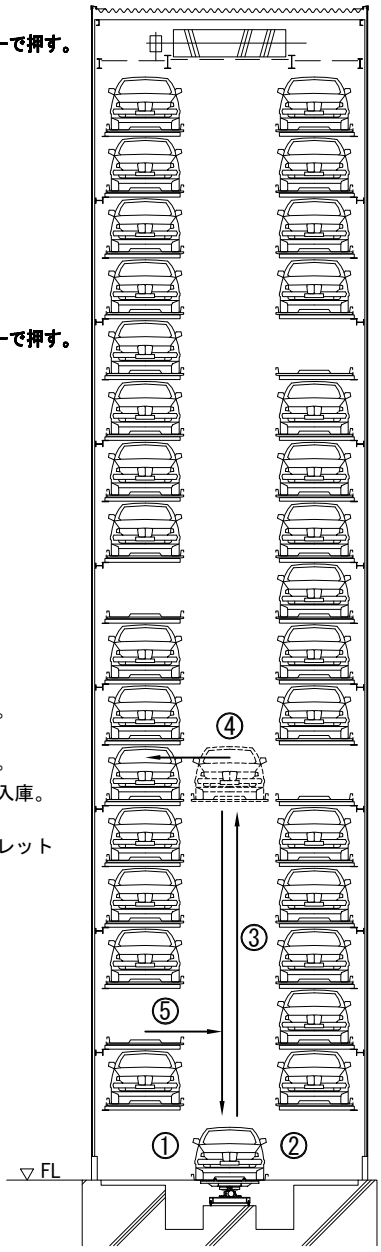
③ 搬器は所定の駐車室へ上昇。

↓

④ 搬器上の横送り装置が作動。
パレットごと車を駐車室に入庫。

↓

⑤ 搬器は最も１階に近い空パレット
を取り、１階まで下降。



出庫動作

操作者のパスワードをテンキーで押す。

↓

入力ボタンを押す。

↓

テンキーでパレット番号を押す。

↓

安全確認ボタンを押す。

↓

1 スタートボタンを押す。

↓

2 空パレットを空駐車室に返却し
出庫予定車の駐車室へ移動

↓

3 出庫予定車を搬器に載せ１階へ下降

↓

自動扉が開く。

↓

4 出庫

操作者のパスワードをテンキーで押す。

↓

入力ボタンを押す。

↓

無人確認ボタンを押す。

↓

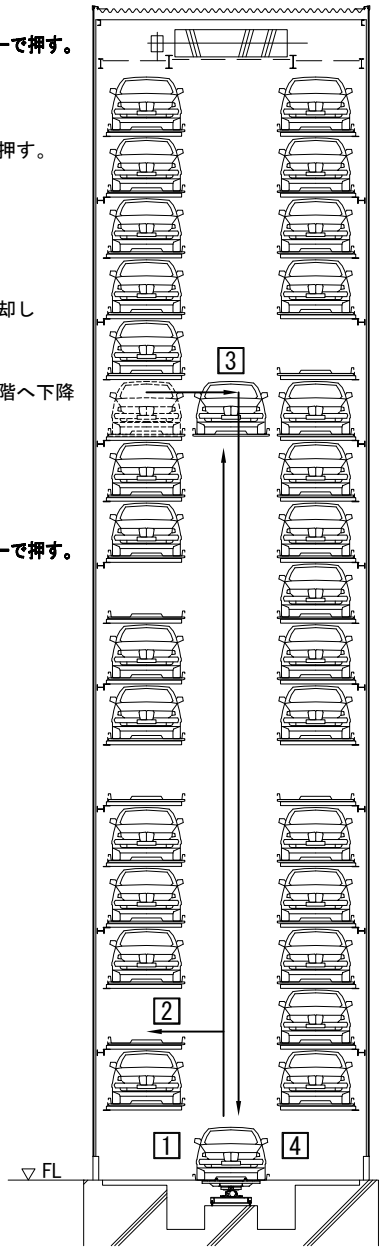
安全確認ボタンを押す。

↓

スタートボタンを押す。

↓

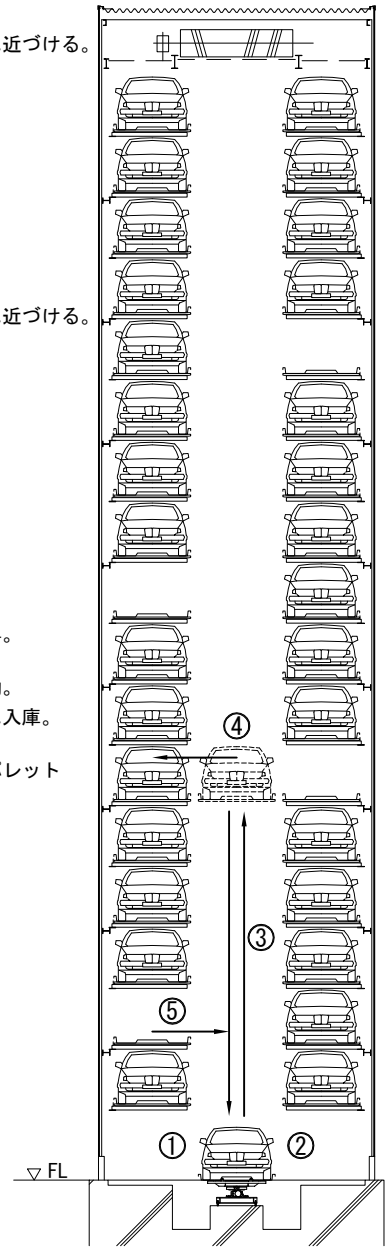
自動扉が閉まる。



ICカード方式
利用者操作

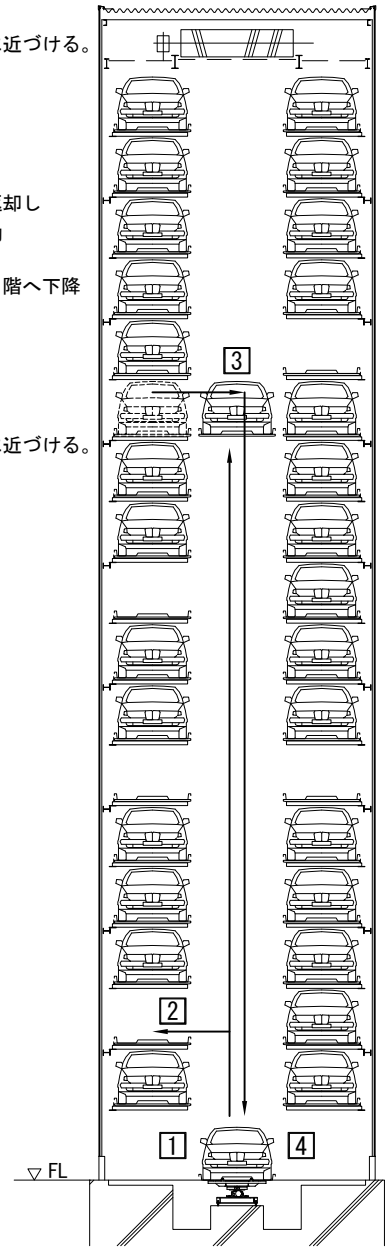
入庫動作

ICカードをカードリーダに近づける。
↓
安全確認ボタンを押す。
↓
スタートボタンを押す。
↓
自動扉が開く。
↓
① 入庫
↓
ICカードをカードリーダに近づける。
↓
無人確認ボタンを押す。
↓
安全確認ボタンを押す。
↓
② スタートボタンを押す。
↓
自動扉が閉まる。
↓
ターンテブルが回転
↓
③ 搬器は所定の駐車室へ上昇。
↓
④ 搬器上の横送り装置が作動。
パレットごと車を駐車室に入庫。
↓
⑤ 搬器は最も１階に近い空パレット
を取り、１階まで下降。

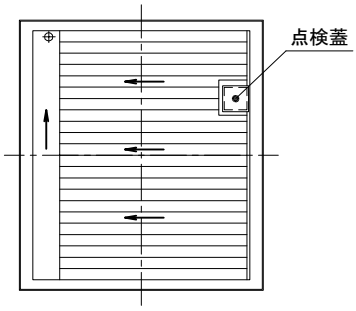


出庫動作

ICカードをカードリーダに近づける。
↓
安全確認ボタンを押す。
↓
1 スタートボタンを押す。
↓
2 空パレットを空駐車室に返却し
出庫予定車の駐車室へ移動
↓
3 出庫予定車を搬器に載せ１階へ下降
↓
自動扉が開く。
↓
4 出庫
↓
ICカードをカードリーダに近づける。
↓
無人確認ボタンを押す。
↓
安全確認ボタンを押す。
↓
スタートボタンを押す。
↓
自動扉が閉まる。

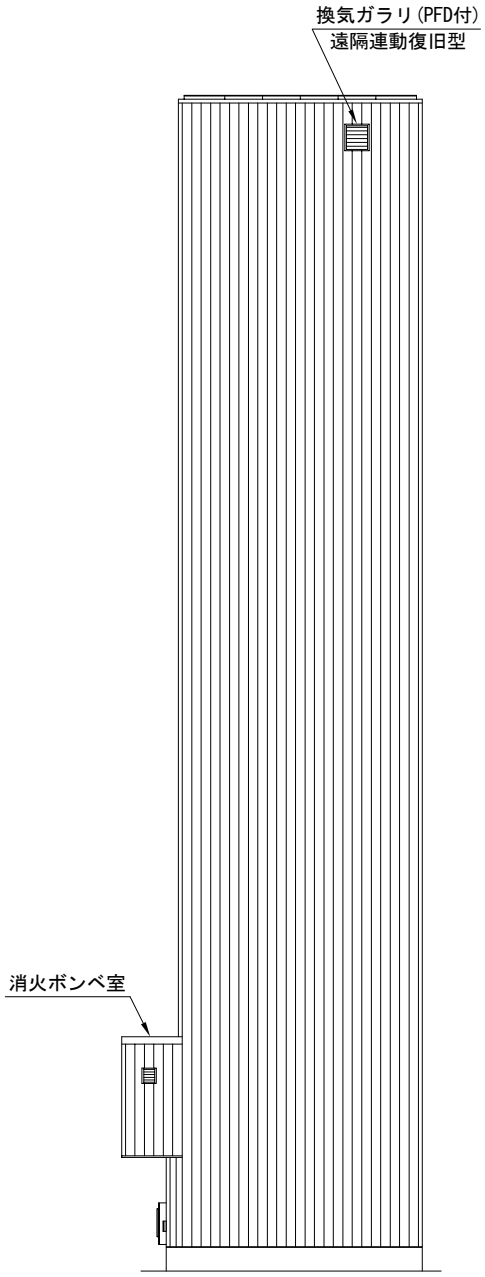


建具表・外部仕上表



屋根伏図

外部仕上表	
屋根	特殊塗装鋼板(ルーフデッキ) t=0.6 (H=88)
	内面30分耐火シート貼 屋根耐火構造 FP030RF-9325 又は FP030RF-9326
	笠木：特殊塗装鋼板 t=0.5
外装	特殊塗装鋼板 t=0.5 (H=25)
	1時間耐火(耐火被覆 ロックウール吹付 t=30) FP060NE-9305
樋	谷樋：耐酸被覆鋼板 t=0.5　両面ビニール被覆 t=0.2x2
	竪樋：硬質塩化ビニル管 VP75(JIS K 6741)
腰壁	コンクリート打放 t=150

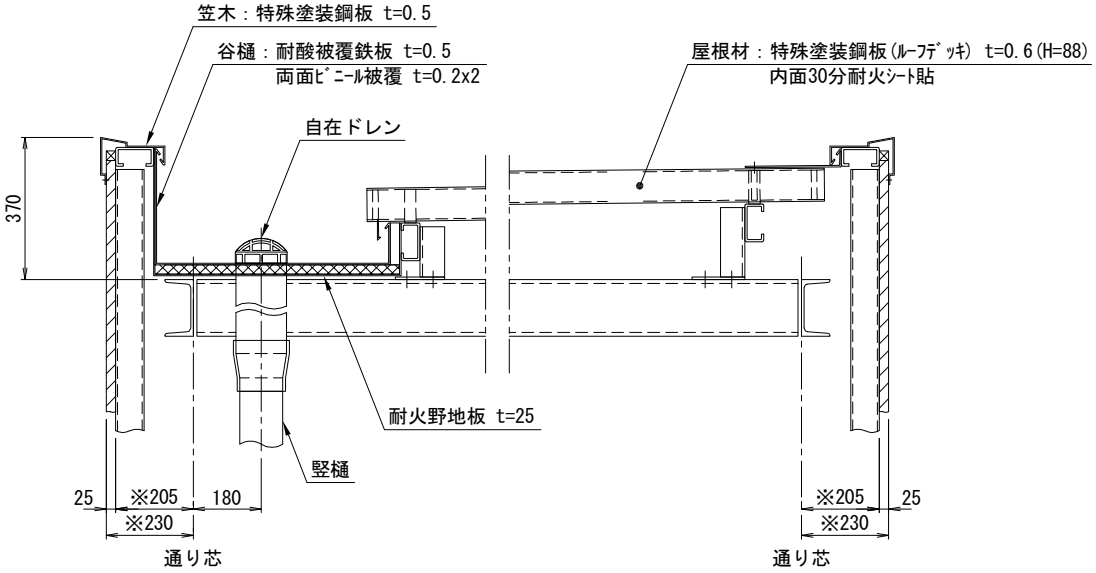


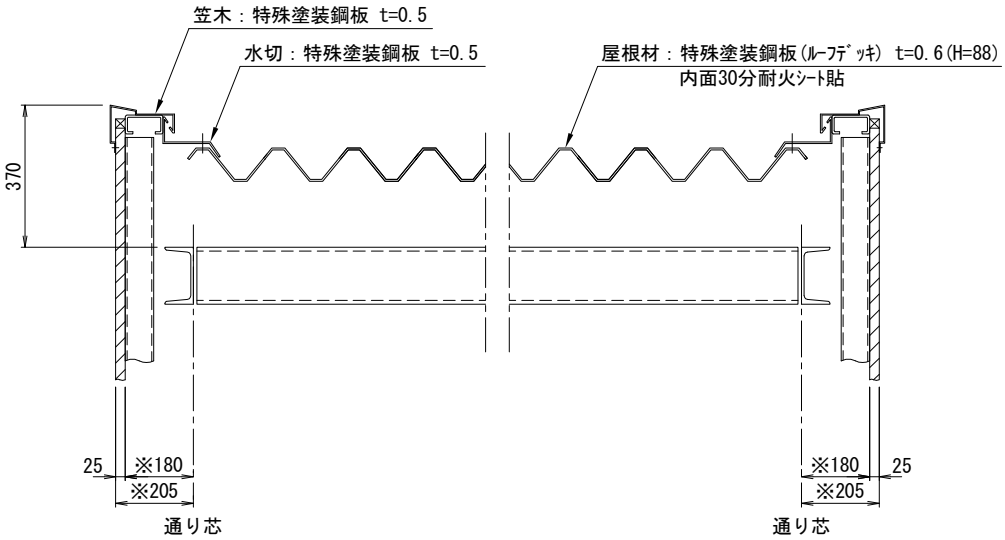
立面図

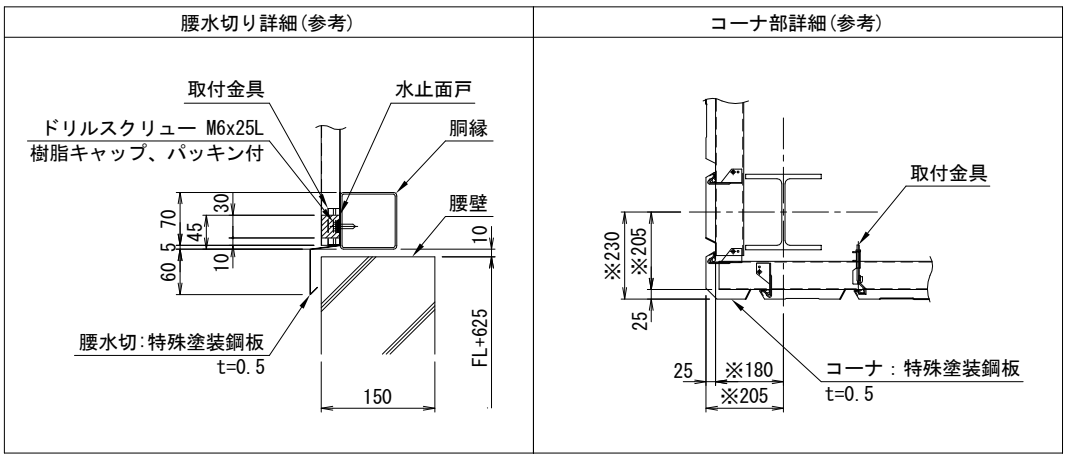
建具表			
名称	自動扉	非常脱出口	換気ガラリ
型式	引分けパネル戸	片開き戸	圧力作動閉鎖シャッター式 (ヒューズ付)
防火	特定防火設備	特定防火設備	特定防火設備
仕上	スチール(塗装)	スチール(塗装)	ステンレス
ガラス	網入透明 t=6.8 (防火ダンパー付き)	—	—
その他	防火ダンパーはヒューズ付 (温度70℃閉)	ホテル錠 インターロック付	復旧弁により開放 (遠隔連動復旧型)

耐火被覆			
柱	25mm厚ロックウール吹付 (1時間耐火) FP060CN-9460 力骨 及び ラス	外装	30mm厚ロックウール吹付 (1時間耐火) FP060NE-9305 外装材
梁	25mm厚ロックウール吹付 (1時間耐火) FP060BM-9408 力骨 及び ラス	屋根	屋根ルーフデッキ 30分耐火シート貼付 FP030RF-9325 又は FP030RF-9326
ブレース	25mm厚ロックウール吹付 (1時間耐火) FP060BM-9408 ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙﾌﾞﾚｰｽは耐火被覆不要		

屋根断面図

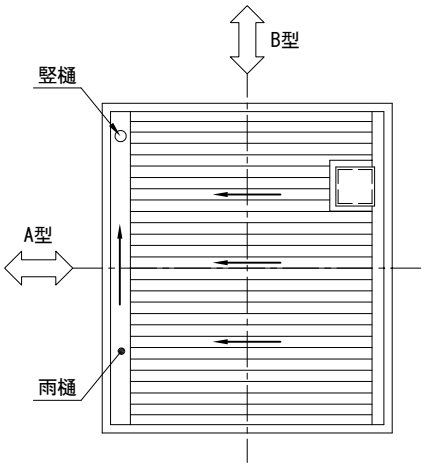


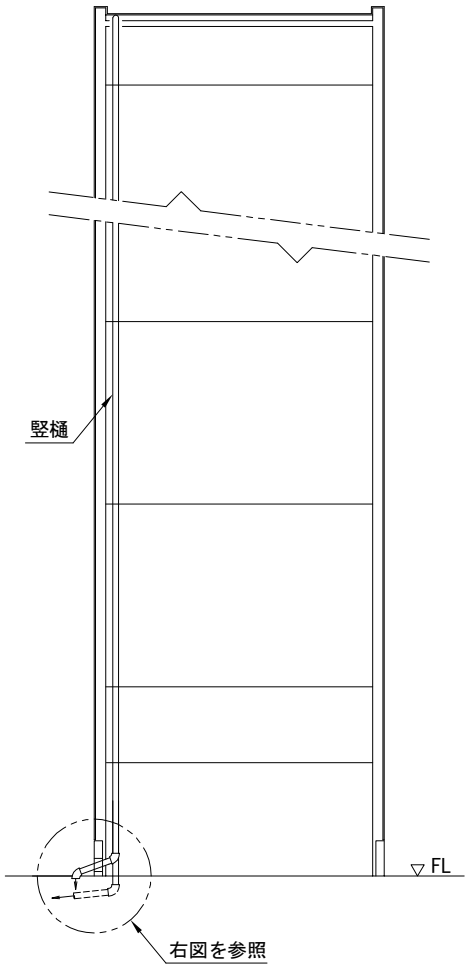




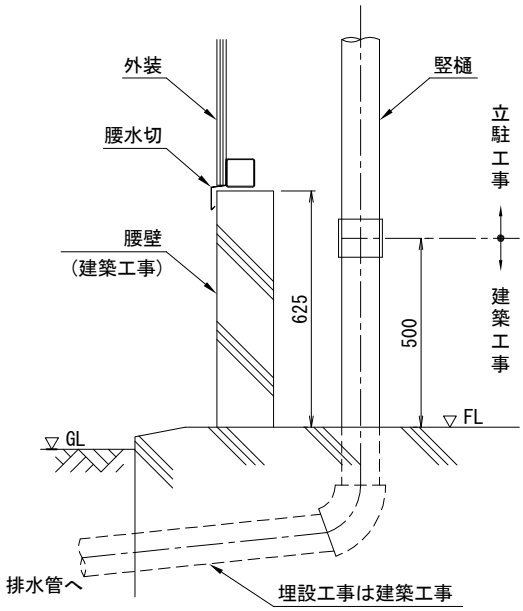
注）※寸法は柱サイズにより変わります。

雨どい

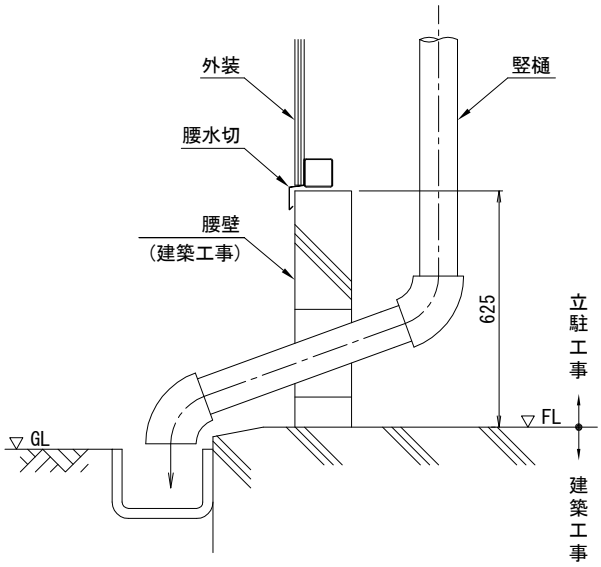




地中に排水管がある場合



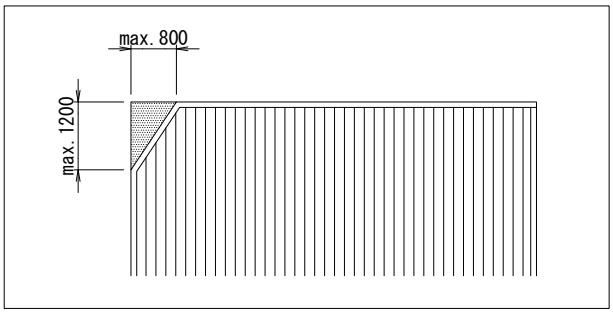
地中に排水管がない場合



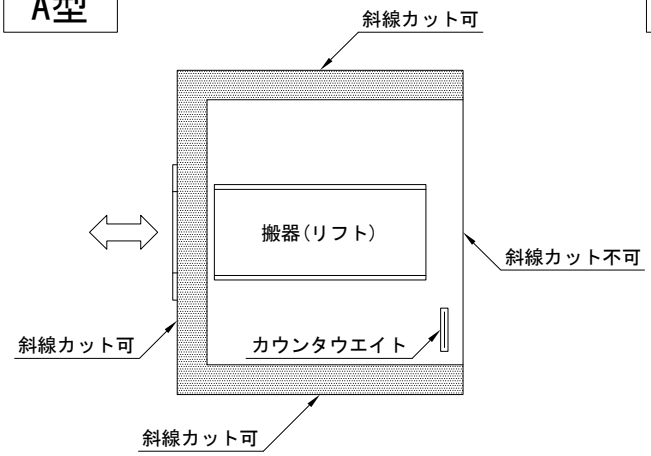
斜線カット

道路斜線、隣地斜線等で斜線カットする必要が生じた場合は、本図に従い行って下さい。
ただし、カウンタウエイトを設置してある面は斜線カットできませんのでご注意下さい。

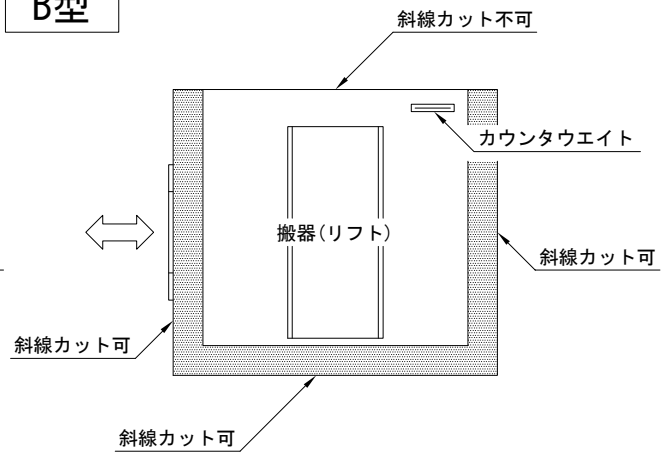
斜線カット寸法



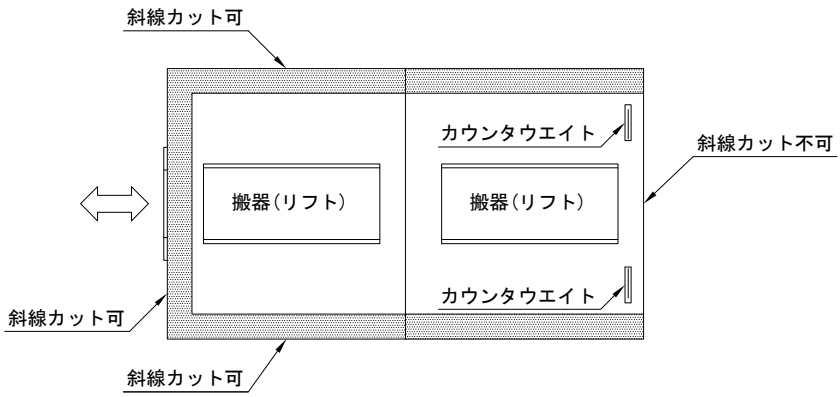
A型



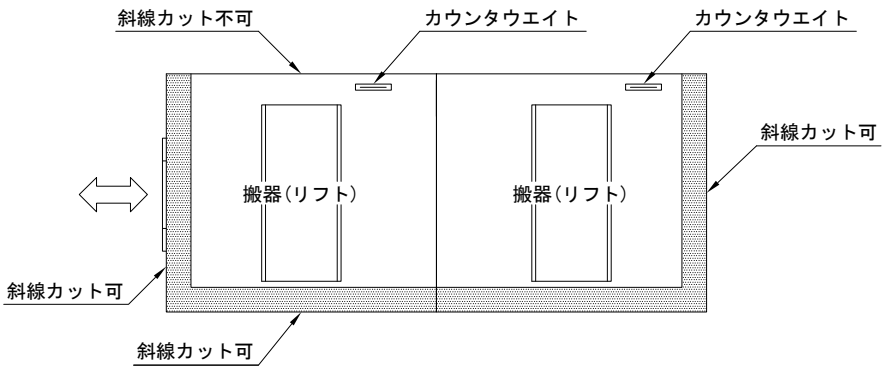
B型



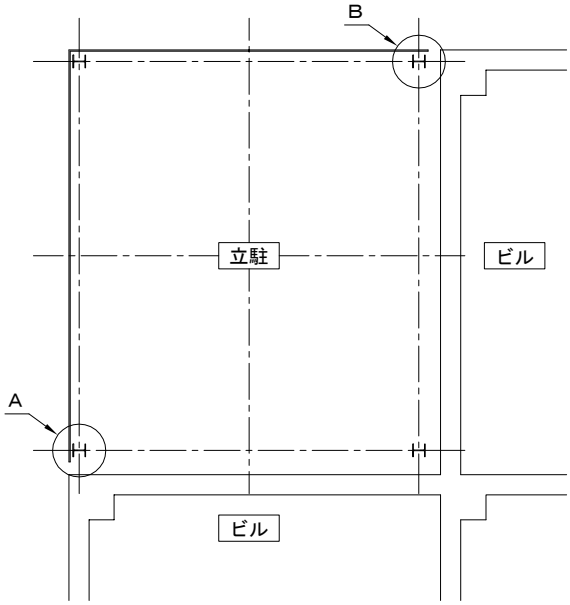
A型 縦列

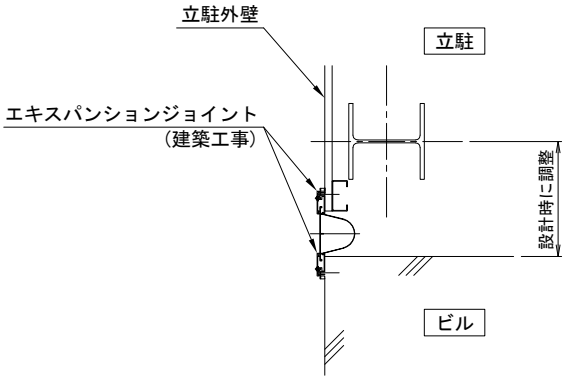


B型 縦列

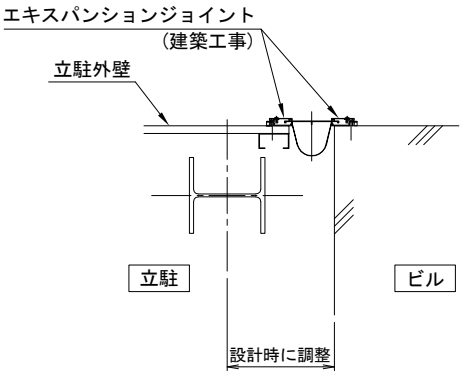


雨仕舞参考図

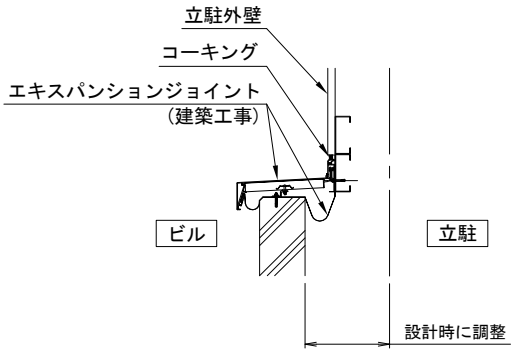




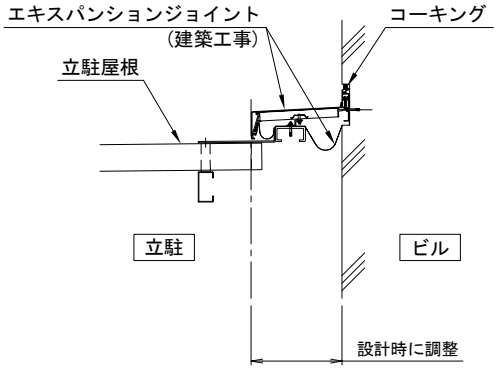
A詳細



B詳細

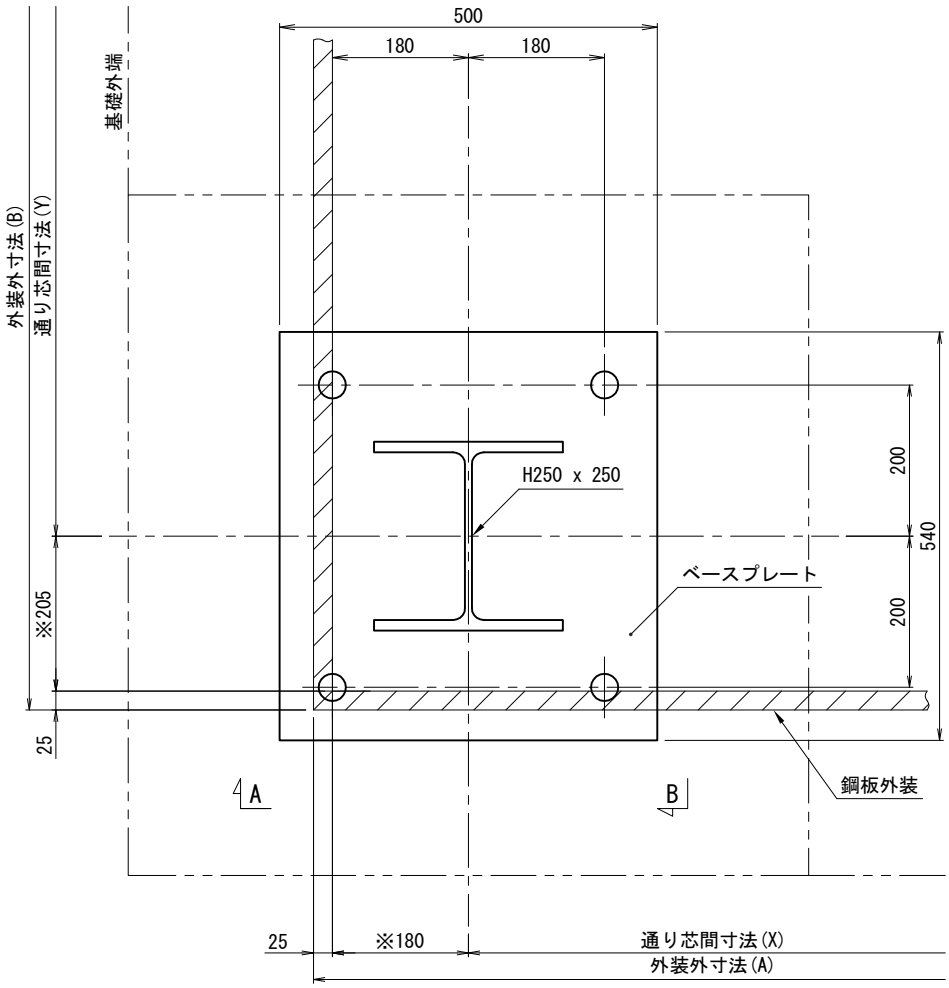


隣接ビルが立駐より低い場合

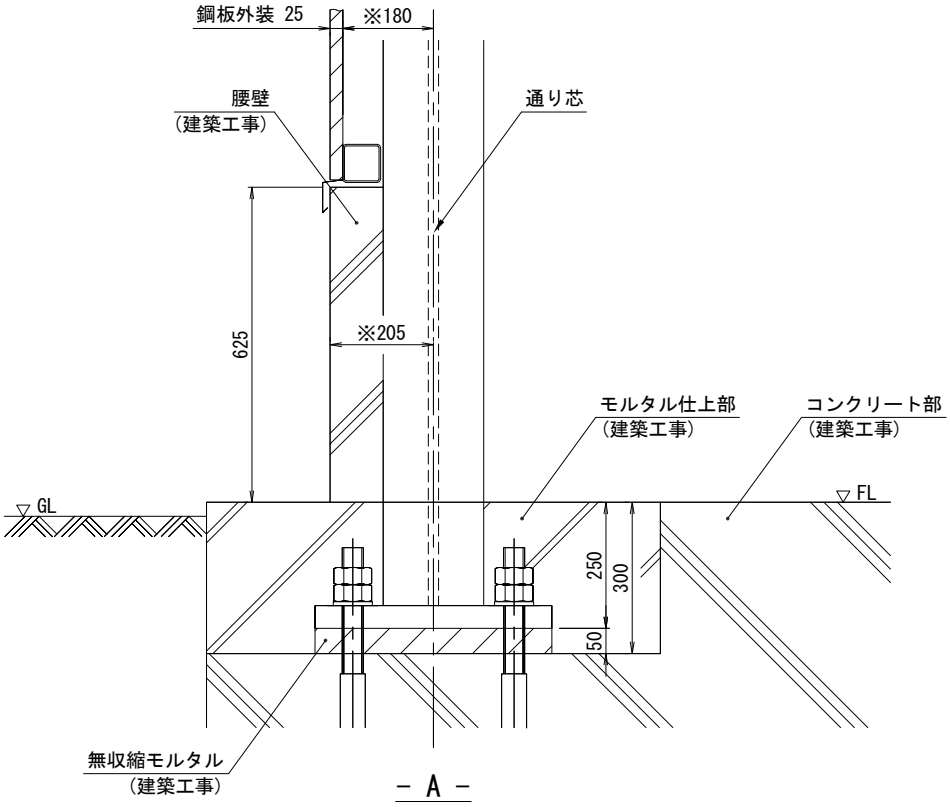


隣接ビルが立駐より高い場合

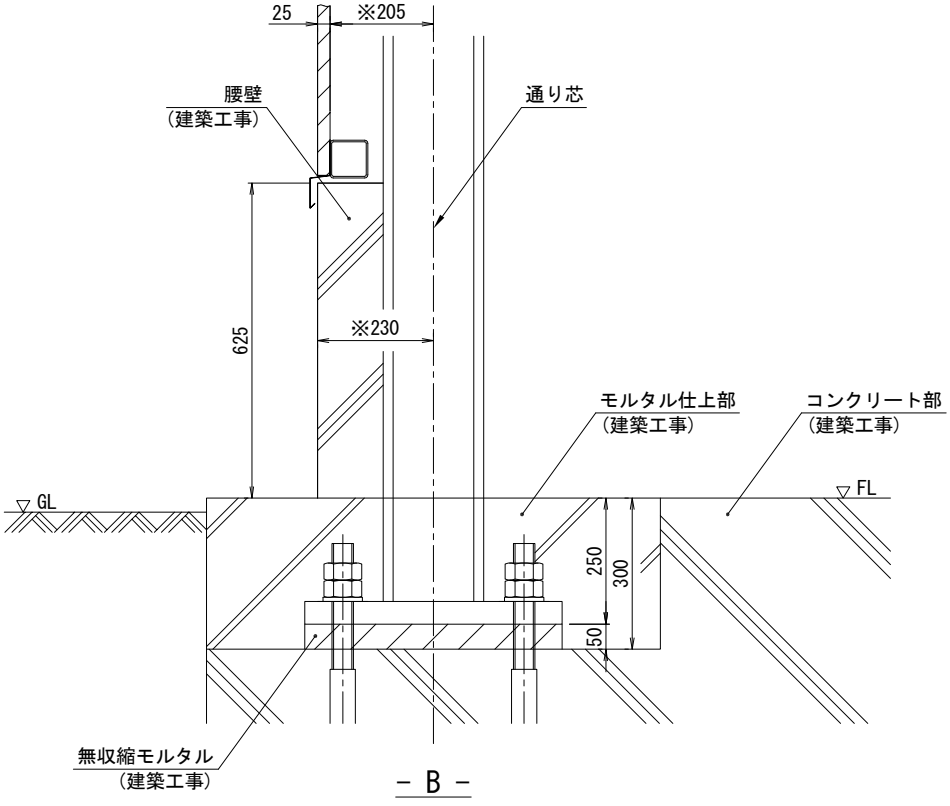
柱・外装・アンカーベース関係寸法



注1) 本図面は標準例を示します。
注2) (A)、(B)、(X)、(Y)の各寸法はタワー平面寸法(12～15、21、22ページ)を参照下さい。
注3) ※寸法は柱サイズにより変わります。
注4) 柱サイズ、アンカーボルト及びベースプレート(47、48ページ)を併せて参照下さい。


鋼板外装 25
※180
腰壁
(建築工事)
通り芯
625
※205
モルタル仕上部
(建築工事)
コンクリート部
(建築工事)
GL
FL
250
300
50
無収縮モルタル
(建築工事)

－ A －

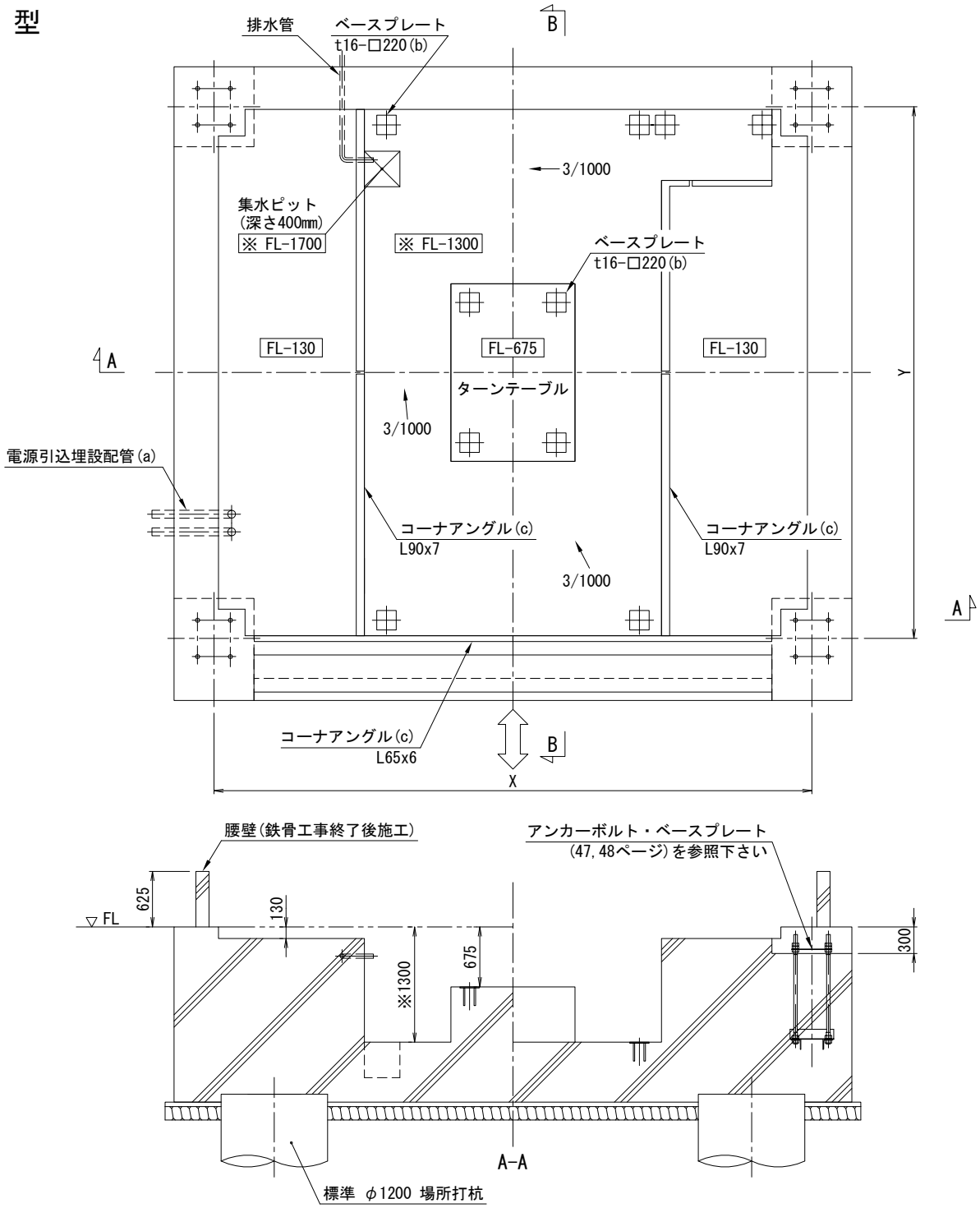

25
※205
腰壁
(建築工事)
通り芯
625
※230
モルタル仕上部
(建築工事)
コンクリート部
(建築工事)
GL
FL
250
300
50
無収縮モルタル
(建築工事)

－ B －

基礎仕上図

標準モデル

A 型



標準寸法

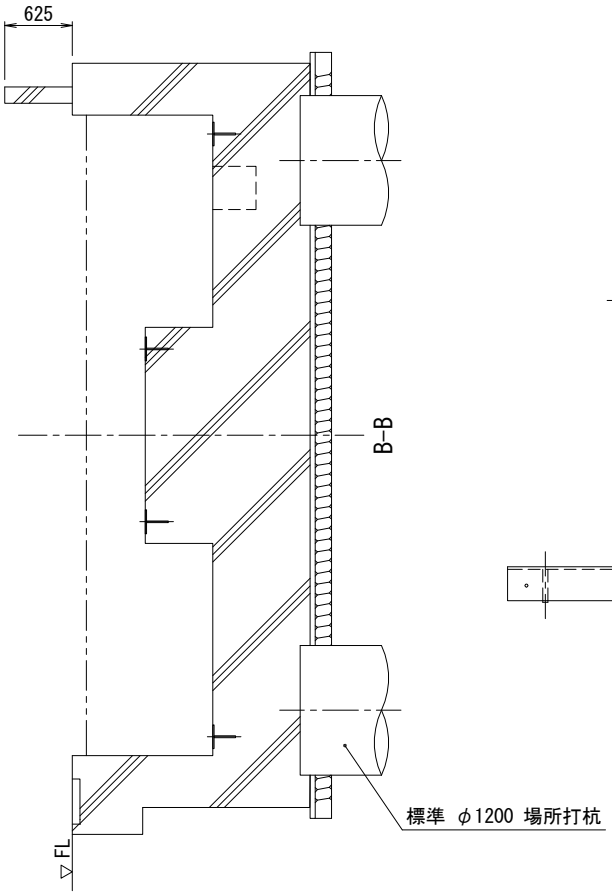
単位：mm

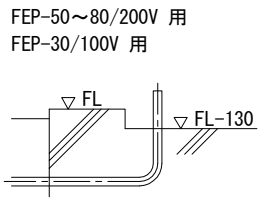
立駐型式	M型	W型	Z型
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	6,130

注1) 本表は乗用車48台以下の場合を示します。
注2) ※寸法は型式により異なる場合があります。
(寸法は水勾配を含まない最小寸法です)
注3) FL面は水の侵入を防ぐため、GLより高く設定して下さい。

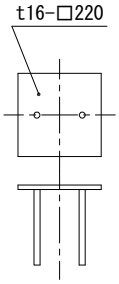
工事範囲

1. 下記工事は、建築工事範囲とします。
   1. 後打コンクリート工事
   2. 腰壁工事
   3. アンカーボルト、アンカーボルト固定用取付台、ベースプレート、コーナーアングルの取付及びコンクリートへの埋設
   (アンカーボルト、ベースプレート、コーナアングルの製作は立駐工事)
   (アンカーボルト固定用取付台の製作は建築工事)
2. 排水管埋設は、設備工事とします。
3. 電気配管埋設は、電気工事とします。

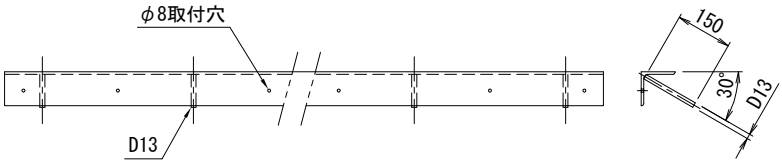




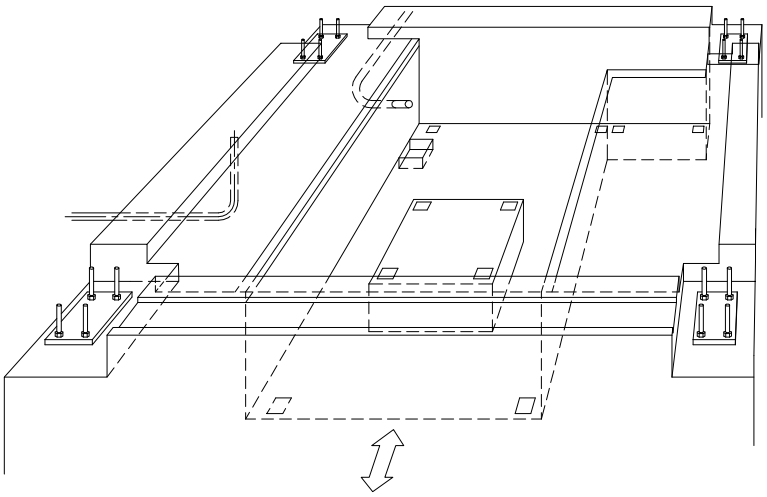
(a) 詳細

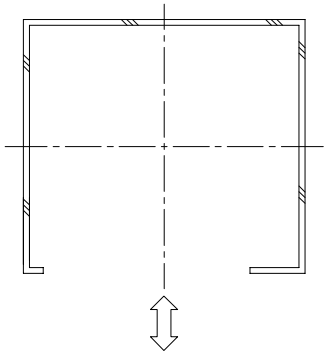


(b) 詳細



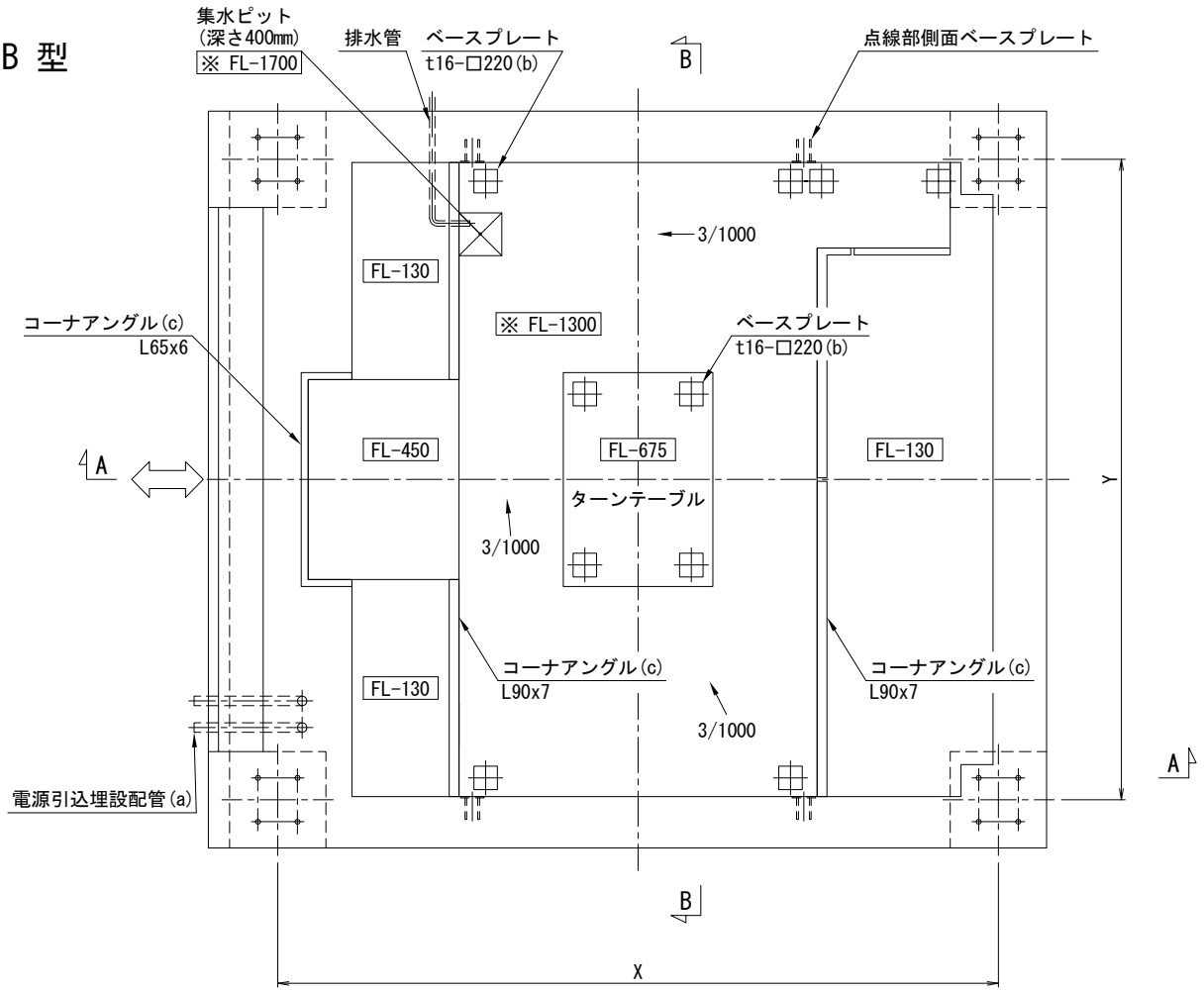
(c) 詳細

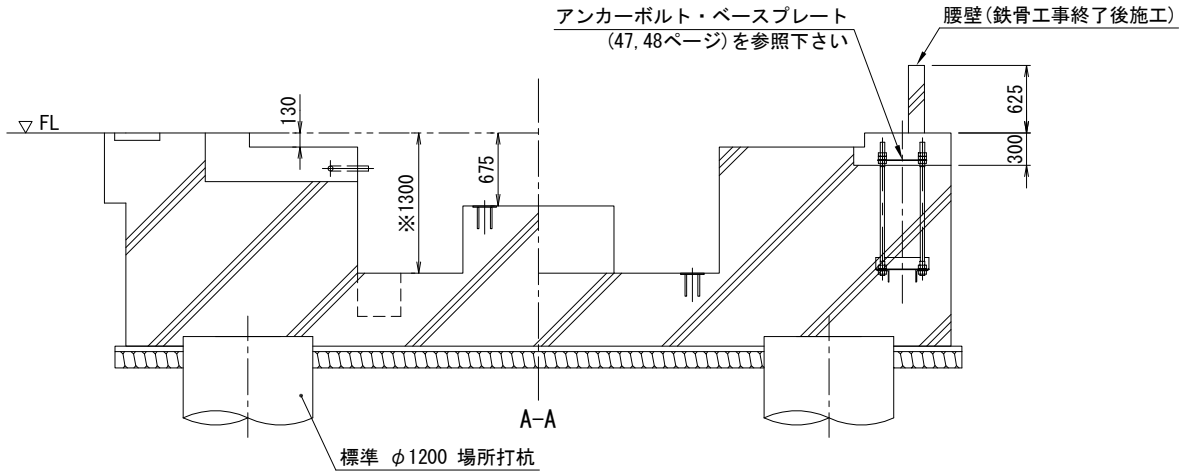




腰壁配置図(高さFL+625mm)

B 型





標準寸法

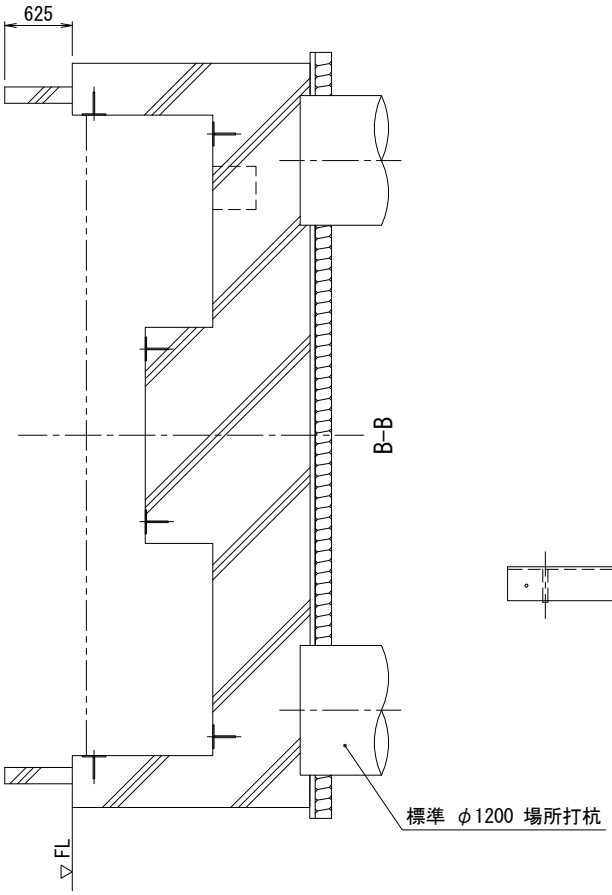
単位：mm

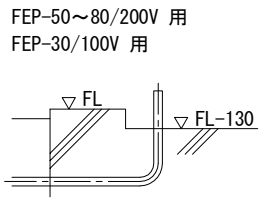
立駐型式	M型	W型	Z型
X通り芯間寸法	6,580	6,730	6,880
Y通り芯間寸法	5,880	6,130	6,130

注1) 本表は乗用車48台以下の場合を示します。
注2) ※寸法は型式により異なる場合があります。
(寸法は水勾配を含まない最小寸法です)
注3) FL面は水の侵入を防ぐため、GLより高く設定して下さい。

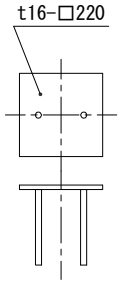
工事範囲

1.下記工事は、建築工事範囲とします。
1.後打コンクリート工事
2.腰壁工事
3.アンカーボルト、アンカーボルト固定用取付台、ベースプレート、コーナーアングルの取付及びコンクリートへの埋設
(アンカーボルト、ベースプレート、コーナアングルの製作は立駐工事)
(アンカーボルト固定用取付台の製作は建築工事)
2.排水管埋設は、設備工事とします。
3.電気配管埋設は、電気工事とします。

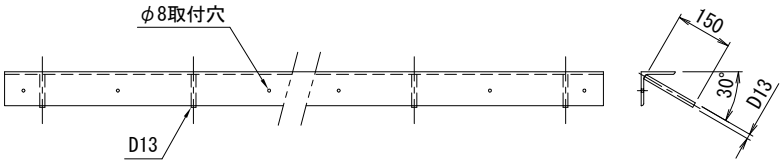




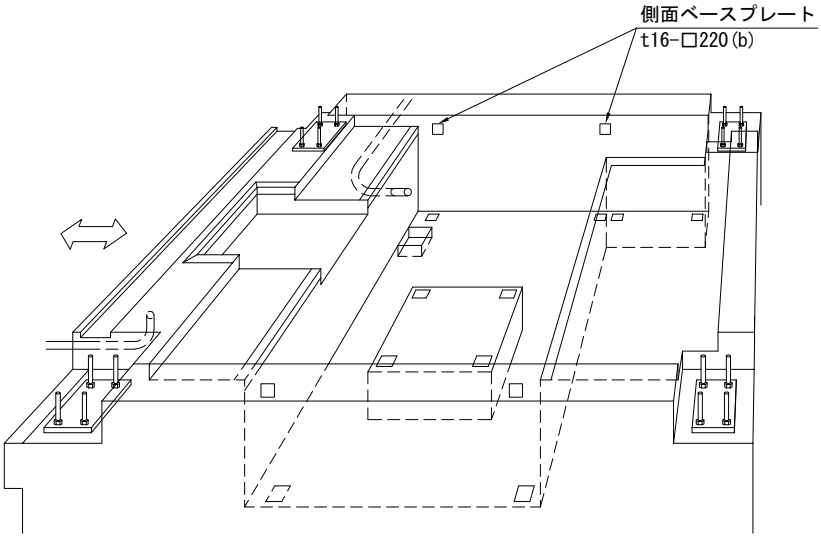
(a) 詳細

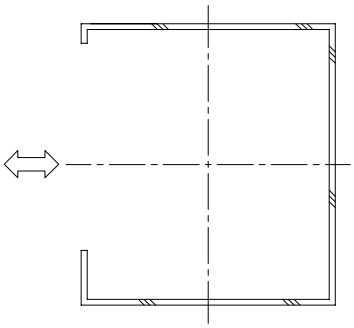


(b) 詳細



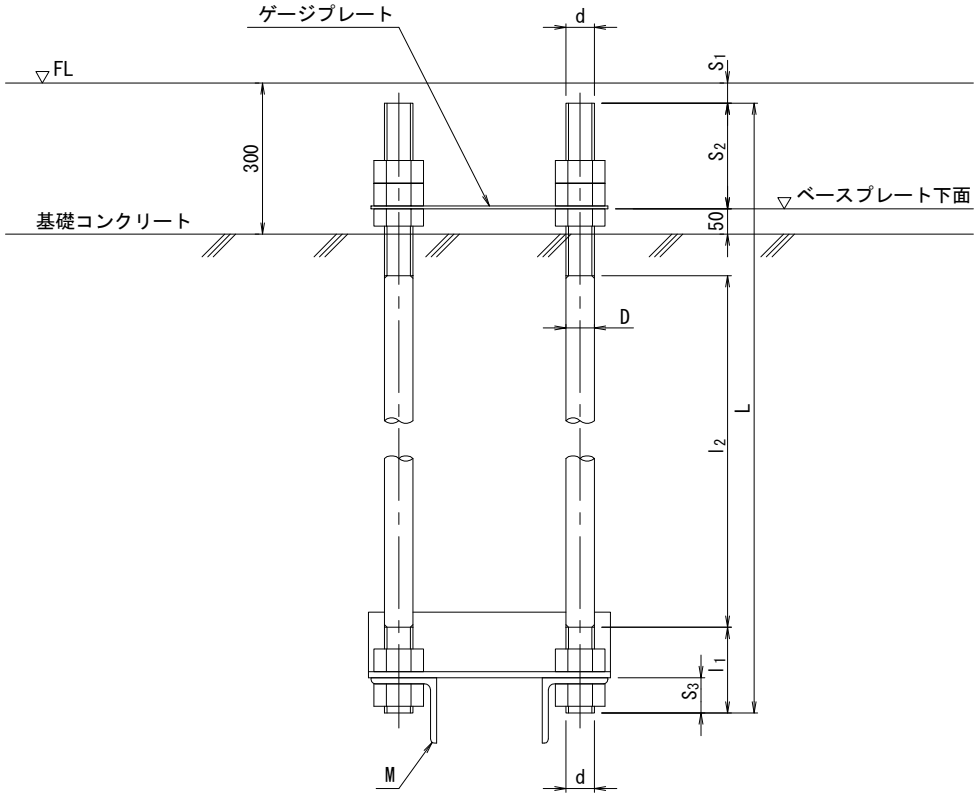
(c) 詳細





腰壁配置図(高さFL+625mm)

アンカーボルト・ベースプレート

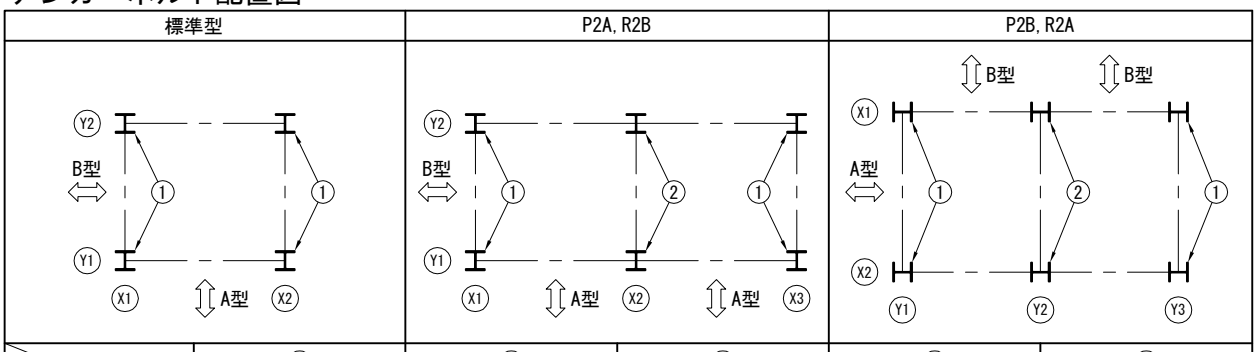


アンカーボルト寸法表

単位:mm

ボルト規格	d	D	L	l_1	l_2	S_1	S_2	S_3	M
ABR490 転造ねじ メートル並目ねじ (JIS B 1220)	M36	33.17	1,220	110	910	90	160	50	L 90 x 7
	M42	38.83	1,470	130	1,090	65	185	55	L100 x 7
	M48	44.48	1,650	150	1,240	55	195	60	L130 x 9
ABM490 切削ねじ メートル細目ねじ (JIS B 1221)	M56	56	1,910	170	1,470	40	210	70	L130 x 12
	M64	64	2,190	200	1,690	20	230	90	L150 x 12

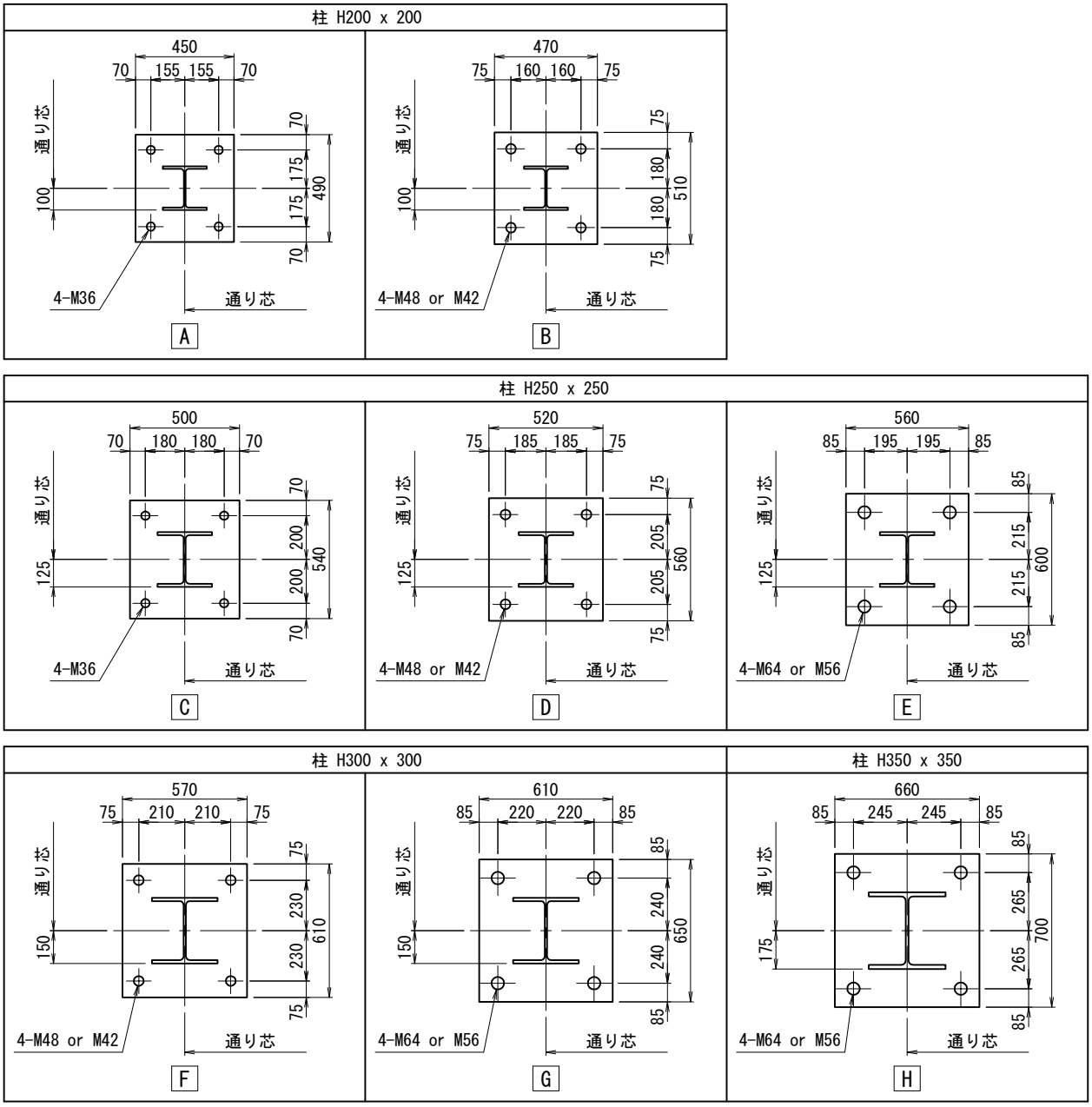
アンカーボルト配置図



収容台数 / サイズ	①		①		②		①		②	
	32台以下	34～42台	32台以下	34～36台	32台以下	34～42台	32台以下	34～36台	32台以下	34～42台
M型, W型	A or B	D ～ G	A or B	D	D	F ～ H	A or B	D	E	F ～ H
Z型	A or B	D ～ G	C or D	D	F	F ～ H	C or D	D	E	F ～ H

柱ベースプレート寸法

単位:mm

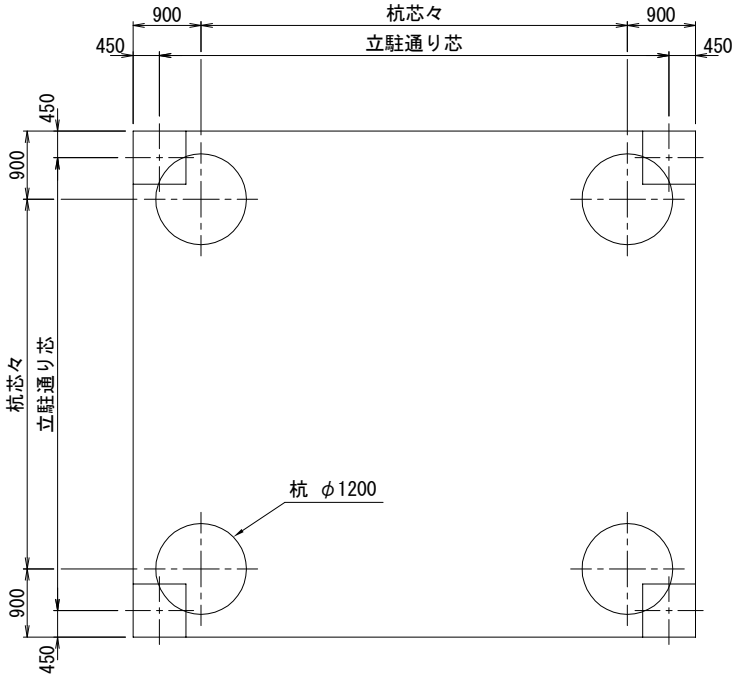


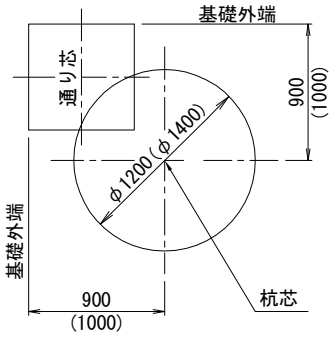
注）アンカーボルト配置図及び柱ベースプレート寸法は地域により異なりますので、参考とします。

基礎標準杭径と位置

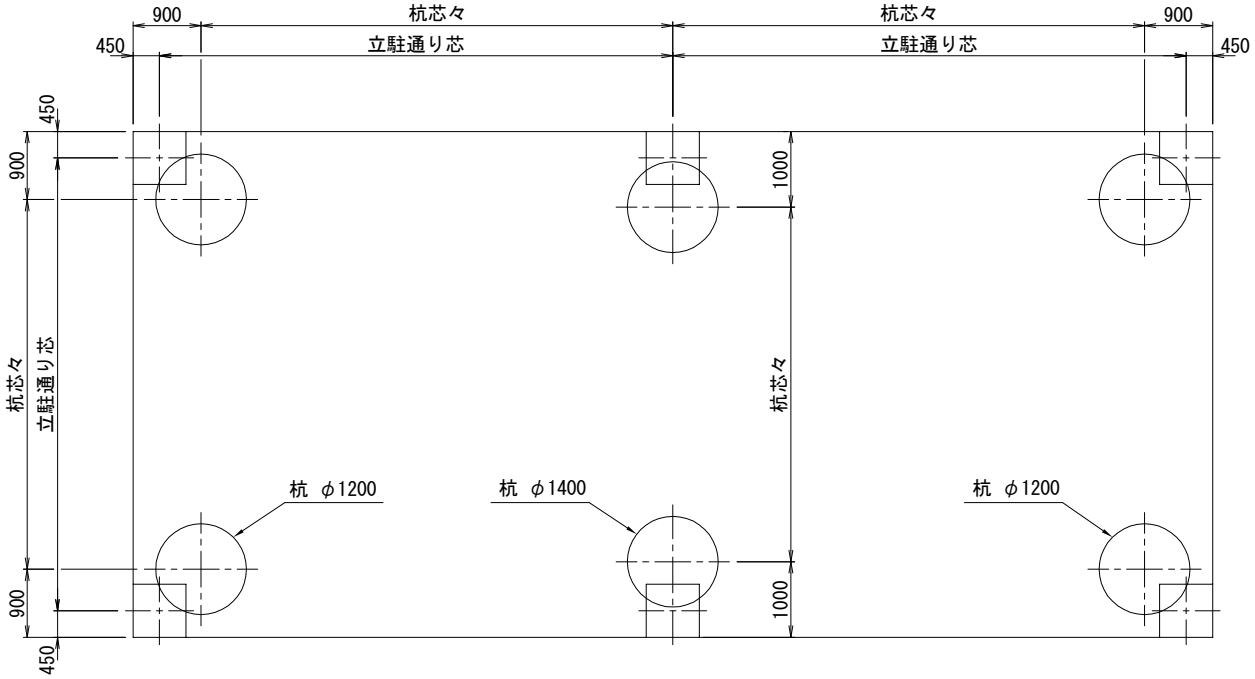
標準杭位置

1基用

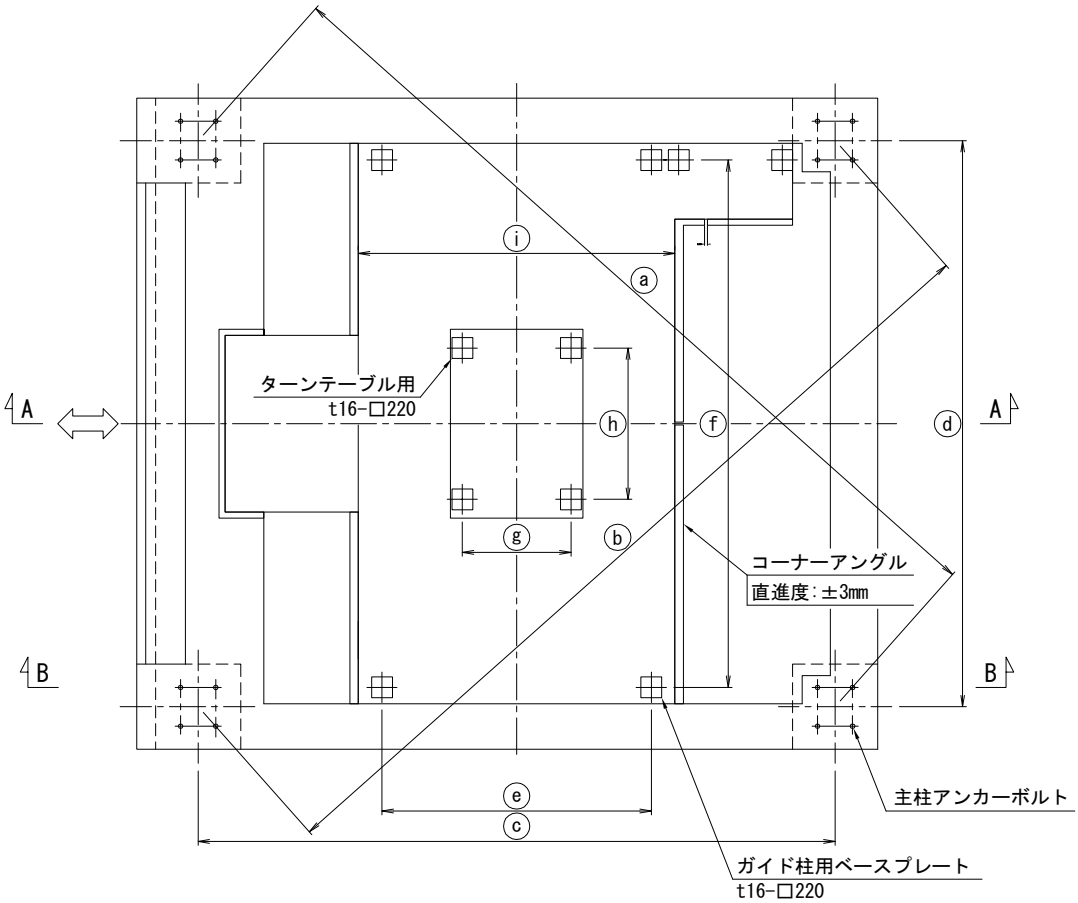


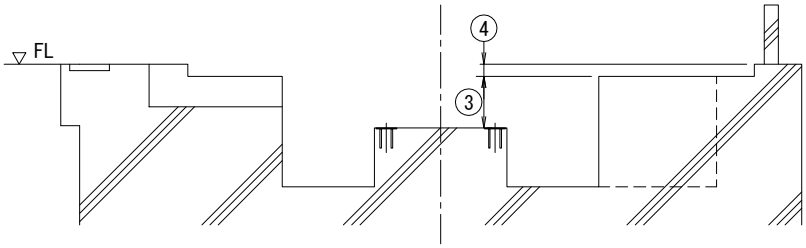


2基用

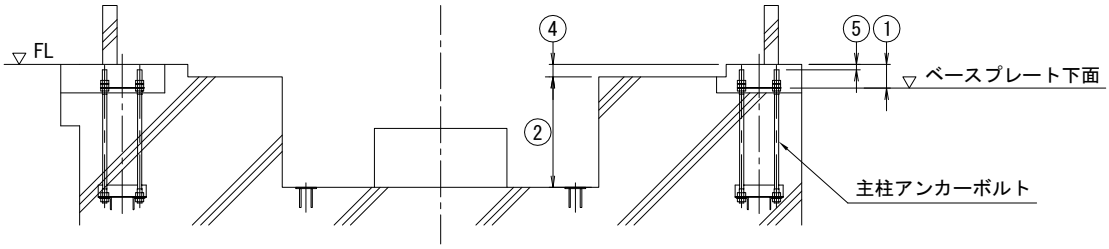


基礎・埋込金物仕上がり公差





A-A



B-B

仕上がり公差表

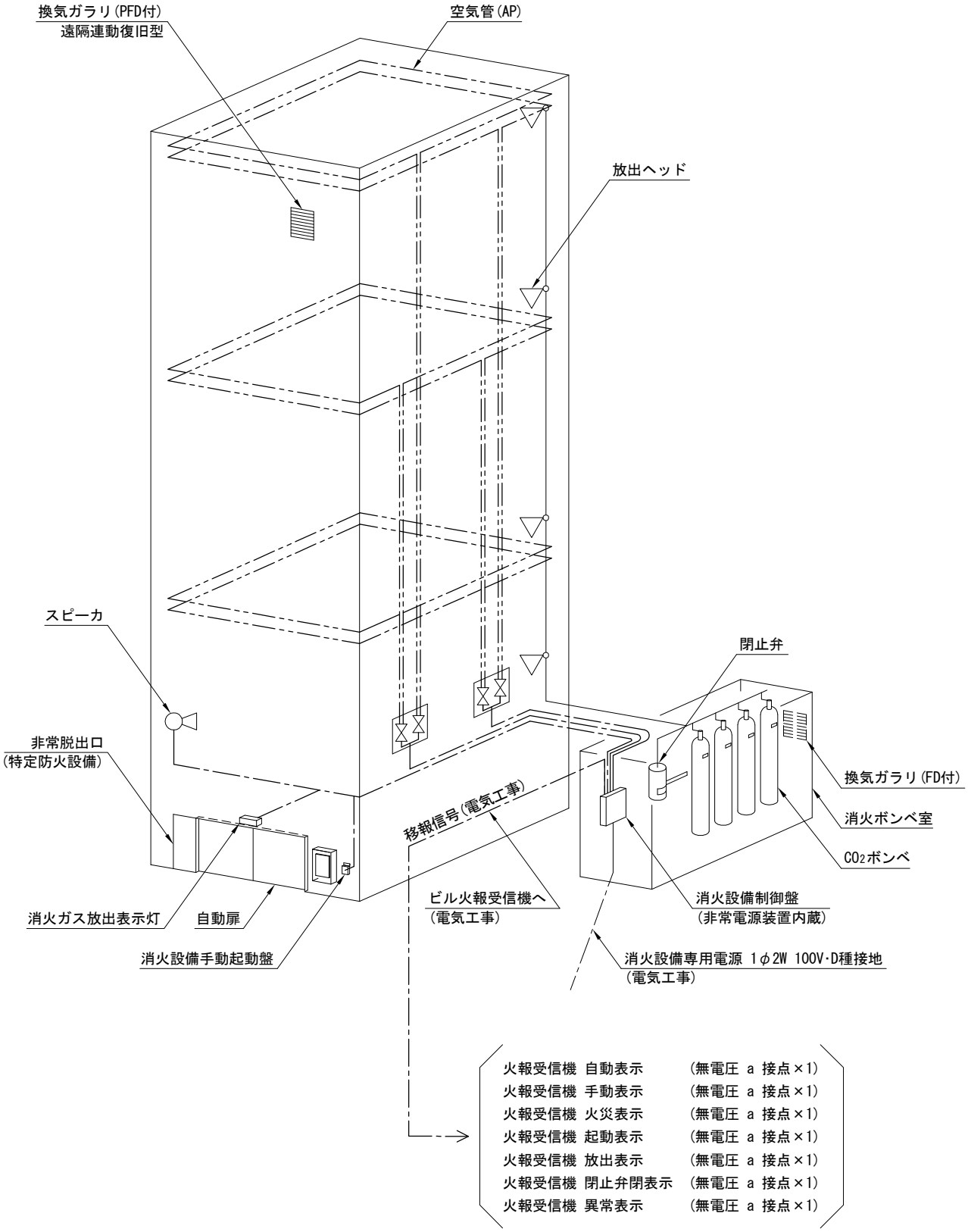
平面寸法		レベル	
対角ⓐⓑの差	最大± 8 mm	①	最大± 2 mm
ⓒ	最大± 6 mm	②	最大± 15 mm
ⓓ	最大± 6 mm	③	最大± 10 mm
ⓔ	最大± 15 mm	④	最大± 3 mm
ⓕ	最大± 15 mm	⑤	最大± 3 mm
ⓖ	最大± 15 mm		
ⓗ	最大± 15 mm		
ⓘ	最大± 10 mm		

注）上記の寸法は施工図面寸法との差を示します。

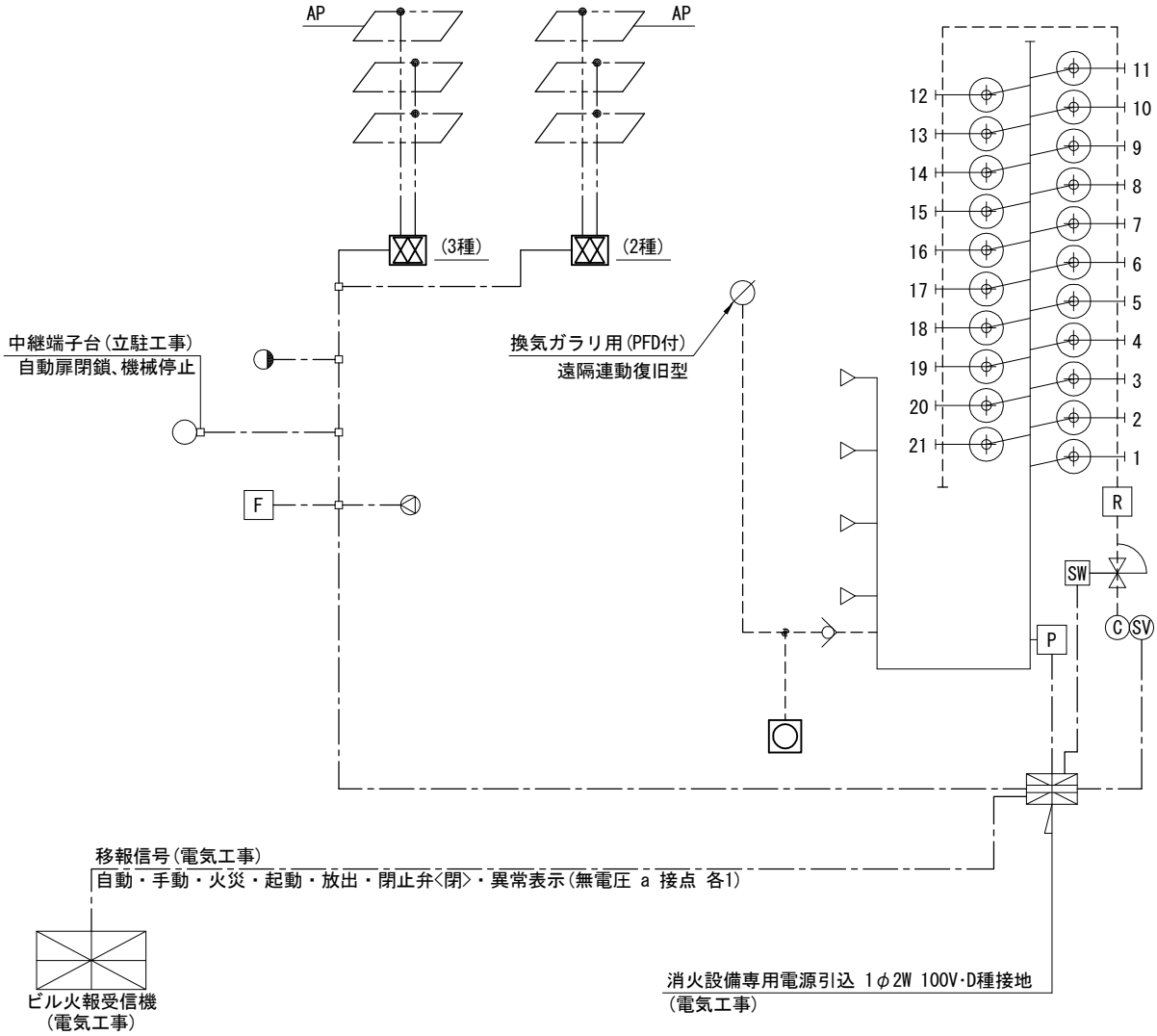
消火設備(標準系統図)

設備図

不活性ガス(CO_2)消火設備



系統図



凡 例

記　号	名　　称	記　号	名　　称
	消火設備制御盤 (非常電源装置内蔵)		差動式分布型熱感知器
F	消火設備手動起動盤		放出ヘッド
SW	閉止弁		配管路(Sch80)
P	圧力スイッチ		銅管路(6φ)
R	リリーフ弁		耐熱電線(HP1.2mm)
	CO_2 ガス容器 (82.5L,55kg)		空気管路
C	起動容器		逆止弁(6φ)
SV	電磁弁		ピストンレリーザー(遠隔連動復旧型)
	スピーカ		ダンパー復帰弁箱(遠隔連動復旧弁)
	消火ガス放出表示灯		

消火設備(二酸化炭素:CO_2)

1.車の収容台数別必要ボンベ本数(参考)

台数＼基数		1基			2基		
		M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
乗用車	20	14	14	15	25	26	27
	22	15	16	16	27	28	29
	24	16	17	17	28	30	31
	26	17	18	18	30	32	33
	28	18	19	19	32	34	35
	30	19	20	20	34	36	37
	32	20	21	22	36	38	39
	34	21	22	22	38	40	41
	36	22	22	22	40	42	43
	38	22	23	23	42	44	45
	40	23	24	24	44	46	47
	42	24	25	26	46	48	50

注) 型式により必要ボンベ本数は変わります。

【CO_2ガス所要量とボンベ本数の算出】

・CO_2放出ガス量：TG(kg)

$TG=(V\cdot K_1)+(A\cdot K_2)$

V ：塔内容積(㎥)
A ：開口部面積(㎡)
K_1：容積算出係数(kg/㎥)
K_2：開口部補償係数(5.0kg/㎡)

V(㎥)	K_1(kg/㎥)
15～50未満	1.0
50～150未満	0.9
150～1500未満	0.8
1500以上	0.75

・CO_2ボンベ本数：N本

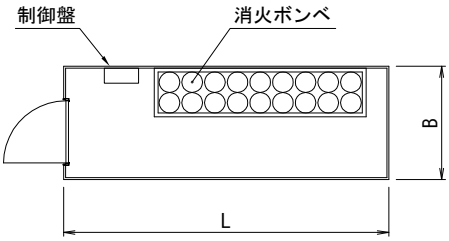
N＝TG/55

※小数点以下を切り上げた本数にします。

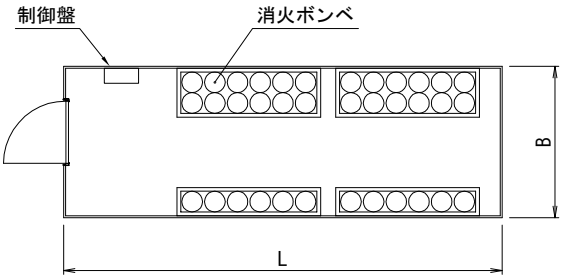
2.消火ボンベ室必要寸法

(1)地上設備：耐火仕様

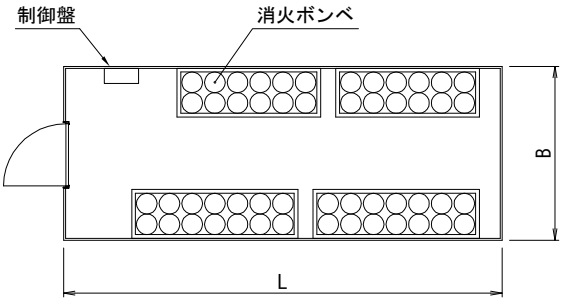
2列配置



3列配置

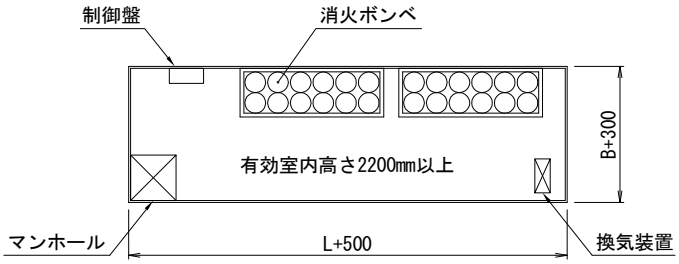


4列配置



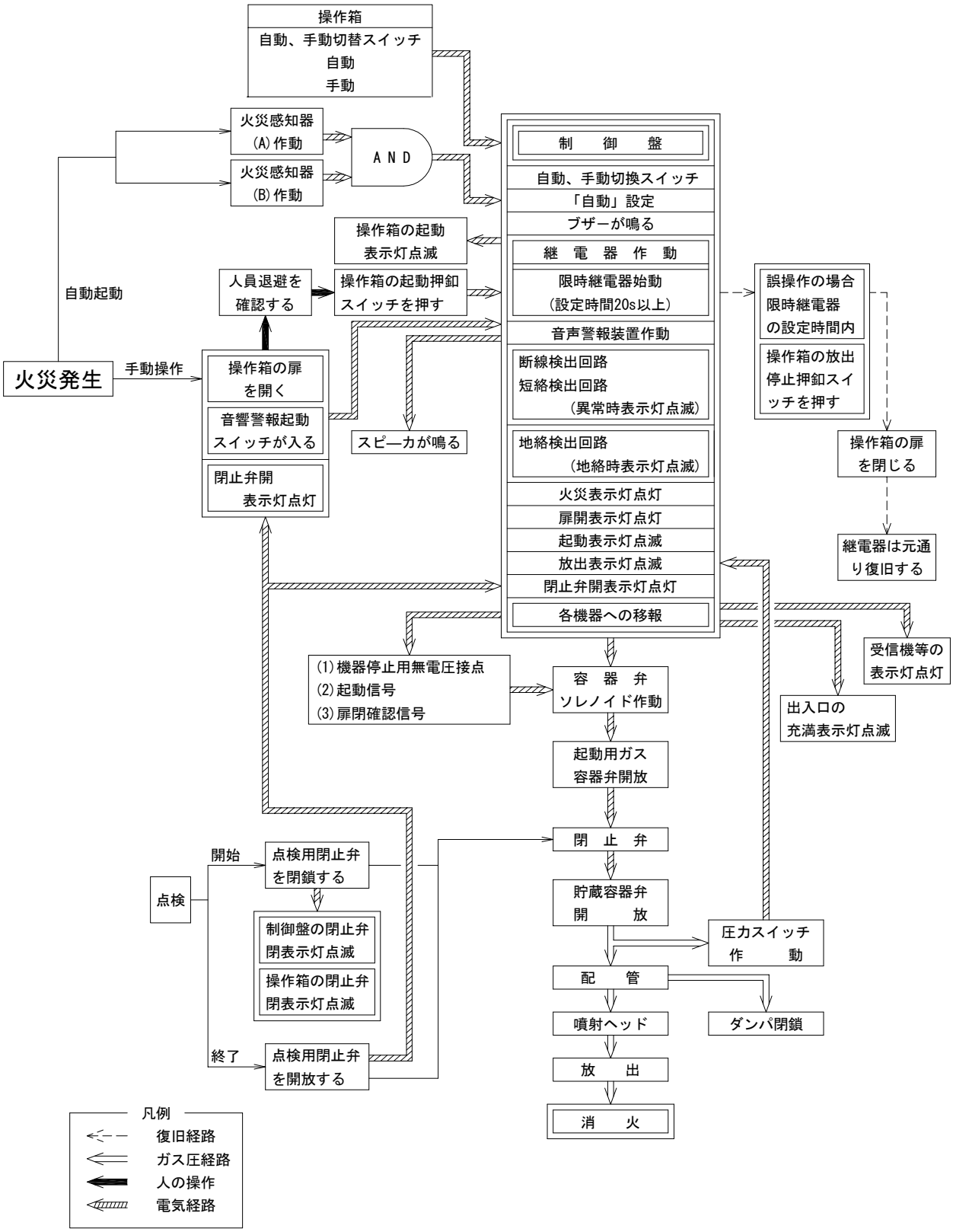
配置	2 列	3 列	4 列	L(mm)
B(mm)	1,500	2,000	2,300	−
ボンベ本数	14	26	32	4,400
	16	27	34	4,700
	18	30	38	5,100
	20	33	42	5,400
	22	38	48	6,000
	24	41	52	6,300
	26	44	56	6,600
	28	47	−	6,900
	30	50	−	7,200
	32	53	−	7,500
	34	56	−	7,800
	36	−	−	8,100
	38	−	−	8,400
	40	−	−	8,700
	42	−	−	9,400
	44	−	−	9,700
	46	−	−	10,000
	48	−	−	10,300
	50	−	−	10,600

(2)地下室への設置



地下室にボンベを降ろすマンホールとその天井部に吊りフックを設置して下さい。内部の換気、排水等を考慮して下さい。

3.消火設備標準作動



注1) 上記フローチャートは、CO_2ガス時の一般的な例を示します。他の消火ガスの場合でも基本的な操作方法は同一になります。

注2) 消火設備メーカの違いにより操作箱等の機器が異なります。使用前に弊社取扱説明書及び消火設備メーカの取扱説明書を必ずお読み下さい。

消火設備(窒素:N_2)

1.車の収容台数別必要ボンベ本数(参考)

台数＼基数		1基			2基		
		M型	W型	Z型	M型	W型	Z型
乗用車	20	24	25	26	46	49	50
	22	26	27	28	49	53	54
	24	27	29	30	53	56	58
	26	29	31	32	57	60	62
	28	31	33	34	60	64	66
	30	33	35	36	64	68	69
	32	35	37	38	67	72	73
	34	37	39	40	71	75	77
	36	38	41	42	75	79	81
	38	40	43	44	78	83	85
	40	42	45	46	82	87	89
	42	44	47	48	85	91	93

注）型式により必要ボンベ本数は変わります。

【N_2ガス所要量とボンベ本数の算出】

・N_2放出ガス量：W(㎥)

$W=0.52\times V$

V ：塔内容積(㎥)

・N_2ボンベ本数：N(本)

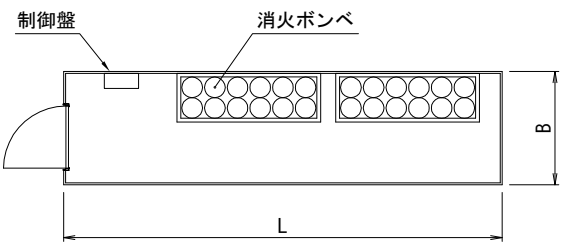
$N=W/20.3$

※小数点以下を切り上げた本数にします。

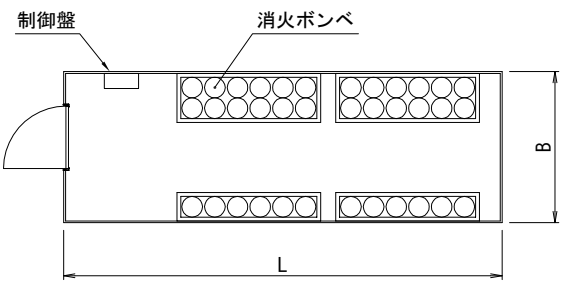
2.消火ボンベ室必要寸法

地上設備：耐火仕様

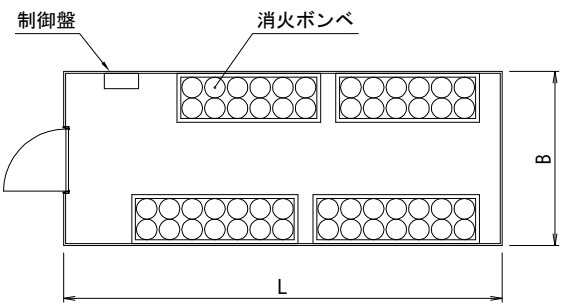
2列配置



3列配置



4列配置



配置	2 列	3 列	4 列	L(mm)
B(mm)	1,500	2,000	2,300	−
ボンベ本数	24	45	55	7,000
	26	47	58	7,300
	28	49	61	7,600
	30	52	65	7,900
	32	55	68	8,200
	34	61	74	8,800
	36	62	76	9,100
	38	64	−	9,400
	40	66	−	9,700
	42	70	−	10,000
	44	76	−	10,600
	46	−	−	11,000
	48	−	−	11,300
	50	−	−	11,600

窒素ガスの使用は、塔内容積(3000㎥)以下の場合に認められています。
(ボンベ本数76本まで)
それを超える場合は、評価委員会にかけなければなりません。

3.採用時の留意事項

N_2ガス消火設備は、N_2ガス放出時に区画内圧力が高まるため避圧措置(避圧口)が必要です。
避圧口面積は、下式により算出できます。

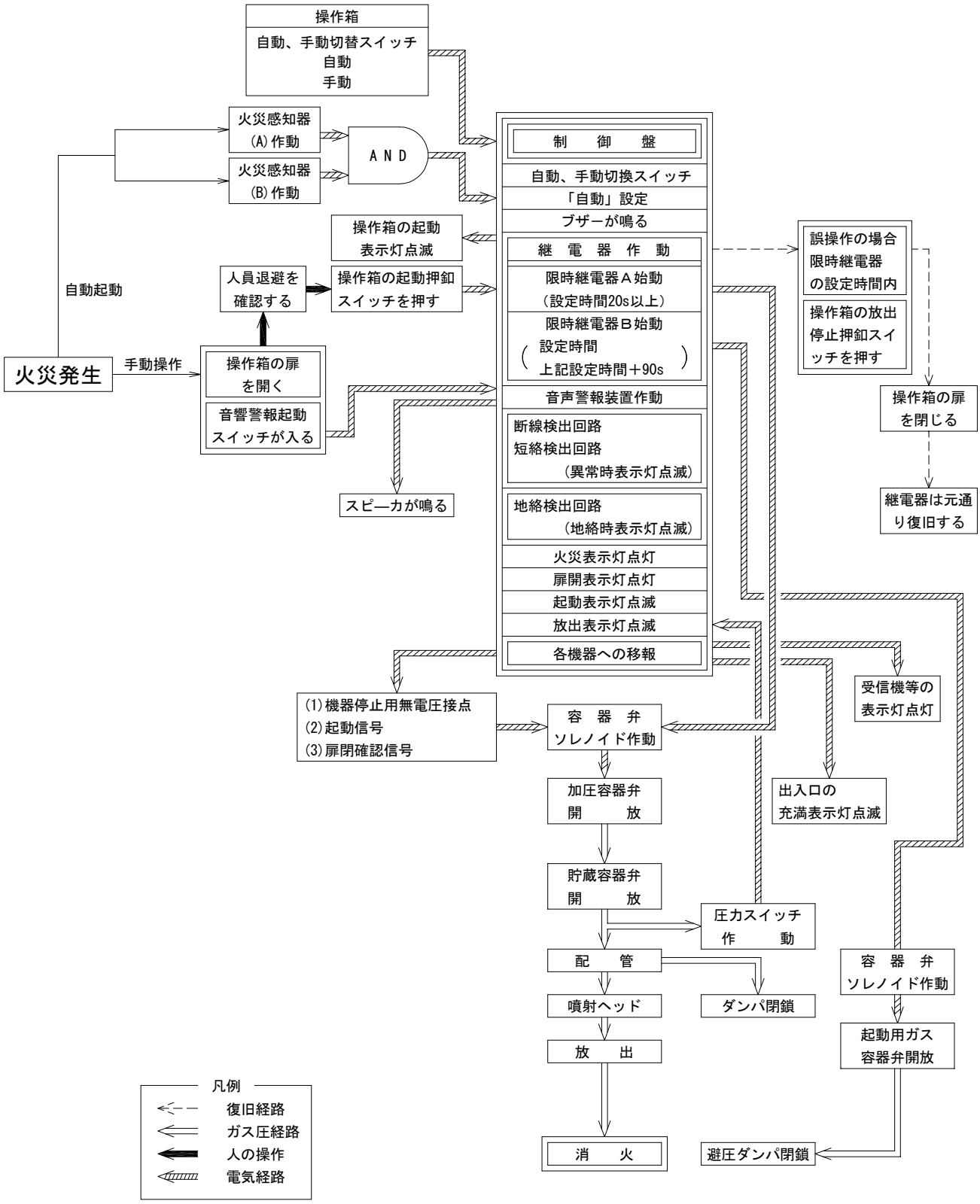
・避圧開口面積：A(㎡)

$$A=134\times Qn/\sqrt{P}/10^4$$

Qn ：噴射ヘッドからの最大消火剤流量(㎥／min)
Qn＝1.6×容器本数(本)×20.3(㎥)／ガス放出時間(1min)
P ：許容区画内圧力(Pa)

・避圧口は、換気ガラリ部と兼ねることが可能です。

4. 消火設備標準作動



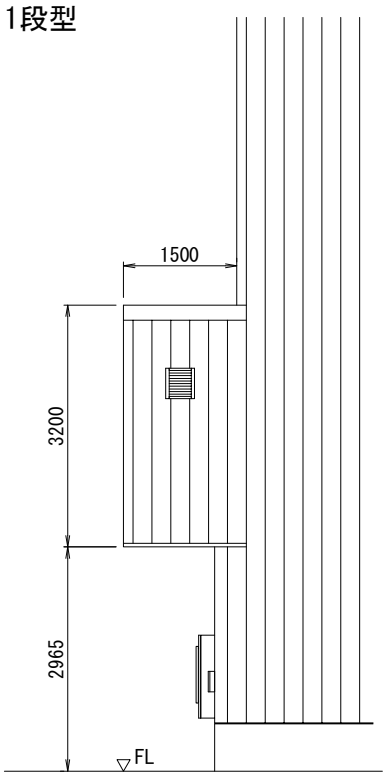
注1）上記フローチャートは、N_2ガス時の一般的な例を示します。他の消火ガスの場合でも基本的な操作方法は同一になります。

注2）消火設備メーカの違いにより操作箱等の機器が異なります。使用前に弊社取扱説明書及び消火設備メーカの取扱説明書を必ずお読み下さい。

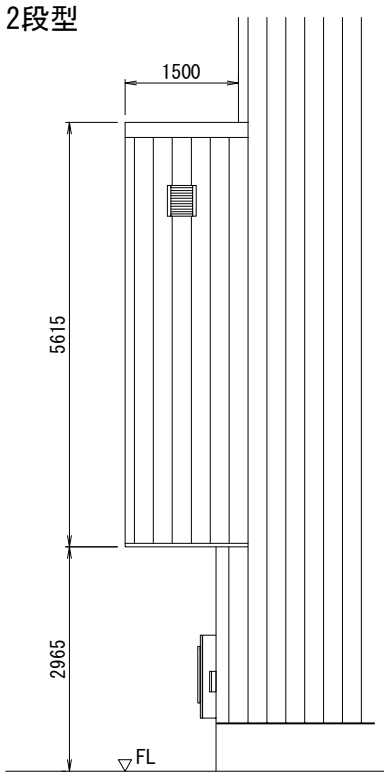
消火ボンベ室 計画例

上部設置

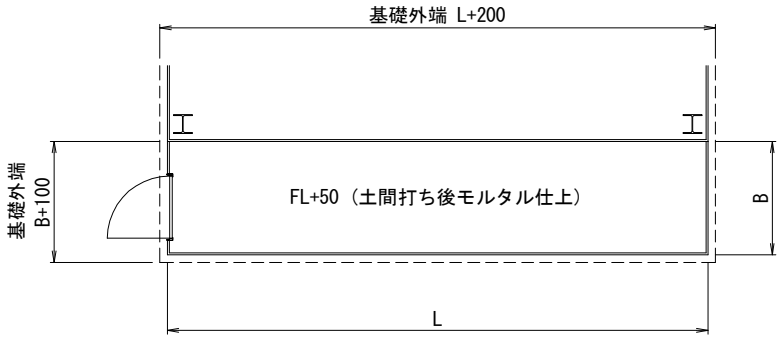
1段型



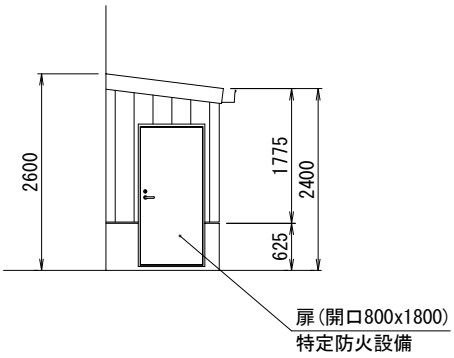
2段型

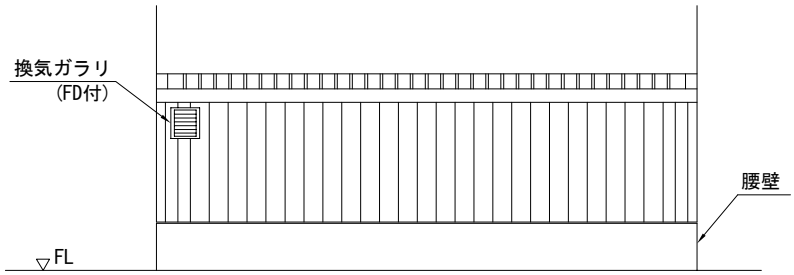


地上設置



平面寸法





消火ガス排出方法

CO_2消火設備

【消火ガスの排出方法について】

- 消防法施行規則第19条5の19の二項に規定する消火後の棟内「消火剤を安全な場所に排出するための措置」には、下記に示す２つの方法があります。
  1)開口部(扉)を設けて自然排出させる方法。
  2)機械(排出ファン)による強制排出の方法。
- 自然排出方法の許可については、消火後の消火剤を排出させた際、棟外に局部的滞留を起こさないと消防が判断した場合のみ許可されます。
- 扉及び換気ガラリ等の開口は階段室に面して設けることはできません。（消防法施行規則19条5項4号）

(1)CO_2排出扉の仕様[自然排出方式]

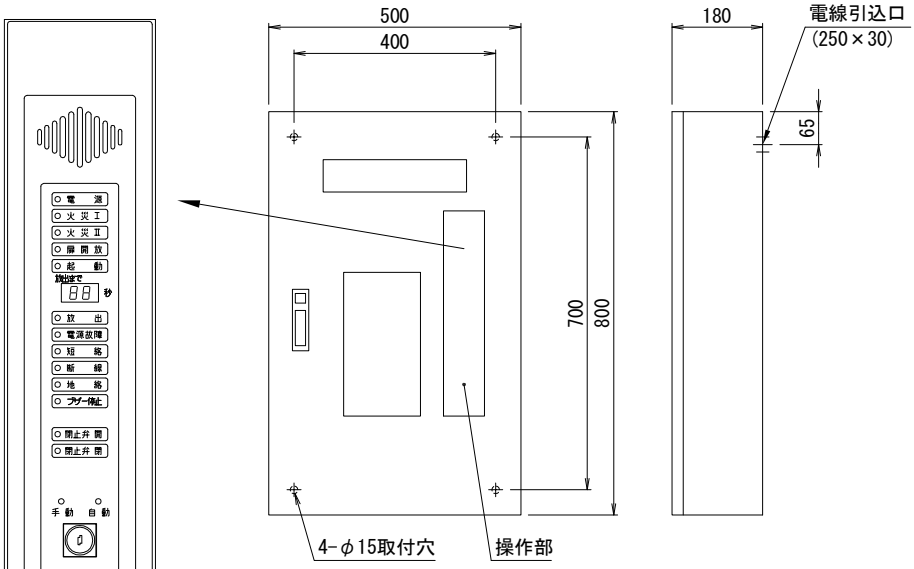
- 床面の1/10 以上の開口面積が必要です。
- CO_2排出専用扉は特定防火設備とします。
- 扉はドアチェック付(自閉式)とし、消火剤排出時に駐車場管理者が棟外からのみ開閉できる構造とします。
- 扉の外側にはCO_2ガス放出表示灯が必要です。

(2)CO_2強制排出装置の仕様[強制排出方式]

- (1)項の開口面積がとれない場合、または開口部が建物の壁、天井で囲まれていて、消火ガスが拡散され難い場合は、排出ファン等を設け、強制的に換気を行います。
- 排出装置(設備)の換気能力は、所轄消防の行政指導で異なります。
- 消火設備の作動直前には、必ず排出装置が停止している必要があります。
- 強制排出装置には、非常電源が必要です。

消火設備機器 意匠図

CO_2消火設備制御盤

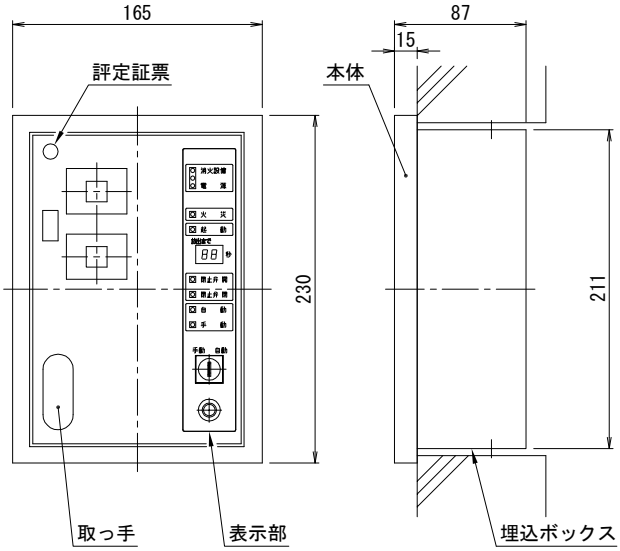


操作部詳細

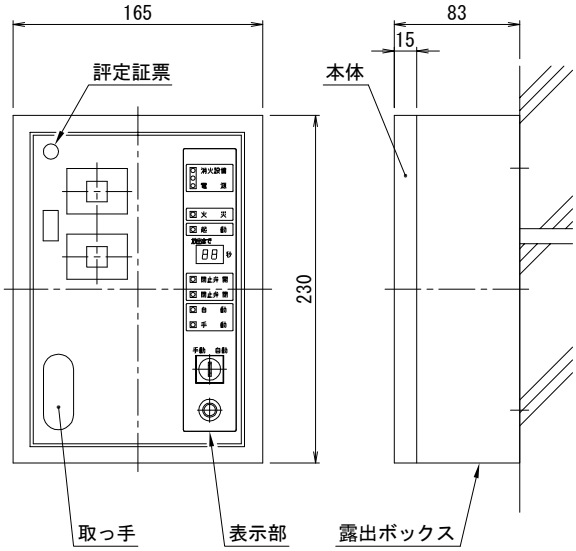
項　目	仕　　様
箱の材質	SPCC
塗 装 色	マンセル 5Y 7/1 (参考値)
質　　量	約 25kg
電　　源	入力電源:AC100V 50Hz/60Hz (回路電圧:DC24V(蓄電池設備内蔵) (社)日本蓄電池工業会蓄電池設備認定 委員会認定品　蓄電池設備内蔵)

CO_2消火設備手動起動盤

埋込タイプ



露出タイプ

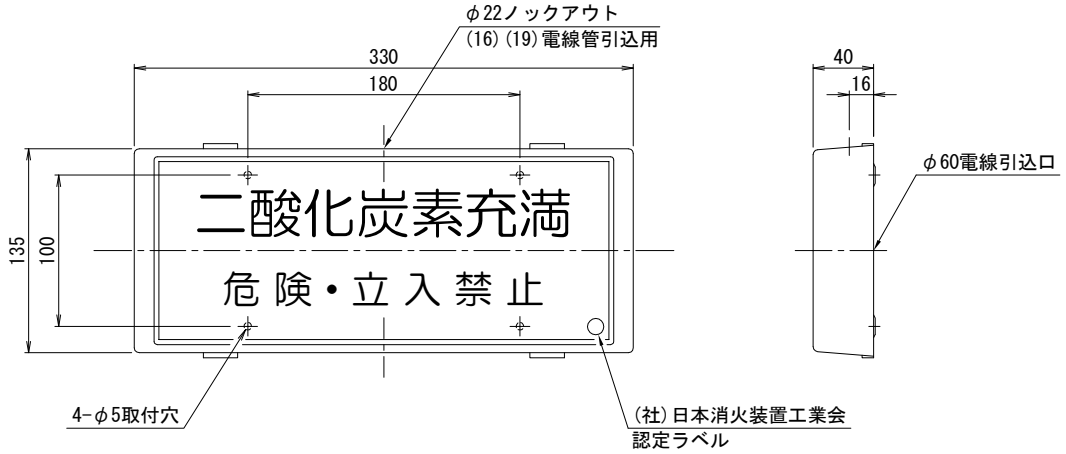


項　目	仕　　様
箱の材質	SPCC
塗 装 色	マンセル 7.5R 4/14 (参考値)
質　　量	約 2.5kg
電　　源	DC24V

注）消火設備メーカ、消火ガスの違い等により形状、寸法が上図と異なる場合があります。

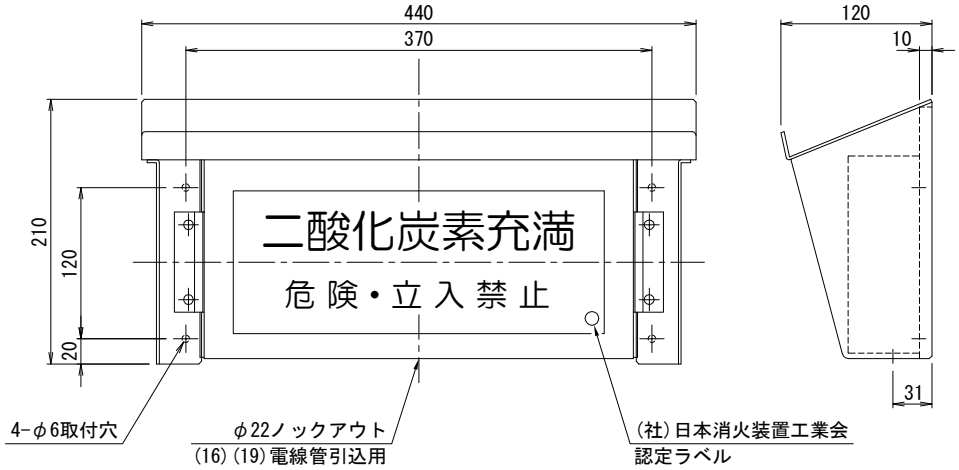
CO_2消火設備ガス放出表示灯

標準タイプ



項　目	仕　　様
箱の材質	ABS 樹脂
塗 装 色	マンセル 7.5R 4/14 (参考値)
照 光 板	常　時　乳白色 点灯時　赤色文字浮出し
質　　量	約 1.0kg

防雨タイプ

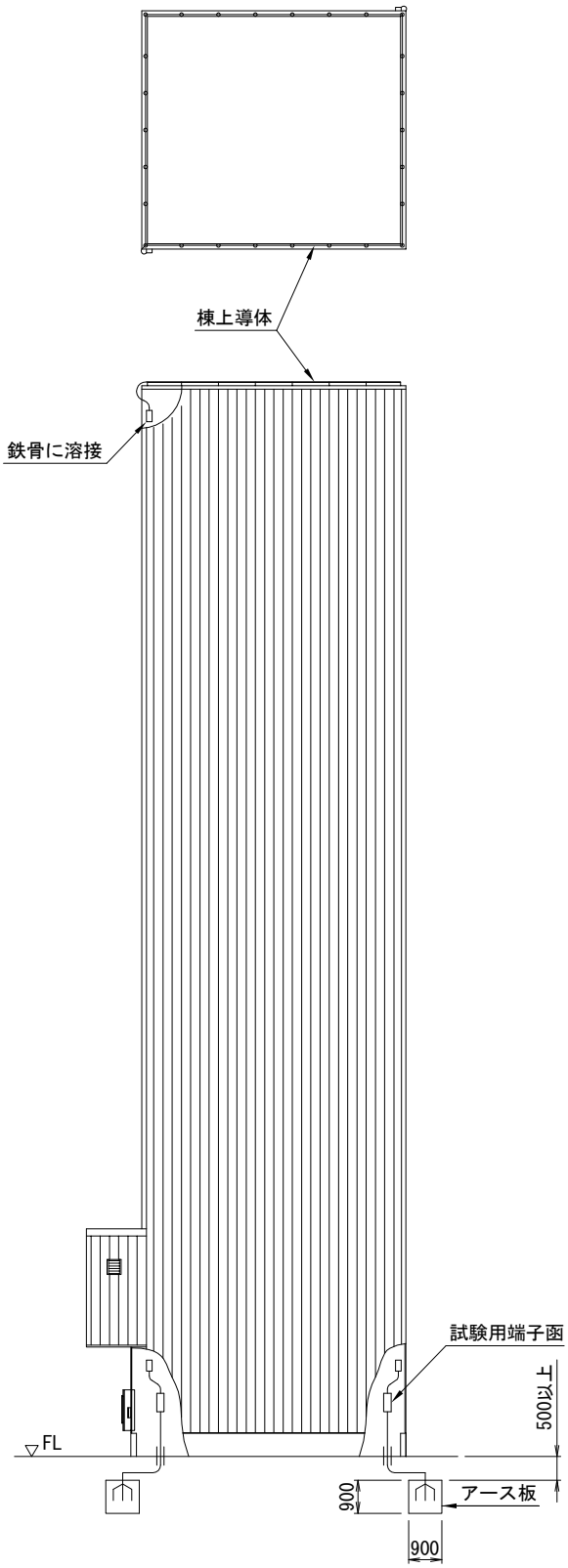


項　目	仕　　様
箱の材質	SPCC
塗 装 色	マンセル 7.5R 4/14 (参考値)
照 光 板	常　時　乳白色 点灯時　赤色文字浮出し
質　　量	約 3.3kg

注1) 本頁のガス放出表示灯は、 CO_2ガス用を示します。CO_2以外のガス時も立駐出入口上部にガス放出表示灯を設置します。
注2) 消火設備メーカの違いによりガス放出表示灯の形状、寸法が上図と異なる場合があります。

避雷設備図

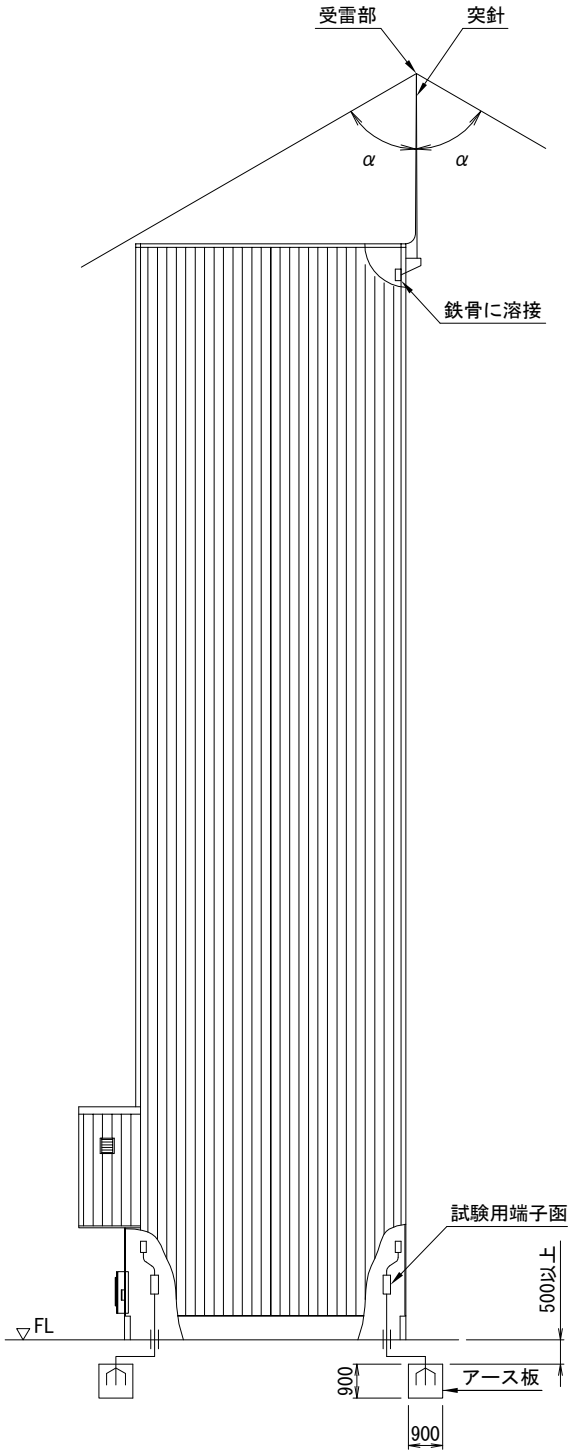
棟上導体



突針

受雷部の高さが60m以下のものについては保護角法により、保護範囲を算定する。一般建築物では、保護レベルⅣを最低基準にしていることから、保護レベルⅣとする。

	受雷部高さ（m）			
	20	30	45	60
保護角 α	55°	45°	35°	25°

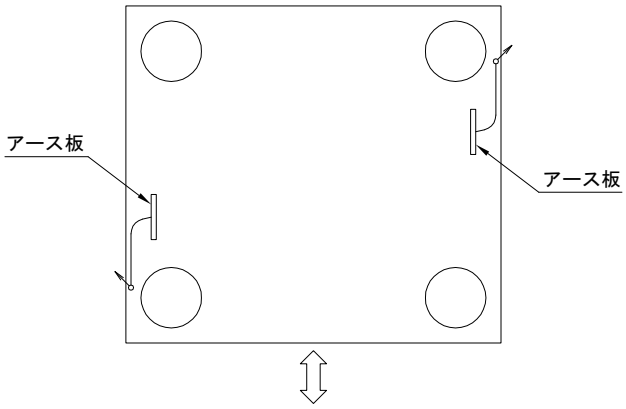


注）本設備は簡略法を採用し、アース板は2ヶ所必要です。

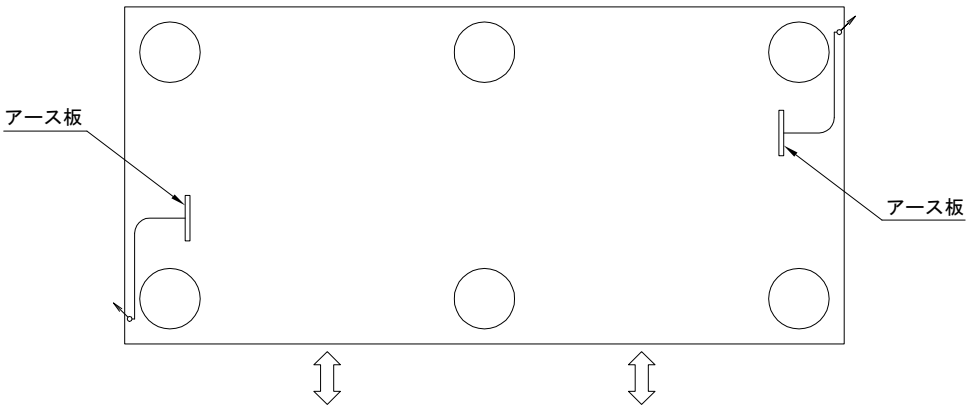
避雷設備用アース板設置図

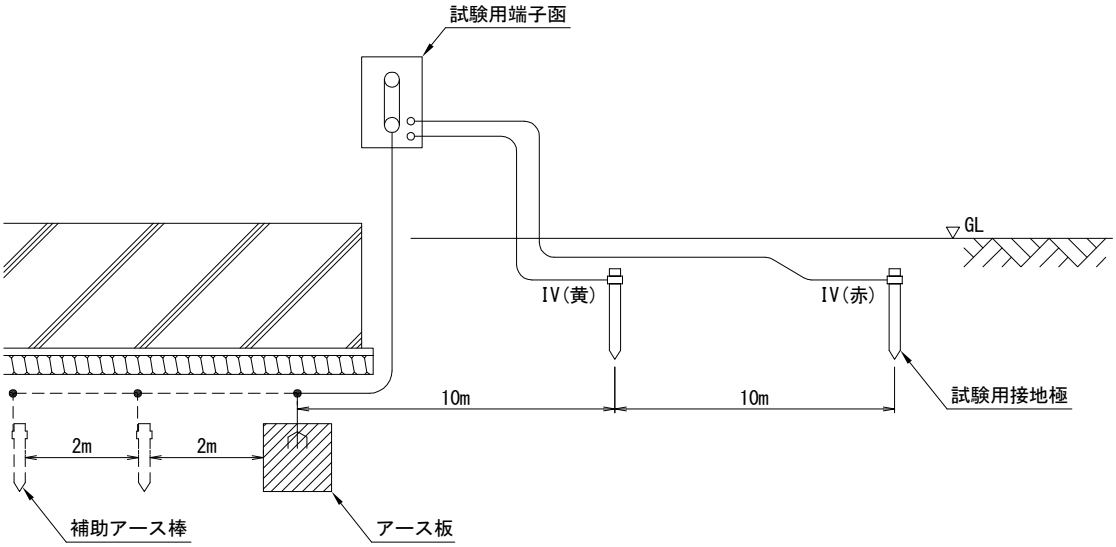
アース板布設参考図

1基用



2基用





注）避雷設備の接地抵抗は2極の合成抵抗が10Ω以下として下さい。10Ωを超える場合はアース板に加えて補助アース棒を埋設して下さい。
IV(赤)及びIV(黄)は試験用接地電線を示します。

電気設備資料

標準モデル／電源種別

電　　源	項　目		電源種別	
	動力用		3φ3W200V	50Hz 60Hz
	電灯電力	照明及び制御用	1φ3W100/200V	
		消火設備専用	1φ2W100V	

標準モデル／電力容量（標準速度時）

立駐型式		契約種別 ※1	昇降動力(kW)	動力用 電力容量(kW)	キュービクル用 電力容量(kVA) ※2	電灯電力(kVA)	契約電力(kW)
標準型	P1MD,WD	低圧電力	15.0(15.0x1基)	17.5	24	3	20.5
	P1MD-G,WD-G		18.5(18.5x1基)	21.1	28	3	24.1
	P1ZD		18.5(18.5x1基)	21.1	28	3	24.1
	P1MD-T,WD-T		22.0(22.0x1基)	24.6	34	3	27.6
	P1MD-GT,WD-GT		22.0(22.0x1基)	24.6	34	3	27.6
	P1ZD-T		22.0(22.0x1基)	24.6	34	3	27.6
並列型	P2MD,WD	低圧電力	30.0(15.0x2基)	32.6	41	6	38.6
	P2MD-G,WD-G		37.0(18.5x2基)	39.6	48	6	45.6
	P2ZD		37.0(18.5x2基)	39.6	48	6	45.6
	P2MD-T,WD-T	高圧電力	44.0(22.0x2基)	46.1	58	6	52.1
	P2MD-GT,WD-GT		44.0(22.0x2基)	46.1	58	6	52.1
	P2ZD-T		44.0(22.0x2基)	46.1	58	6	52.1
	P3MD,WD		45.0(15.0x3基)	50.1	65	9	59.1
	P3ZD		55.5(18.5x3基)	60.7	76	9	69.7
	P3MD-T,WD-T		66.0(22.0x3基)	70.7	92	9	79.7
	P3MD-GT,WD-GT		66.0(22.0x3基)	70.7	92	9	79.7
	P3ZD-T		66.0(22.0x3基)	70.7	92	9	79.7
縦列型	R2AMD,AWD	低圧電力	30.0(15.0x2基)	40.0	51	6	46.0
	R2AZD	高圧電力	37.0(18.5x2基)	46.5	58	6	52.5
	R2BMD,BWD	低圧電力	30.0(15.0x2基)	38.6	49	6	44.6
	R2BZD	高圧電力	37.0(18.5x2基)	45.2	56	6	51.2

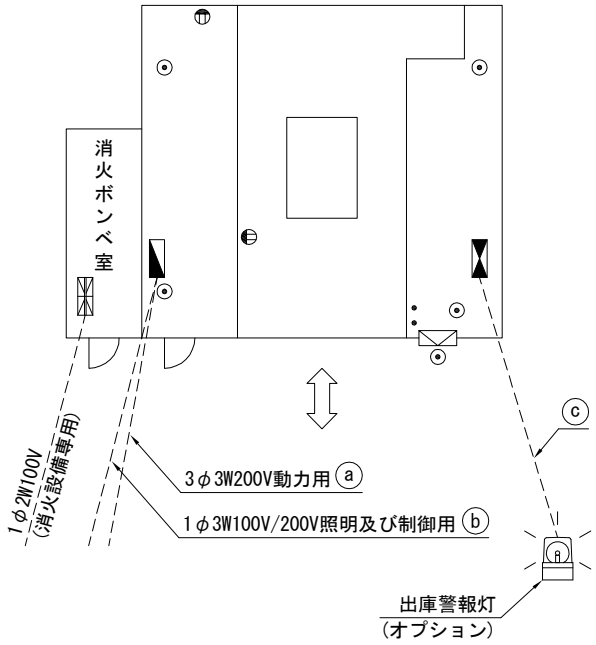
注1) ※1 契約種別(高圧電力、低圧電力)については電力会社との協議により決定されます。尚、電力会社では
50kW以上は高圧電力となります。ウインチ用モータはインバータを使用しています。

注2) ※2 キュービクル用電力容量とは立体駐車装置への給電用変圧器を選定する際の容量です。

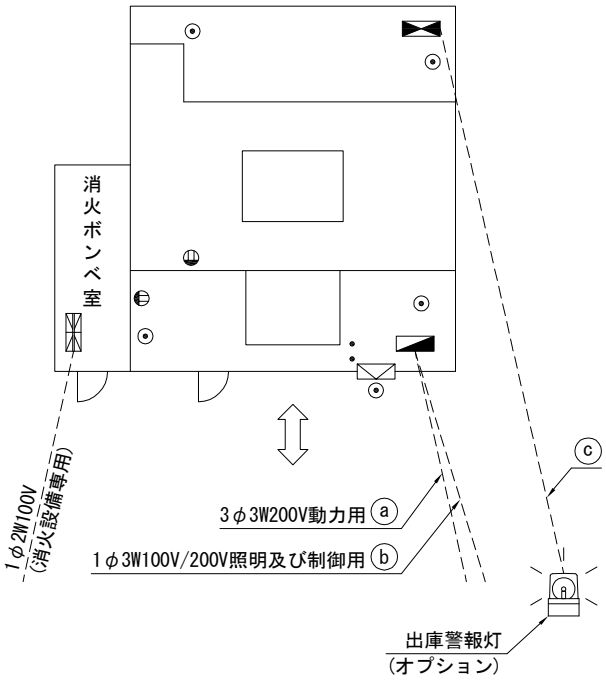
注3) 本表より、一部変わるものもあります。

電気品配置図

A型



B型



No.	記　号	名　称
1		立駐制御盤
2		立駐分電盤
3		壁付操作盤
4		照明スイッチ
5		コンセント
6		非常停止ボタン
7		消火設備制御盤 及び バッテリー盤

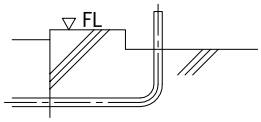
施工方法

電源引込用及び出庫警報灯用埋設配管

ⓐ FEP-80(Z型,-G型) FEP-50(M型,W型)

ⓑ FEP-30(M型,W型,Z型,-G型)

ⓒ FEP-30(M型,W型,Z型,-G型)

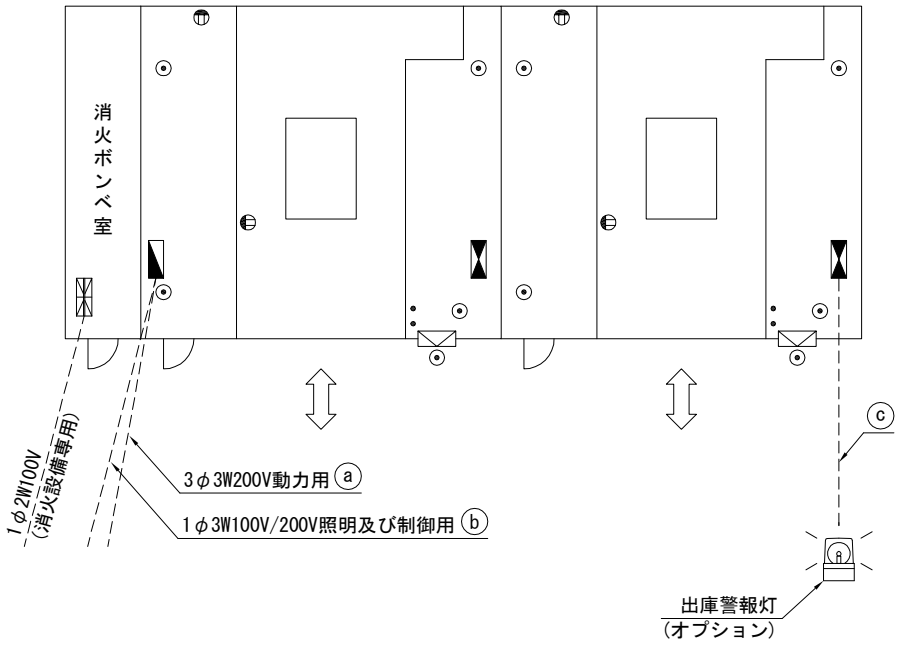


工事区分

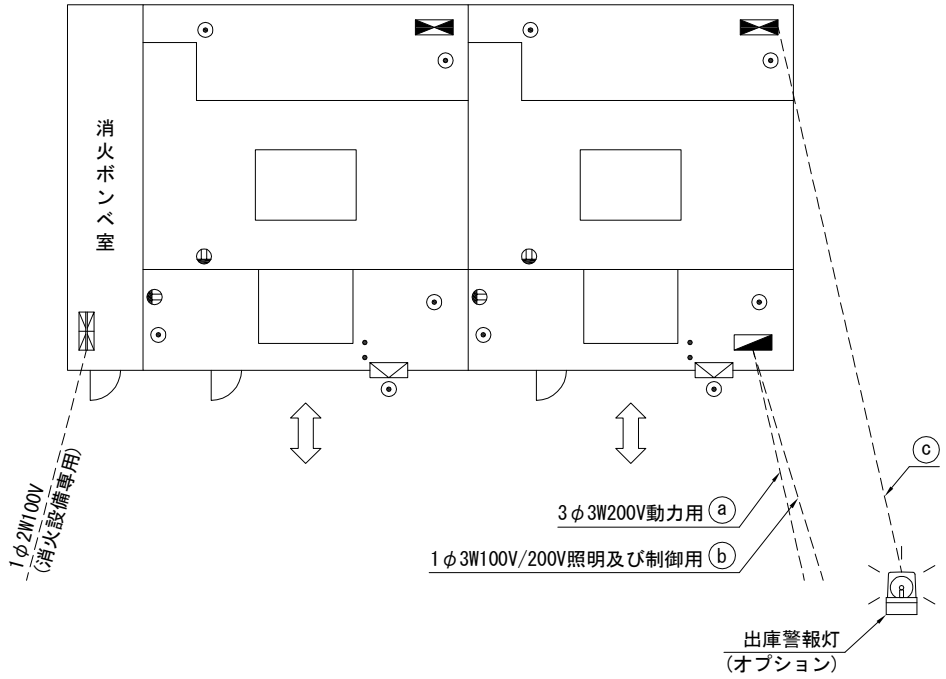
分電盤、消火ボンベ室内消火設備制御盤までの 1次側、配管・配線工事は電気工事とし、分電盤及び消火ボンベ室内消火設備制御盤以降の2次側配線工事は立駐工事とします。

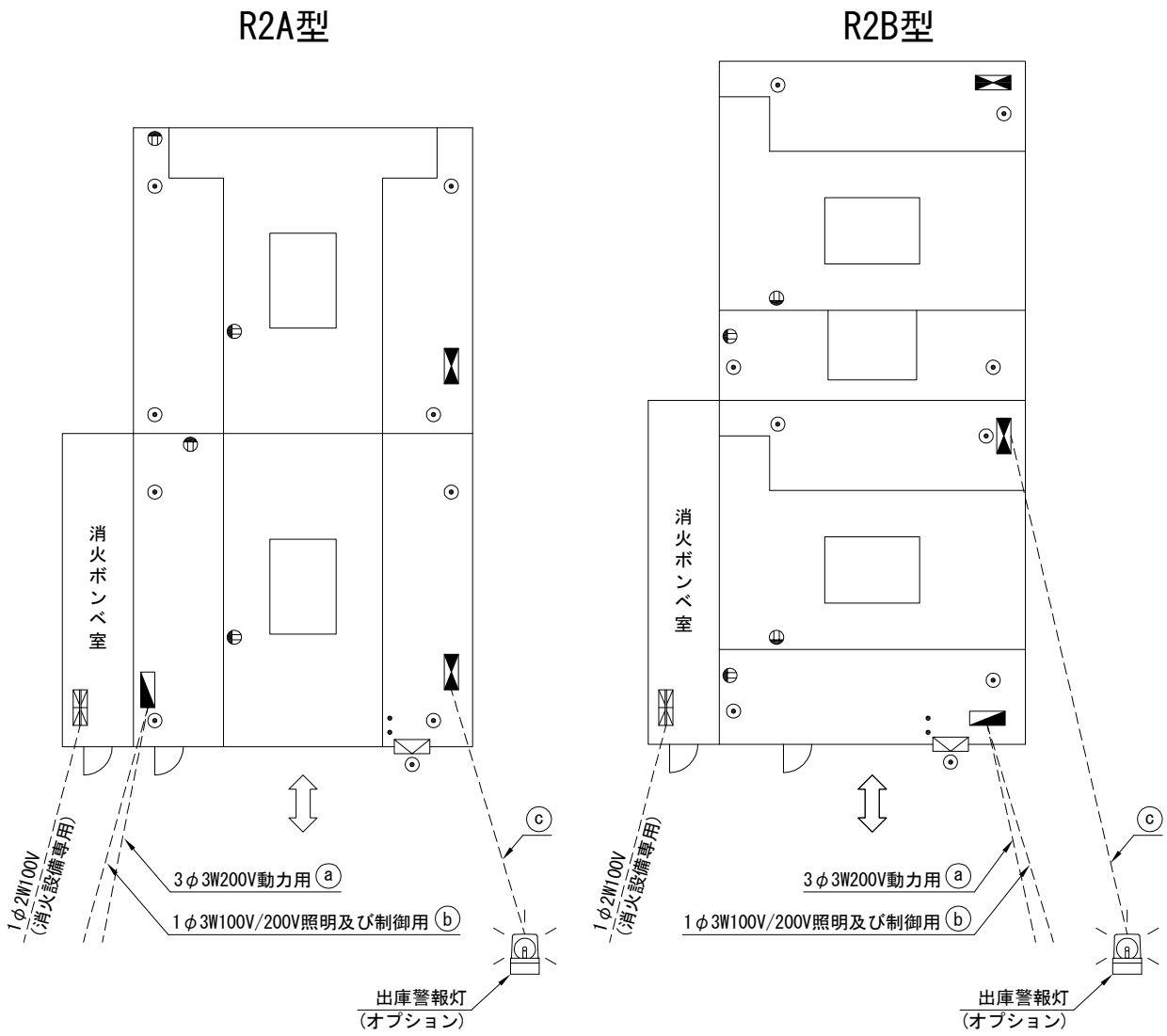
上記 ⓐ～ ⓒのFEP管を電気工事施工側でコンクリート基礎内へ埋め込んで下さい。

P2A型


消火ボンベ室
1φ2W100V
(消火設備専用)
3φ3W200V動力用 ⓐ
1φ3W100V/200V照明及び制御用 ⓑ
ⓒ
出庫警報灯
(オプション)

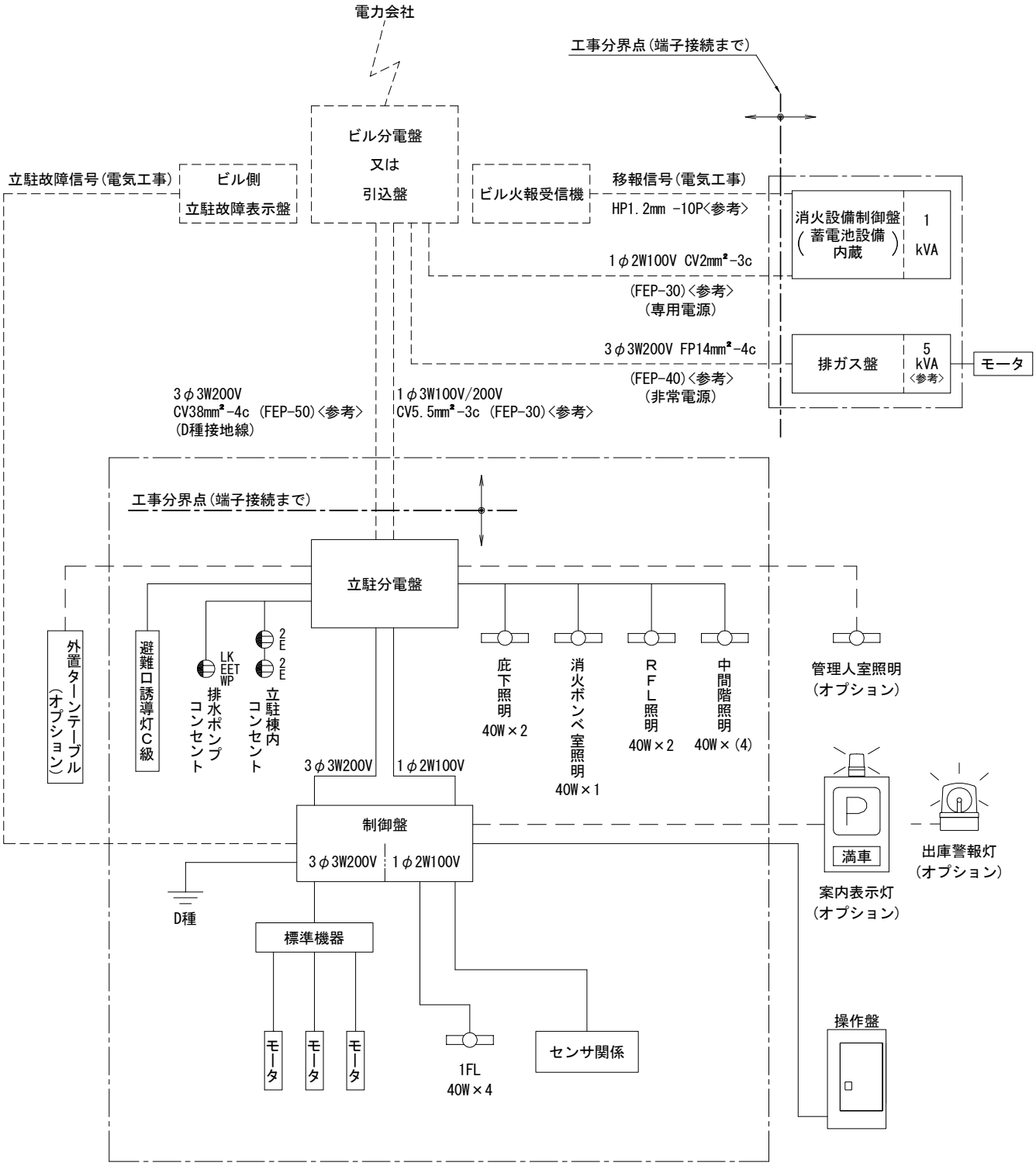
P2B型


消火ボンベ室
1φ2W100V
(消火設備専用)
3φ3W200V動力用 ⓐ
1φ3W100V/200V照明及び制御用 ⓑ
ⓒ
出庫警報灯
(オプション)


R2A型
R2B型
消火ボンベ室
消火ボンベ室
1φ2W100V
(消火設備専用)
3φ3W200V動力用 ⓐ
1φ3W100V/200V照明及び制御用 ⓑ
ⓒ
出庫警報灯
(オプション)
1φ2W100V
(消火設備専用)
3φ3W200V動力用 ⓐ
1φ3W100V/200V照明及び制御用 ⓑ
ⓒ
出庫警報灯
(オプション)

電気系統図

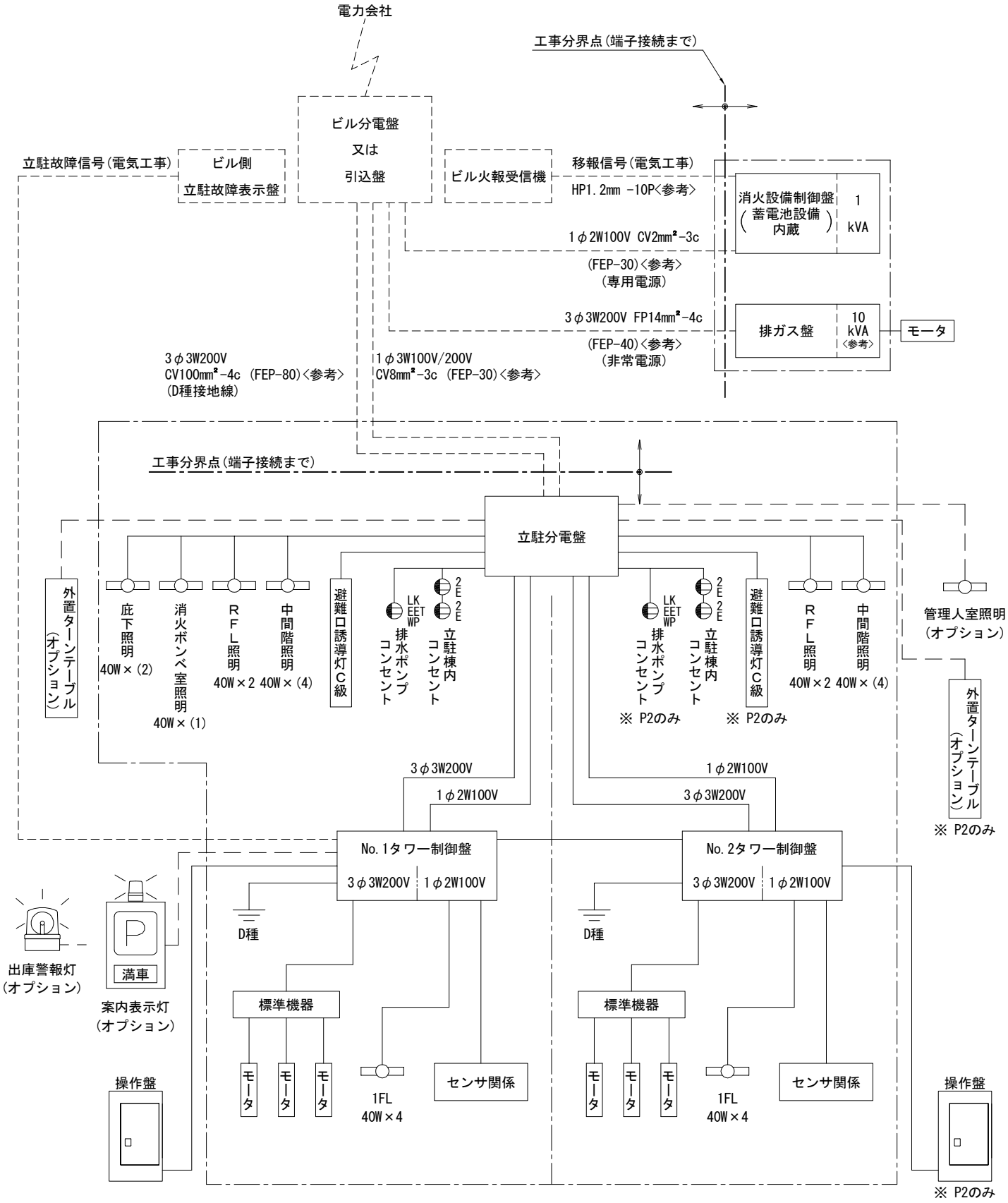
P1型(M型)



凡例

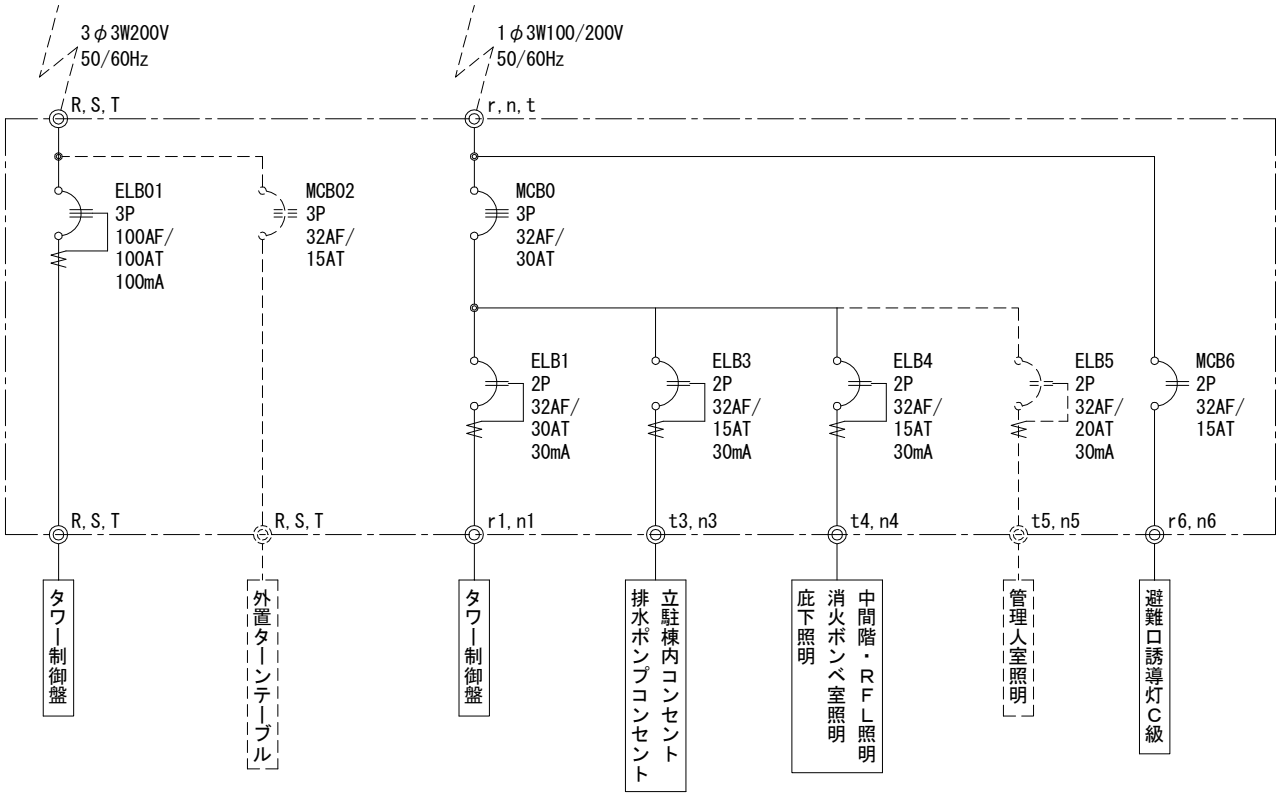
記　号	名　称	記　号	名　称
	蛍光灯	FEP	波付硬質ポリエチレン管
WP	防水コンセント		露出コンセント
— — —	オプション工事	————	立駐工事
- - - - - -	電気工事 (ケーブルサイズは参考です)		

P2型/R2型(M型)

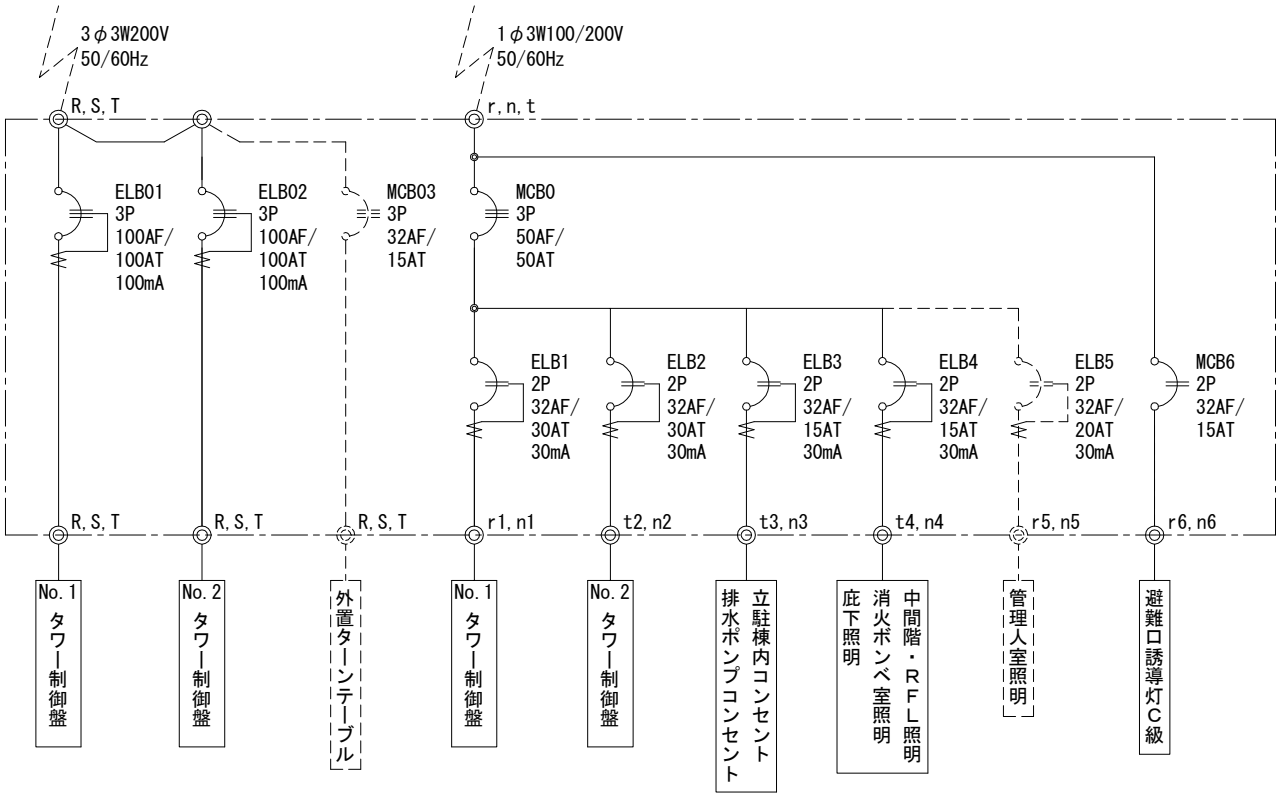

電力会社
工事分界点(端子接続まで)
ビル分電盤
又は
引込盤
立駐故障信号(電気工事)
ビル側
立駐故障表示盤
ビル火報受信機
移報信号(電気工事)
HP1.2mm -10P<参考>
消火設備制御盤
(蓄電池設備内蔵)
1 kVA
1φ2W100V CV2mm²-3c
(FEP-30)<参考>
(専用電源)
3φ3W200V FP14mm²-4c
(FEP-40)<参考>
(非常電源)
排ガス盤
10 kVA <参考>
モータ
3φ3W200V
CV100mm²-4c (FEP-80)<参考>
(D種接地線)
1φ3W100V/200V
CV8mm²-3c (FEP-30)<参考>
工事分界点(端子接続まで)
立駐分電盤
外置ターンテーブル(オプション)
庇下照明 40W×(2)
消火ポンプ室照明 40W×(1)
RFL照明 40W×2
中間階照明 40W×(4)
避難口誘導灯C級
LK EET WP 排水ポンプコンセント
2E 2E 立駐棟内コンセント
※ P2のみ
※ P2のみ
管理人室照明(オプション)
外置ターンテーブル(オプション)
※ P2のみ
3φ3W200V
1φ2W100V
1φ2W100V
3φ3W200V
No.1タワー制御盤
3φ3W200V 1φ2W100V
No.2タワー制御盤
3φ3W200V 1φ2W100V
D種
D種
出庫警報灯(オプション)
満車
案内表示灯(オプション)
標準機器
標準機器
モータ
1FL 40W×4
センサ関係
操作盤
※ P2のみ

分電盤詳細図

P1型(Z型及び重量車仕様を除く)



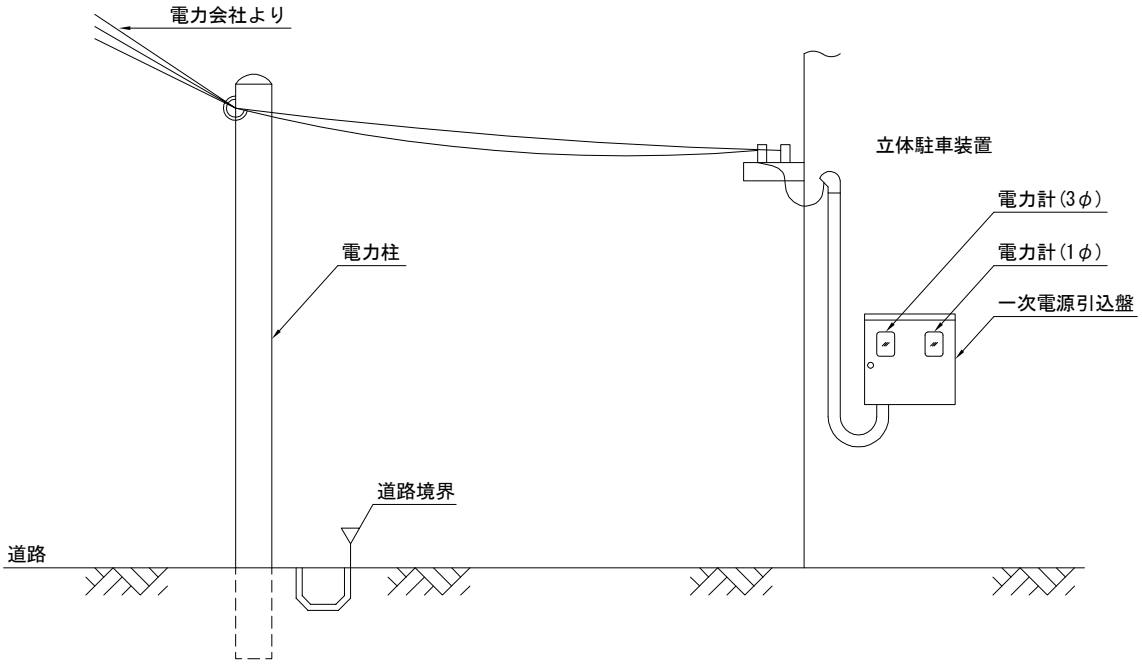
P2型/R2型(Z型及び重量車仕様を除く)



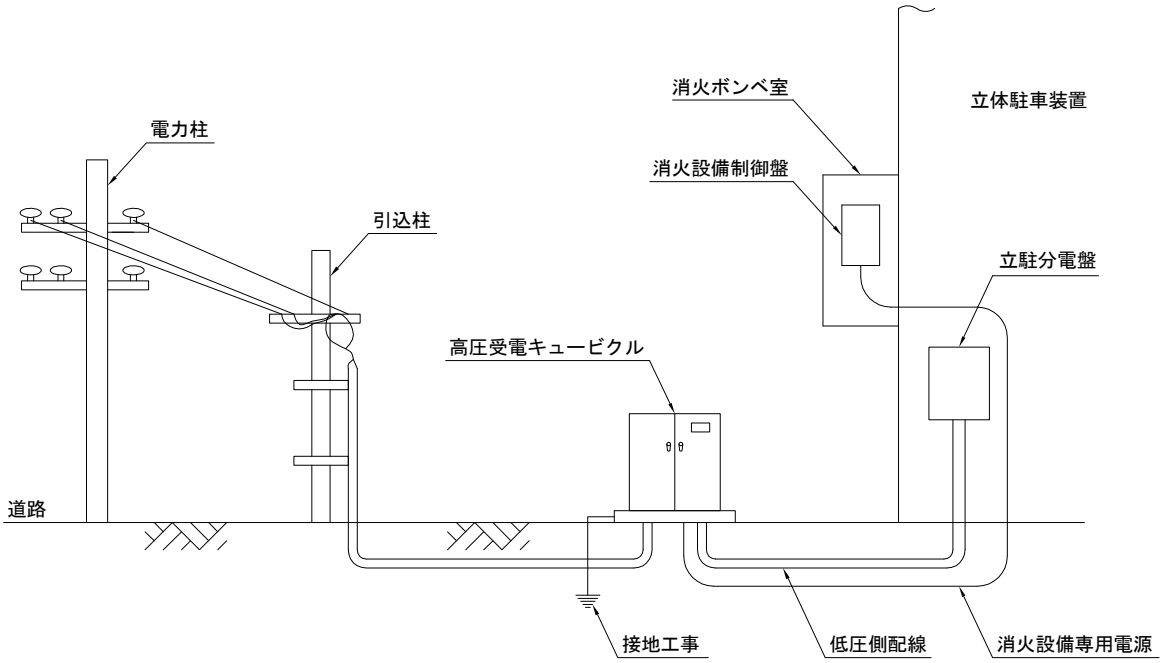
注）点線囲内はオプションです。

1次側電源引き込み要領図

低圧受電



高圧受電



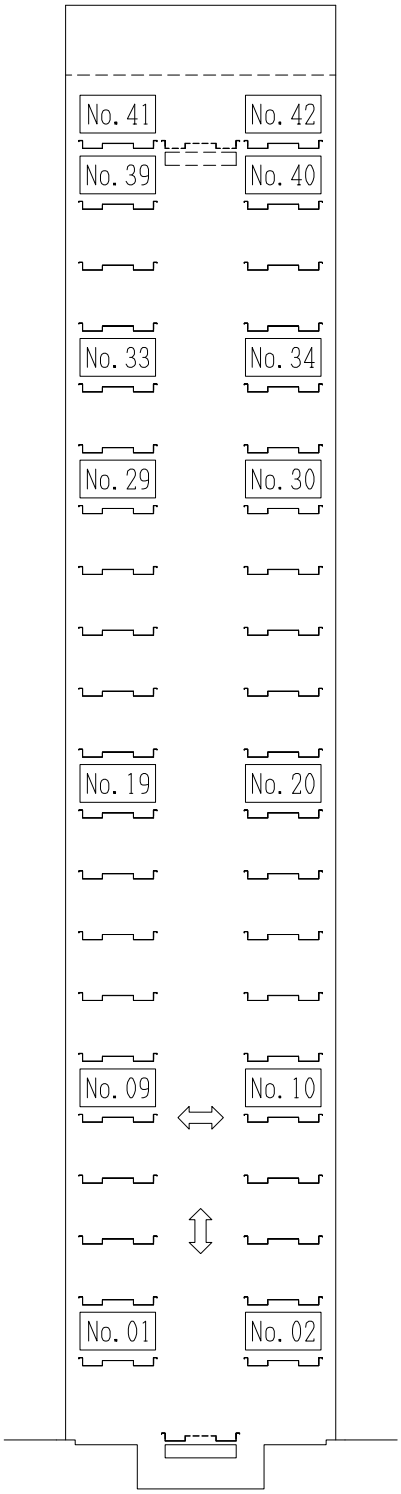
電力料金表(概算)

項　　目	使　　用　　料	
昇降電動機	15kW	18.5kW
基本料金	契約電力　21kW @1,029円／kW 基本料金　21,609円	契約電力　25kW @1,029円／kW 基本料金　25,725円
使用料金	1台当りの平均消費電力　0.26kWh 1ヶ月の消費電力 0.26kWh×34台×2回転／日×30日＝530.4kWh @14.10円／kW 使用料金　7,479円	1台当りの平均消費電力　0.32kWh 1ヶ月の消費電力 0.32kWh×34台×2回転／日×30日＝652.8kWh @14.10円／kW 使用料金　9,204円
合　　計 （税込）	1基(34台収容)1ヶ月当り (基本料金+使用料金)＝ (21,609円＋7,479円)＝29,088円	1基(34台収容)1ヶ月当り (基本料金+使用料金)＝ (25,725円＋9,204円)＝34,929円

(2017年*月現在)

上記料金表は関西電力地域を基準とした参考値です。(夏・冬料金、力率等により多少異なります。)

入出庫時間表



単位：秒

パレット No.	A 型		B 型	
	入 庫	出 庫	入 庫	出 庫
41 , 42	126	107	127	124
39 , 40	124	105	125	122
37 , 38	122	103	123	120
35 , 36	121	102	122	119
33 , 34	119	100	120	117
31 , 32	117	98	118	115
29 , 30	116	97	117	114
27 , 28	114	95	115	112
25 , 26	112	93	113	110
23 , 24	111	92	112	109
21 , 22	109	90	110	107
19 , 20	109	90	110	107
17 , 18	109	90	110	107
15 , 16	108	89	109	106
13 , 14	104	85	105	103
11 , 12	101	82	102	100
09 , 10	97	78	98	96
07 , 08	94	75	95	93
05 , 06	91	72	92	90
03 , 04	87	68	89	86
01 , 02	83	64	85	82

条件

1. 同一層パレットの入庫、あるいは出庫の機械動作時間を示します。
2. 入庫とは、乗降室の空パレットへ車を乗り入れ完了した状態で、扉が開いた状態から入庫操作を完了した時点をスタートとし、指定の駐車室へ入庫完了後、同一層の空パレットを引き出し、乗降室へ着床して入出庫待機となった時点を完了とします。入庫動作のため、完了時に扉は開きません。
3. 出庫とは、乗降室に空パレットが待機し、扉が閉まっている状態から出庫操作を完了した時点をスタートとし、空パレットを指定の駐車室へ返却した後、同一層の入庫車を出庫のために引き出し、乗降室へ着床して扉が開いた時点を完了とします。
4. 収容車重量・機械仕様等の条件により、実際の時間は多少前後します。

騒音／振動対策

騒音／振動について

立体駐車装置は、ある程度の騒音及び振動が発生します。騒音は外装板によって遮断されますが、一部透過音として外部に伝搬します。振動は鉄骨等を伝搬し地中に伝わりますが、通常隣接建物やビルへの影響はありません。しかし、建物が接近していたり建物が古く窓や扉等にがたつきがあるときには、それらが共振を起こして振動することがありますので注意が必要です。立体駐車装置をレイアウトされる際には、十分ご理解のうえご検討下さい。

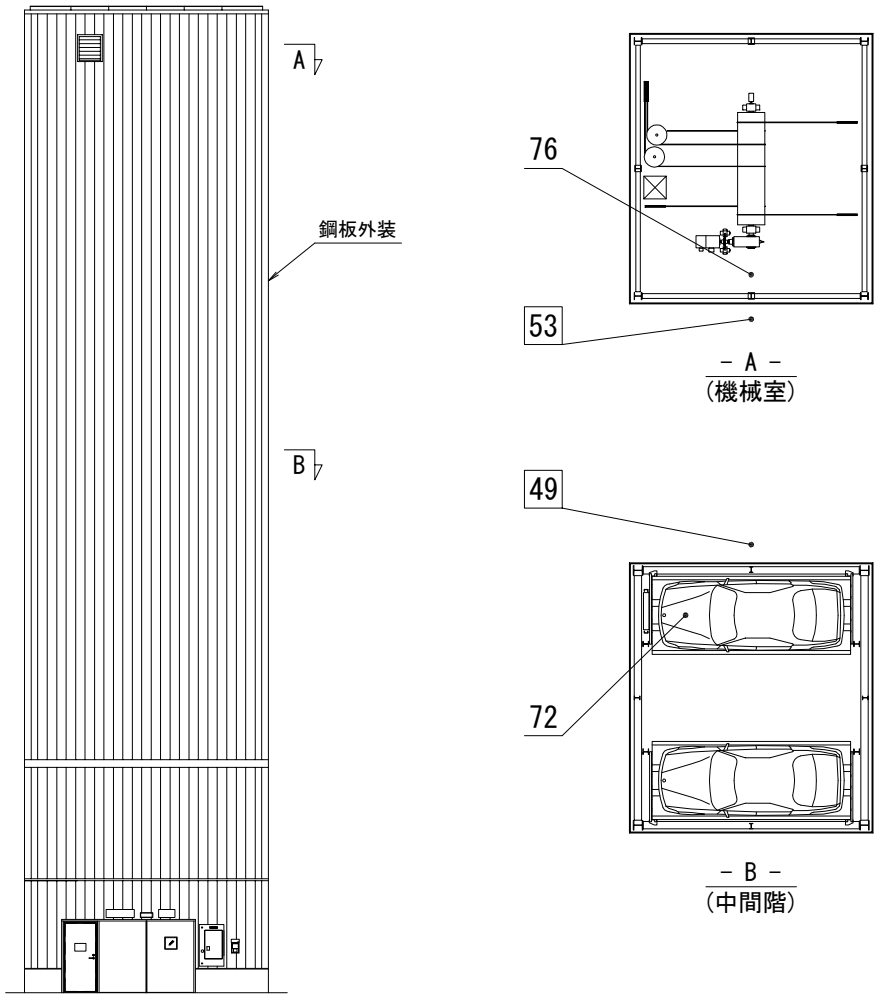
対応について

(1) 隣接する建物に対しては、できるかぎり距離をとり低周波数のこもり音が生じないよう、閉空間にならないようレイアウトして下さい。

(2) 同一敷地内に隣接して立体駐車装置を計画される場合には、隣接する建物側のレイアウトが、エレベータ・階段・廊下・物置等の部屋となるようなレイアウトにして下さい。

(3) ビル内に立体駐車装置を計画される場合には、周囲の隔壁を可能な限り厚くし(200mm以上のコンクリート壁)、居住室・事務室・会議室などの静寂を要する部屋を立体駐車装置から離してレイアウトして下さい。

騒音データ

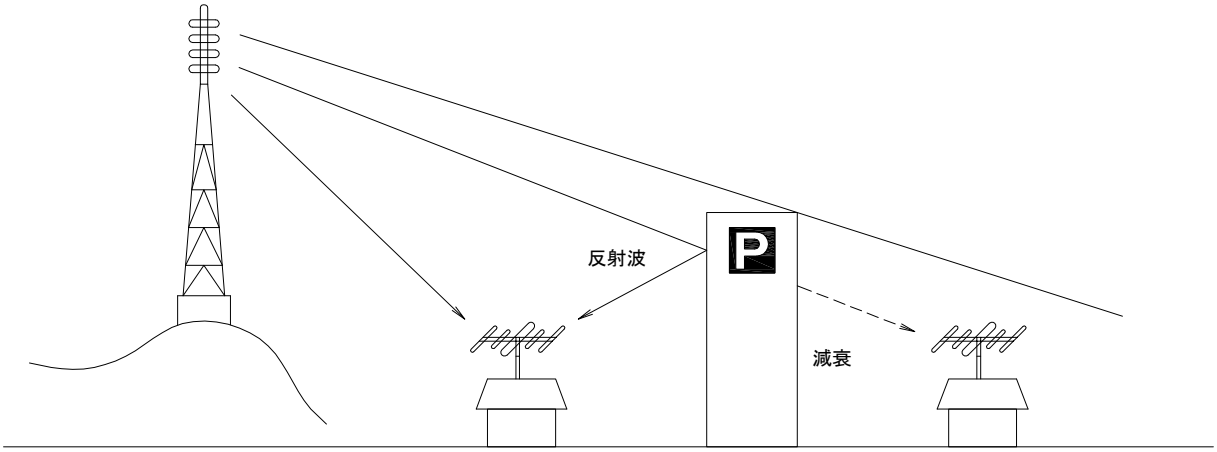


注1) □内の数値は外壁から1m離れた位置での値を示します。【単位：dB(A)】
注2) 上記の数値は、LA5(90%レンジ上端値)を示します。
注3) 暗騒音や周囲の建物による反響等で異なる場合があります。

電波障害対策

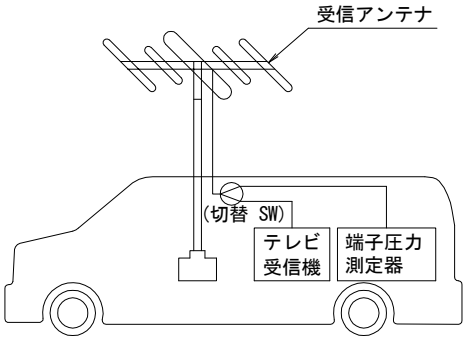
建造物によるテレビ受信障害は、テレビ送信所からのテレビ電波が建物によって遮られ、その背後に電波的な影ができるために発生します。従って、建造物の直後の障害が最も酷く、離れるに従って次第に軽減します。また、中高層建造物ではビルの壁面に反射して、障害を発生する場合もあります。

実際の障害範囲は建物の形状、テレビ電波到来方向に対する建造物の配置状態、周囲の状況、地形および電波の強さ等により異なります。また、建設中は鉄骨、クレーン等に電波が反射して、思わぬ方向へ障害を及ぼすことがありますので、注意が必要です。



1. 調査の方法

電波障害が予測される場合には、建築に先立ち、社団法人日本CATV技術協会の会員技術者による障害予測図の作成及び現地調査車による電波の測定、画質調査が必要です。



2. 受信障害改善方法

テレビ受信障害の改善方法は、受信状況の良好な地点に受信アンテナを配置し、そこから各家庭まで有線(同軸ケーブル)で電波を配分する「テレビ共同受信方式」が適当と考えられます。

障害範囲の周辺部分等で障害の程度が軽微な場合は、受信アンテナをより高性能なものと交換し、アンテナ高さ、位置を変更することにより改善できる場合もあります。

3. 対策方法

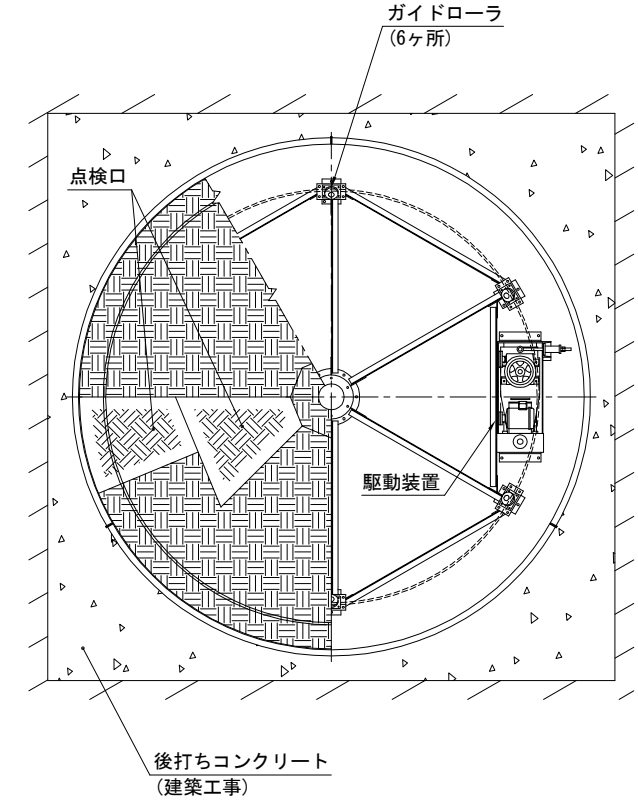
テレビ受信障害は工事の進捗状況により段階的に発生し、次第に悪化するので、初めからアンテナを適当な地点に仮設して、テレビ共同受信施設の工事を行い、建造物完成後はそのアンテナを屋上など恒久的な場所に、移設する方法が良策と考えます。

尚、分配する設備も余裕をとって施行し、加入者の増加に対応できるよう配慮する必要があります。また、円滑な対策実施のため、地元の視聴者と充分話合い、納得のうえで対策をなさるようおすすめします。

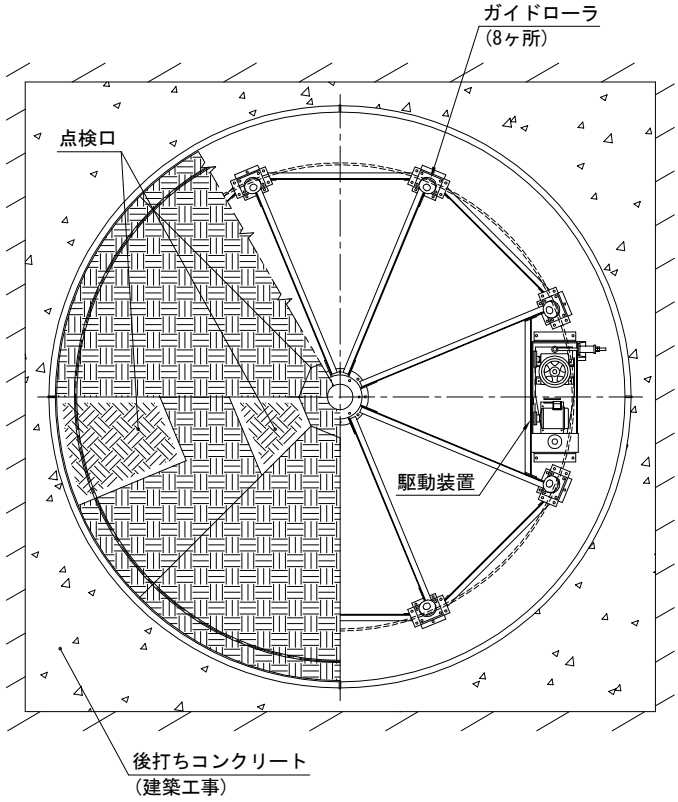
タワー外置ターンテーブル(オプション)

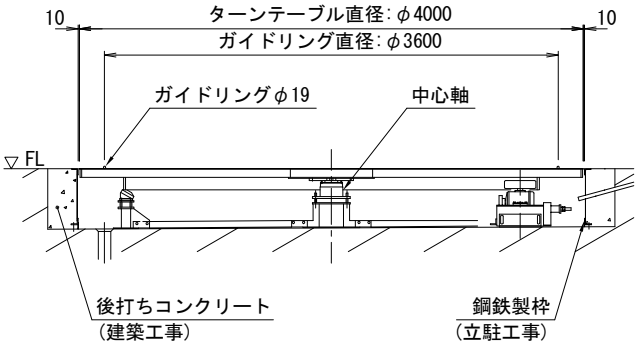
全体図

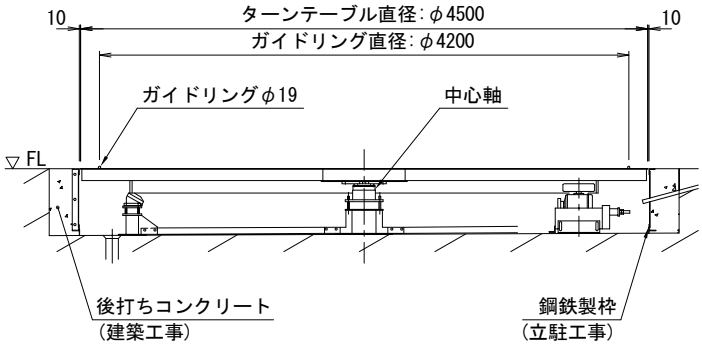
ISB-40型



ISB-45型



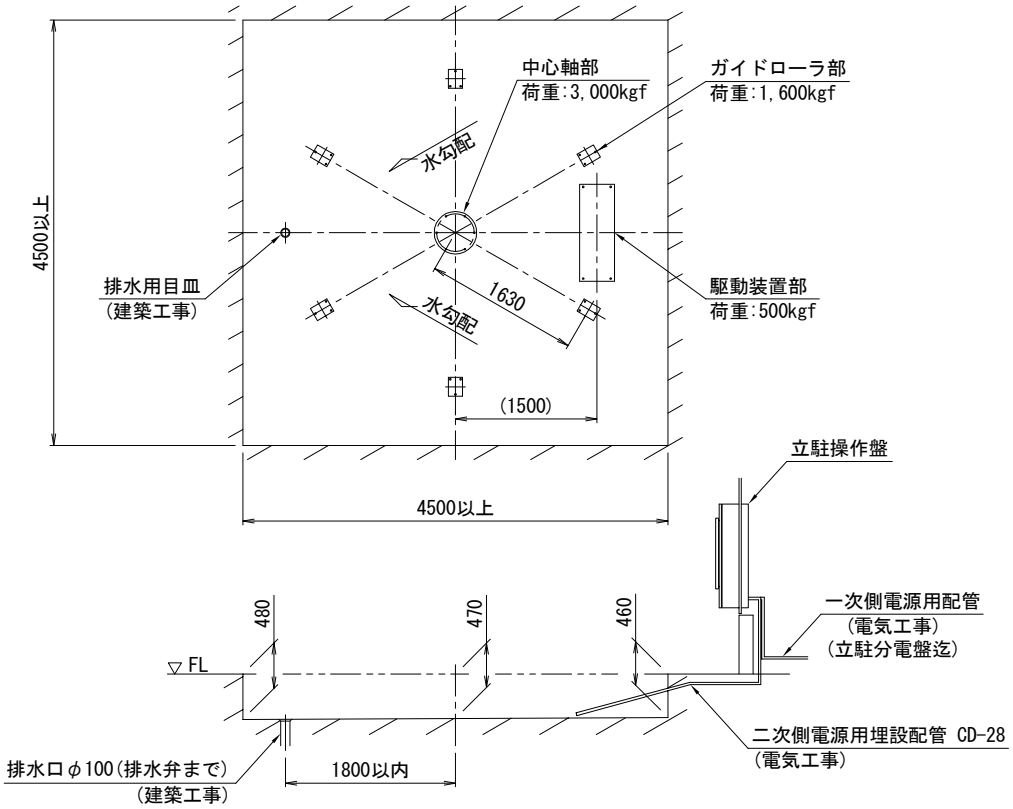




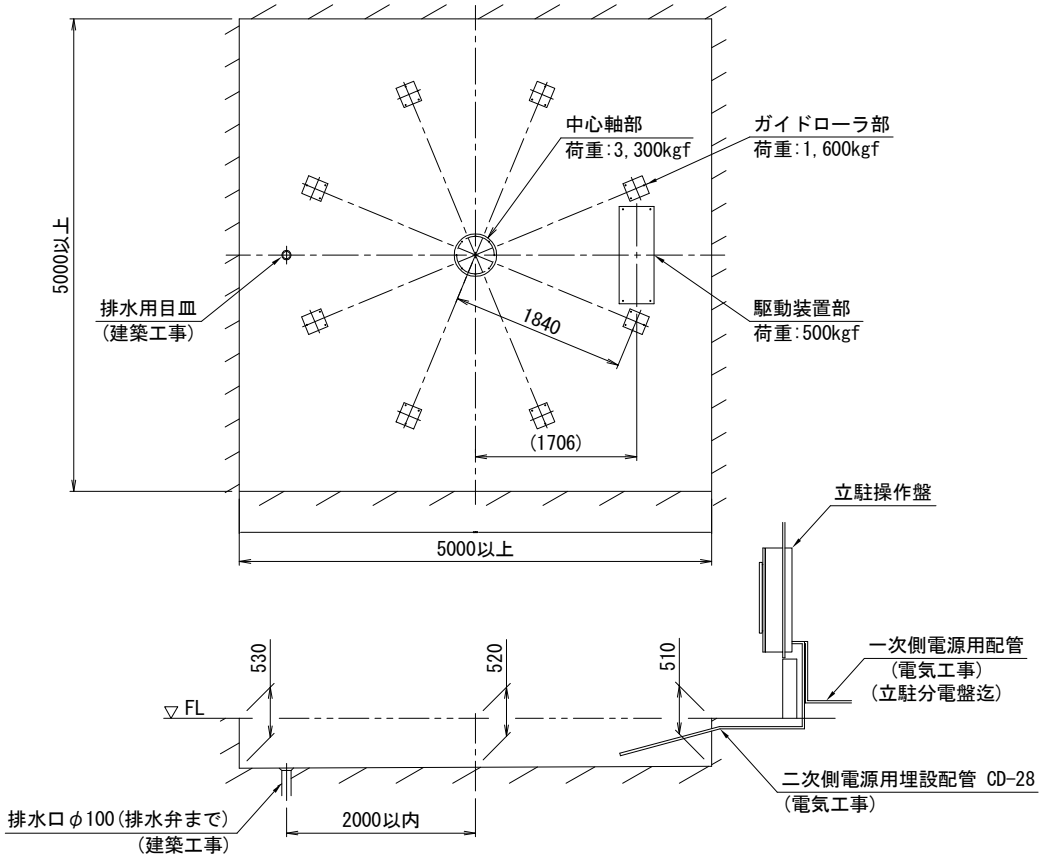
対象立駐収容車タイプ		M,M-G 型	W,W-G,Z 型
型式		ISB-40型	ISB-45型
ターンテーブル直径		φ4,000mm	φ4,500mm
許容積載荷重		2,500kg	
駆動方式		フリクションドライブ方式	
駆動装置	モータ	0.75kW	
	速度	1.2rpm/60Hz　1.0rpm/50Hz	
電源		3φ3W 200/220V　1.0kVA・D種接地	
操作方法		セレクトスイッチ方式(立駐操作盤内組込) セレクトスイッチを回している間のみターンテーブル が回転し、手を離すと停止します。	

ピット施工図

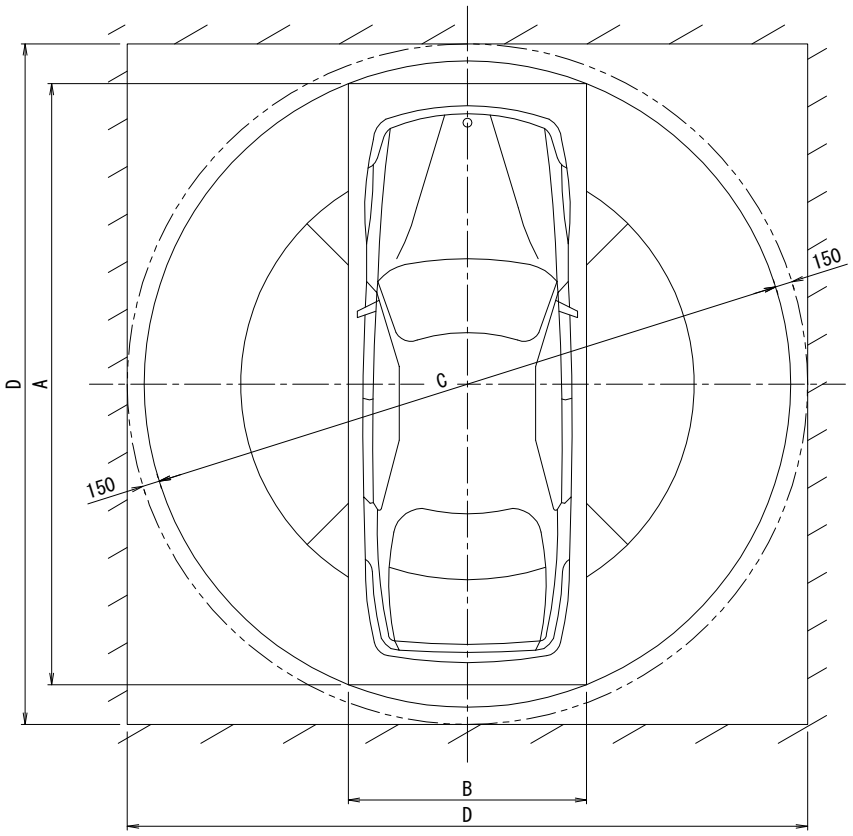
ISB-40型



ISB-45型



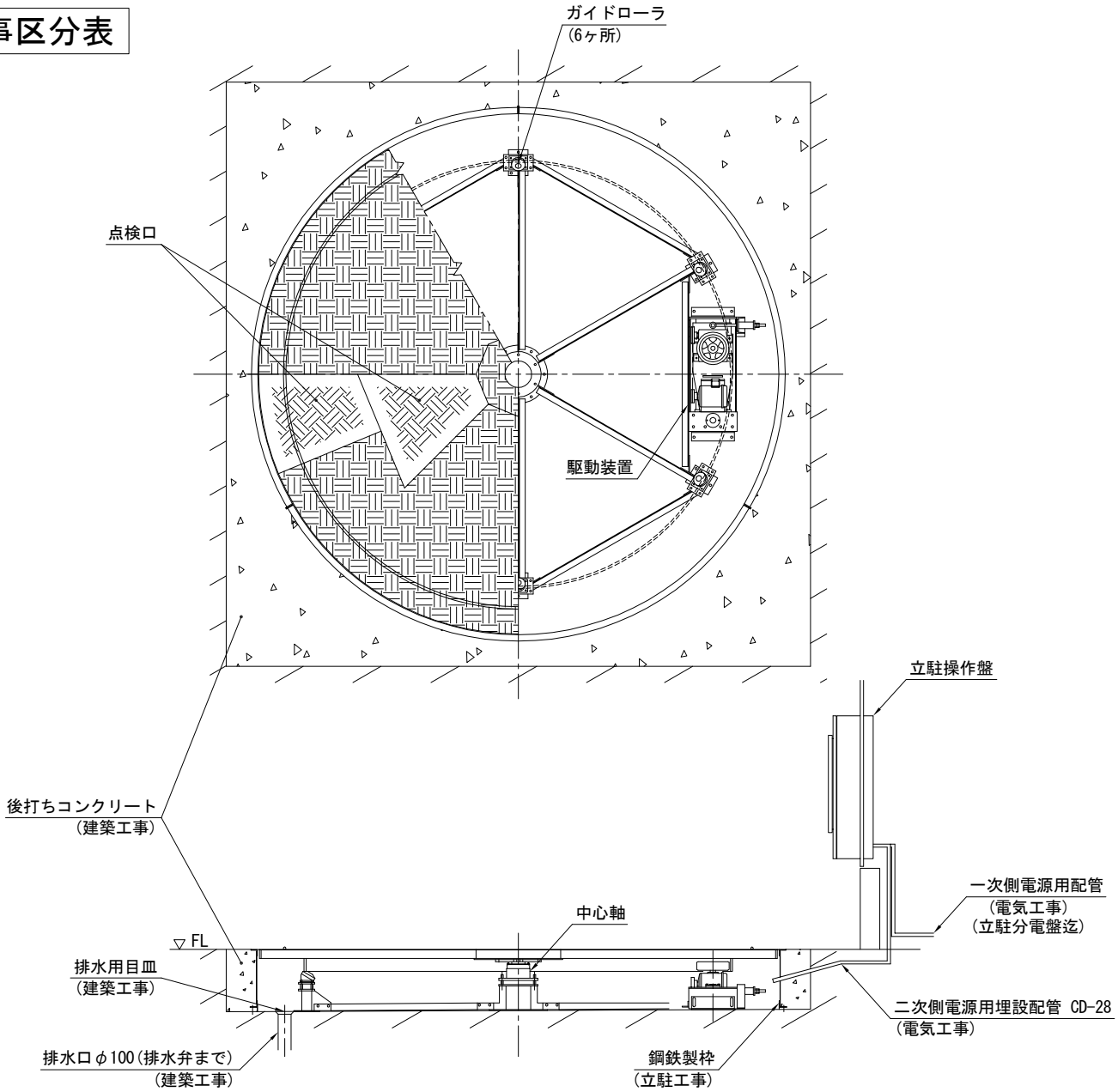
回転軌跡



単位：mm

ターンテーブル型式		ISB-40型	ISB-45型
対象立駐収容車タイプ		M 型 ｛ M-G 型 ｝	W,W-G,Z 型
余裕を見込んだ自動車の長さ	A	5,300	5,700
余裕を見込んだ自動車の幅	B	2,100	2,450
自動車の回転軌跡直径	C	5,700	6,200
必要な壁面内寸法	D	6,000	6,500

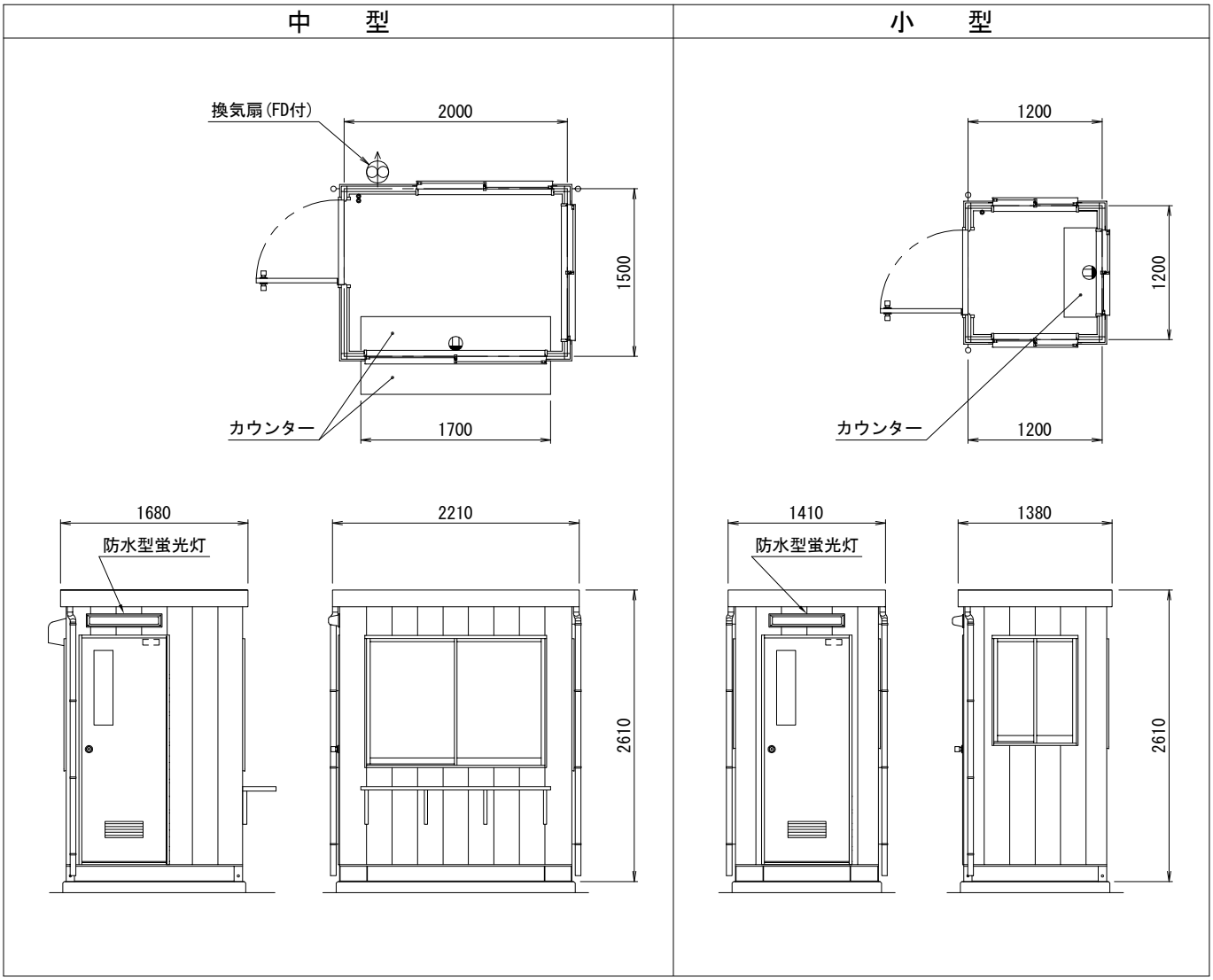
工事区分表



	工事内容	立駐工事	建築工事	電気工事
装置関係	FL及び墨だし		○	
	装置本体搬入	○		
	装置本体据付	○		
	装置固定用アンカーボルト	○		
	操作盤兼制御盤取付	○		
	コーナアングル取付	○		
	装置調整	○		
躯体関係	躯体・ピット・スラブ築造仕上		○	
	後打ちコンクリート		○	
	排水工事		○	
	防水工事(必要な場合)		○	
電気関係	一時電源引込結線(D種接地)	○		
	二次側電源用埋設配管 CD-28			○
	二次側電源引込	○		
	据付工事電源			○
	試運転用仮設電源			○
	サーマルトリップ信号引込結線			○

オプション

管理人室

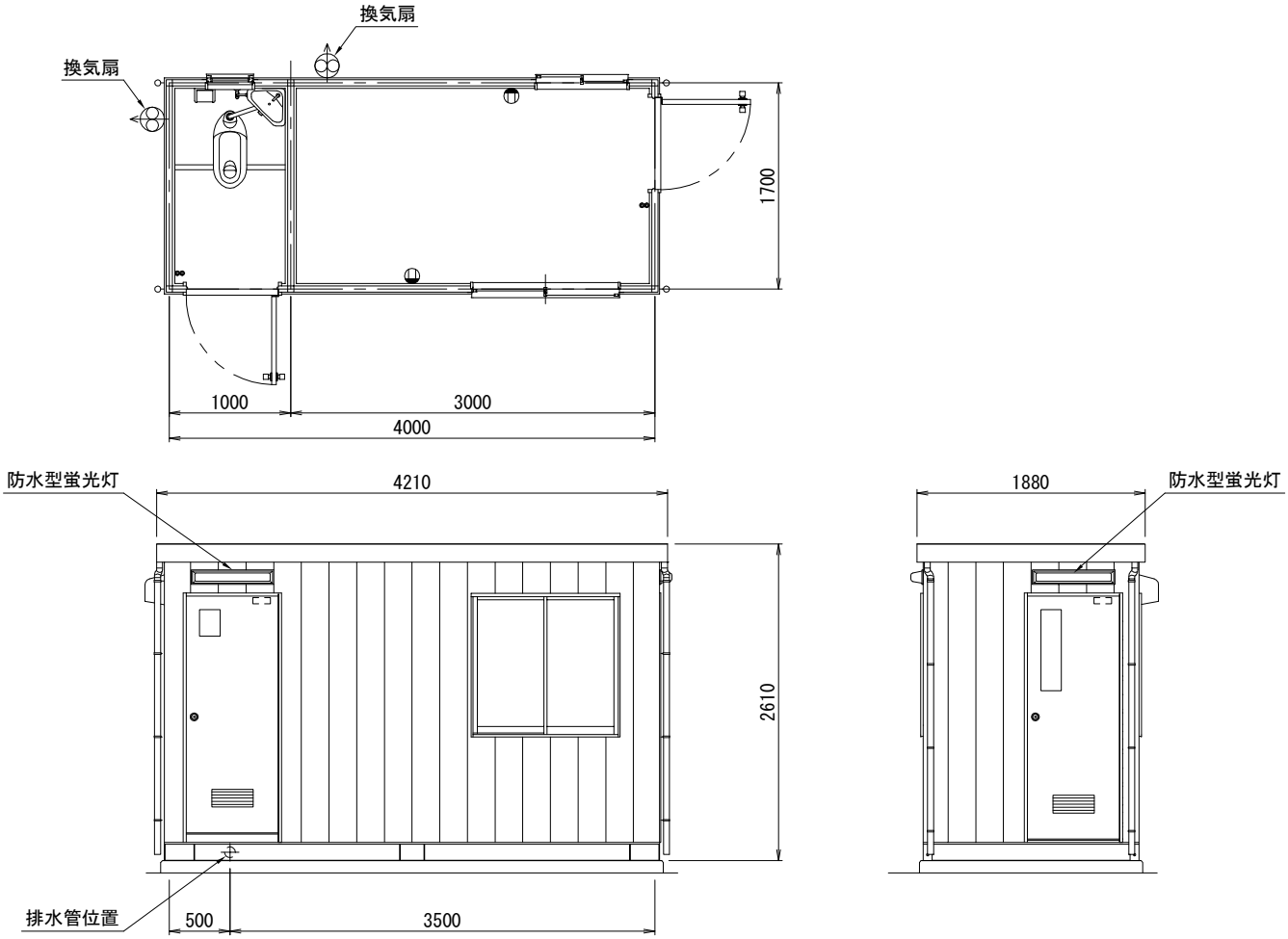


仕様表(参考)

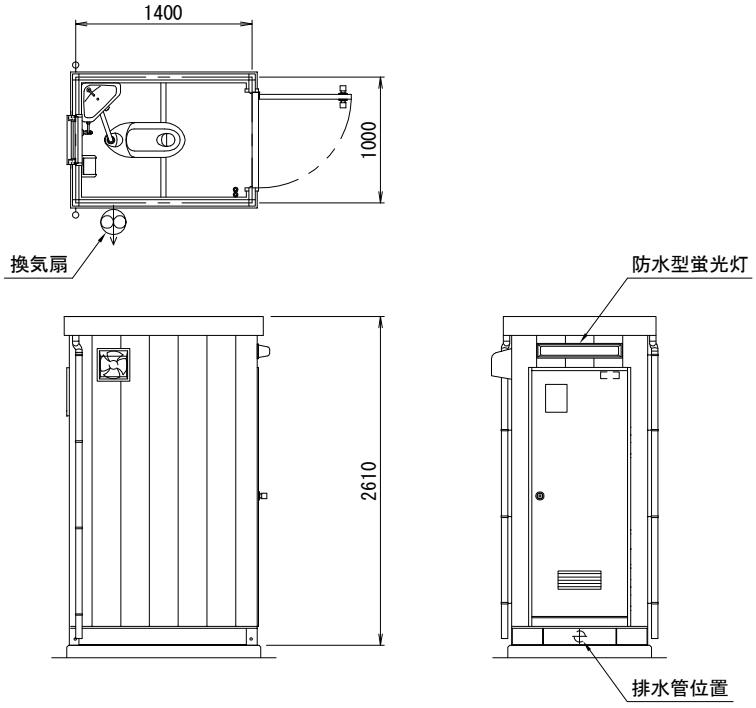
名　称	仕　様
屋　根	ルーフデッキ H=66 t=0.6(不燃材裏張り)
外　壁	縦張り金属サインディング t=15 石膏ボード複合材
天　井	合板 t=12 下地＋着色ケイ酸カルシウム板貼り t=6
内　壁	強化石膏ボード t=15 下地＋着色ケイ酸カルシウム板貼り t=6
床	管理・待合室:合板 t=12 二重張り 長尺塩ビシート貼 ソフト巾木 H=60 トイレ室:合板 t=12 二重張り 長尺塩ビシート貼 巾木立上げ H=100
建　具	管理・待合室:スチール製 額付ドア 小窓網入り透明ガラス DC付 ヒューズ式 FD付ガラリ トイレ室:スチール製 額付ドア 小窓網入り型ガラス DC付 ヒューズ式 FD付ガラリ アルミ製引き違い窓 網入りガラス アルミ製内倒し窓 網入りガラス
電気設備	逆富士形蛍光灯、防水型蛍光灯 片切スイッチ、2口コンセント
衛生器具	陶器製和風洗落し床上給水両用便器・陶器製ロータンク
そ の 他	ステンレス製内外カウンター

注）基礎及び給排水設備は、建築工事及び設備工事にて施工願います。

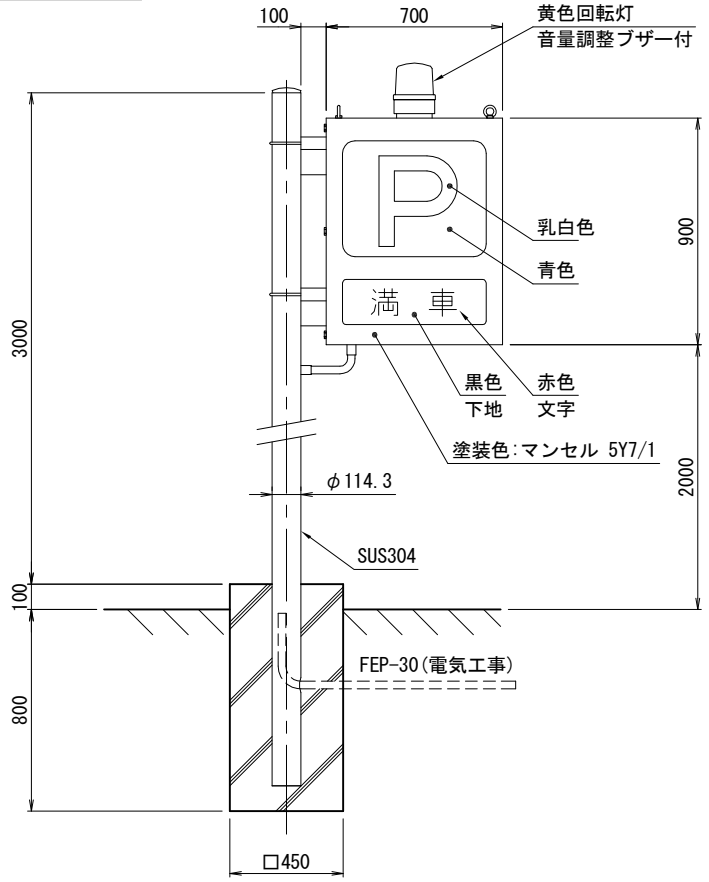
待合室（トイレ付）


換気扇
換気扇
1700
1000
3000
4000
防水型蛍光灯
4210
2610
1880
防水型蛍光灯
排水管位置
500
3500

トイレ


1400
1000
換気扇
防水型蛍光灯
2610
排水管位置

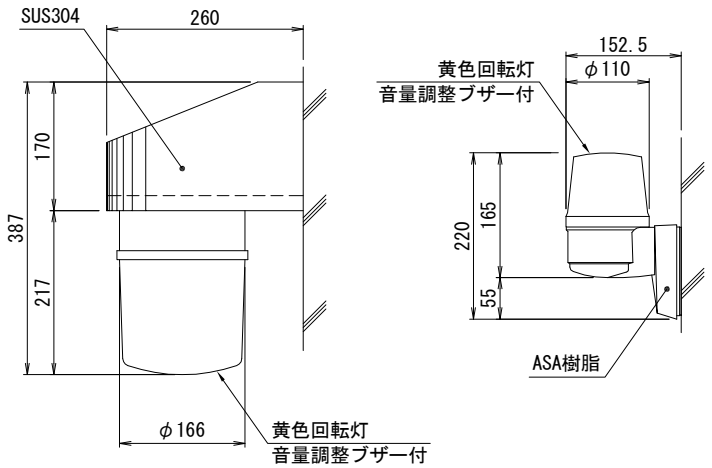
案内表示灯（ポール付）



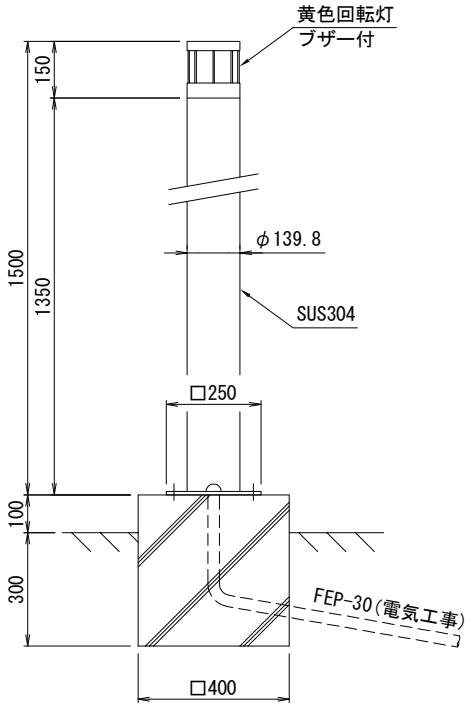
注）ポールの埋設については、建築工事で施工願います。（上図参考）

出庫警報灯

ブラケット型

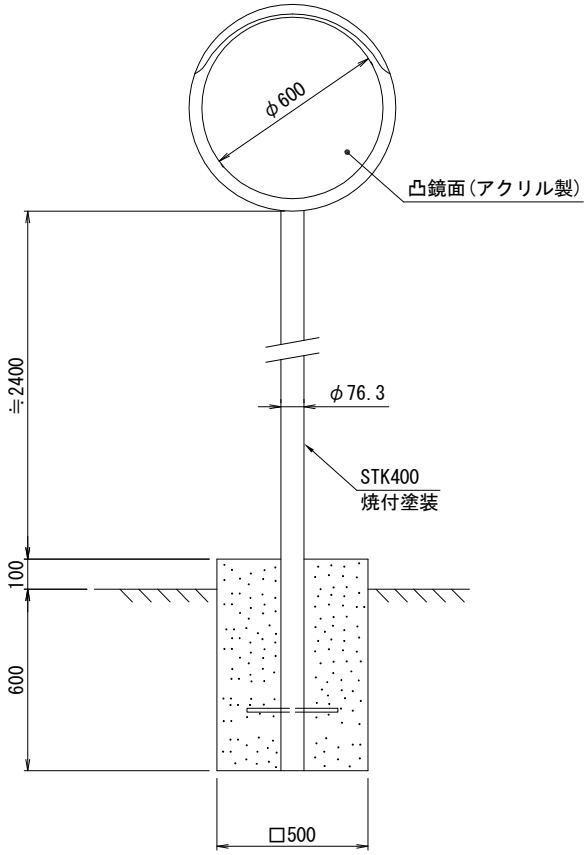


自立型



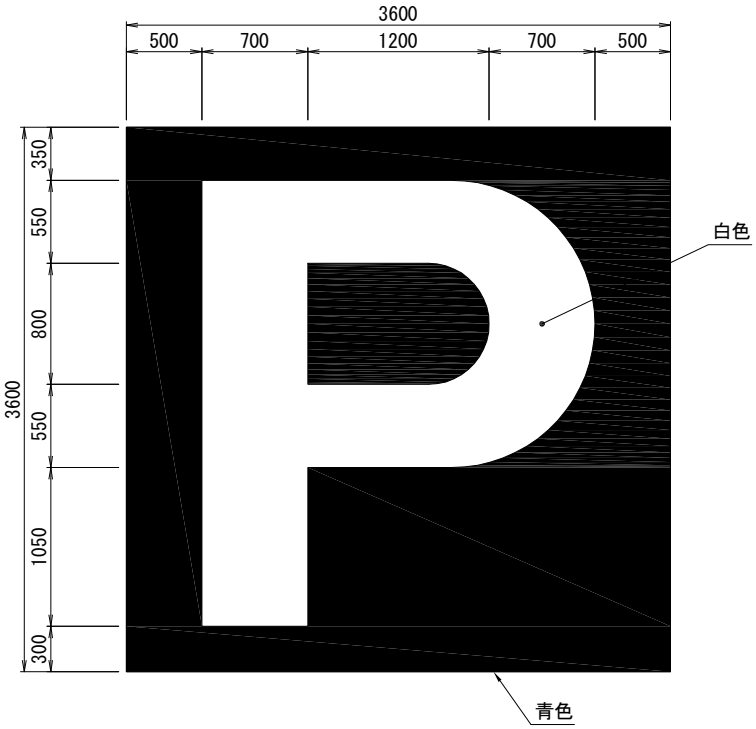
注）自立型出庫警報灯の基礎については、建築工事で施工願います。（上図参考）

カーブミラー



注）ポールの埋設については、建築工事で施工願います。(上図参考)

Ｐマーク (外壁に塗装)



工事区分表

	工　事　内　容	立駐工事		立駐工事範囲外			備考
		標準	標準外	建築工事	電気工事	設備工事	
1.	〈建設現場調査〉						
1-1.	敷地測量			○			
1-2.	電波障害調査			○			
1-3.	電波障害対策			○			
1-4.	近隣対策			○			
2.	〈建設準備〉						
2-1.	地質調査(ボーリング)			○			
3.	〈駐車装置の建築確認〉						
3-1.	立駐本体構造設計	○					
3-2.	基礎荷重値設定	○					
3-3.	基礎構造計算			○			
3-4.	基礎図面の作成			○			
3-5.	駐車装置の意匠・設備・構造図面の作成	○					
3-6.	駐車装置の建築確認申請手続(役所への申請業務)			○			
4.	〈工事前準備〉						
4-1.	既設建築物の取り壊し、整地工事			○			
4-2.	重機設置場所の確保(鉄骨建方時の揚重機設置場所)			○			
4-3.	部材搬入路の確保			○			
4-4.	部材置き場の確保			○			
4-5.	仮設電源引込工事				○		動力 200V ・ 電灯 100V
4-6.	工事用雑用水、便所の使用料			○			
4-7.	工事現場仮囲い			○			
5.	〈土木・基礎・外構工事〉						
5-1.	杭・基礎鉄筋コンクリート工事			○			
5-2.	アンカーボルト及び埋込金物(コーナアングル・ベースプレート)の納入	○					
5-3.	同上現場でのトラックからの荷卸し・保管			○			トラック車上渡し
5-4.	同上取付・芯出し・埋込工事			○			
5-5.	同上固定用取付台の製作・据付			○			
5-6.	タワー内床仕上げ			○			
5-7.	柱ベース下無収縮モルタル及び柱根巻施工			○			
5-8.	腰壁工事			○			
5-9.	排水工事(基礎埋設以降)					○	雨水・ピット排水
5-10.	前庭舗装・側溝等の外構工事			○			
5-11.	避雷設備用アース板(含リード線)の手配・納入				○		
5-12.	避雷設備用アース板(含リード線)の埋設及び設置抵抗測定				○		写真撮影も含む
5-13.	電気配線用フレキシブル/コンジットパイプのコンクリート内埋込				○		
5-14.	同上材料				○		
5-15.	タワー外置ターンテーブル用基礎(ピット)			○			後打ちコンクリート含む
5-16.	同上排水工事					○	
6.	〈立駐建方工事〉						
6-1.	鉄骨・駆動装置・パレット等本体の製作・据付・試運転調整	○					
6-2.	自動扉取付工事	○					
6-3.	同上レール部モルタル仕上工事			○			
6-4.	タワー内ターンテーブル製作・組立	○					
6-5.	タワー外置ターンテーブル製作・組立		○				
6-6.	足場工事			○			外壁：無足場工法にて施工
6-7.	グリーンネット施工			○			
6-8.	屋根工事(特殊塗装鋼板)	○					ガルバリウム塗装鋼板
6-9.	屋根の塗装	○					メーカ標準色(グレー)
6-10.	外壁工事(特殊塗装鋼板)	○					ガルバリウム塗装鋼板
6-11.	外壁の塗装	○					メーカ標準色より選定(単色)
6-12.	耐火被覆工事	○					
6-13.	EXP・JOINT(立駐とビルの間)			○			
6-14.	EXP・JOINT(立駐のみ)		○				
6-15.	ビルと立駐間の雨仕舞工事			○			
6-16.	換気ガラリ(自然換気/PFD付)	○					遠隔連動復旧型
6-17.	避圧口		○				
6-18.	ひさし	○					
6-19.	避雷設備	○					棟上導体
6-20.	内装工事		○				
6-21.	間仕切壁		○				
6-22.	水平サポート支持ゴム(ビル内組込み時)		○				
6-23.	建方用吊り金具(ビル内組込み時)			○			
6-24.	メンテナンス扉(ビル内組込み時)			○			
6-25.	メンテナンス歩廊(ビル内組込み時)			○			

	工　事　内　容	立駐工事		立駐工事範囲外			備考
		標準	標準外	建築工事	電気工事	設備工事	
7.	〈電気〉						
7-1.	１次電源引込工事				○		
	動力電源(立駐分電盤への結線迄)				○		
	外置ターンテーブル(立駐分電盤への結線迄)				○		
	照明電源(立駐分電盤への結線迄)				○		
	融雪専用電源(融雪分電盤への結線迄)				○		
	EV専用電源(EV充電専用分電盤への結線迄)				○		
	消火設備＜専用電源＞(消火ボンベ室内制御盤への結線迄)				○		
	消火ガス排出装置＜非常電源＞(コンセントまたは排ガス盤まで)				○		
7-2.	駐車装置2次側配線工事	○					
7-3.	駐車装置内照明工事	○					
7-4.	ひさし下照明設備	○					デイライトによる点滅
7-5.	消火ボンベ室照明設備	○					
7-6.	タワー外照明設備				○		必要な場合別途施工願います
7-7.	工事用仮設電気使用料			○			200V ・ 100V
7-8.	試運転時の電気使用料			○			200V ・ 100V
7-9.	避難口誘導灯	○					ビル内組込の場合は電気工事所掌
7-10.	同上申請業務	○					ビル内組込の場合は電気工事所掌
7-11.	立駐故障信号の移報回路引込用配管･配線工事				○		立駐制御盤内端子渡し(立駐内1FL部制御盤)
8.	〈消火設備〉						不活性ガス(CO2)消火設備が標準
8-1.	消火ボンベ室製作･据付	○					
8-2.	同上用基礎工事			○			地上設置型の場合
8-3.	消火ガス･ガスボンベの納入	○					
8-4.	消火ボンベ室内制御盤･配管納入･組立	○					
8-5.	消火ボンベ室/立駐間配管工事	○					
8-6.	消火ガス配管･配線用穴あけ			○			躯体側
8-7.	ビル自火報設備への火災報知				○		立駐消火制御盤内端子渡し(消火ボンベ室内)
8-8.	ビルへの火災報知設備(移報･自動火災報知)申請及び配管･配線工事				○		
8-9.	換気ガラリ閉鎖用配管	○					
8-10.	排ガス設備		○				所轄消防の指導による
8-11.	空気呼吸器等の設置		○				所轄消防の指導による
8-12.	消火ボンベ室床面モルタル施工			○			
9.	〈その他〉						
9-1.	管理人室/待合室/トイレ		○				
9-2.	同上用照明器具		○				
9-3.	同上用配線工事		○				
9-4.	同上用基礎工事			○			
9-5.	駐車場管理用機器(レジスタ･タイムスタンプ)		○				
9-6.	タワー壁面へのＰマーク		○				
9-7.	タワー壁面への文字書き		○				
9-8.	タワー壁面への吊ピース		○				
9-9.	タワー内音声ガイド		○				
9-10.	出庫警報灯(パトライト)の製作･据付		○				
9-11.	同上制御		○				
9-12.	同上.配線用配管工事				○		
9-13.	同上.配線工事		○				
9-14.	同上.基礎工事			○			
9-15.	入庫誘導灯(赤/青信号灯)の製作･据付		○				
9-16.	同上制御		○				
9-17.	同上.配線用配管工事				○		
9-18.	同上.配線工事		○				
9-19.	同上.基礎工事			○			
9-20.	車路管制		○				
9-21.	カーブミラー		○				
9-22.	同上用基礎工事			○			
9-23.	垂幕用金具･看板等広告用設備		○				
9-24.	排水ポンプ					○	
9-25.	立駐操作盤	○					
9-26.	ICカード操作の時のカード納入	○					
9-27.	クイックエントリー		○				
9-28.	フリーロケーション		○				
9-29.	バリアフリー対応		○				
9-30.	タイヤ外幅広車対応パレット		○				
9-31.	EV充電対応		○				
9-32.	ヒータ取付工事		○				
9-33.	装置の地域特別仕様		○				
9-34.	騒音対策	○					NHPS標準騒音対策
9-35.	騒音対策(追加項目)		○				
9-36.	安全対策(ガードマン)			○			
9-37.	労災保険			○			
9-38.	技術員の常駐		○				
9-39.	取扱い説明	○					1回
9-40.	入居内覧会立会		○				

据付工事標準工程表

標準モデル(1基)

実働日数：65日

項目＼日数	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	
基礎チェック(事前)														
仮設段取・墨出し(事前)														
鉄骨建方工事														
重機作業		9日												
芯出し作業			5日											
電気工事														
仮設工事		2日												
棟内電気								6日						
腰壁工事				6日										
屋根工事					2日									
外装工事							10日							
消火設備工事														
棟内配管									2日					
ボンベ搬入											2日			
耐火被覆工事											10日			
機械調整												7日		
試運転ロードテスト													3日	
仕上げ塗装														5日
消防検査受験可能日											○			
建築検査受験可能日											○			

注1) 25t ラフタークレーンにて鉄骨建方をできるものとします。
注2) 雨天及び他工事との取り合いが生じた場合は別途協議願います。
注3) 上記工程表には休日は含まれておりません。
注4) 上記工程表は、乗用車34台(高さ31m程度)収容の場合を示します。

駐車装置関連法規

1. 駐車装置関連法規
2. 駐車装置関連法規の要点
3. 規模・高さの制限
4. 駐車装置の出入口

本章は、パークリフトに関する主要な法規制を抜粋し、その内容を解説したものです。
駐車装置の建設を計画される場合、本書を参考に法規制を遵守しながら最も土地を有効に活用できる方法をご検討下さい。

1. 駐車装置関連法規

駐車装置の建設・運営に関して主に下記の法規があります。

(1) 全国

<table>
<tr><th>法　律</th><th>政　令</th><th>省　令</th><th>告　示</th><th>通　達</th></tr>
<tr><td>建築基準法
（建基法）</td><td>建築基準法施行令
（建基令）</td><td>建築基準法施行規則
（建基規則）</td><td rowspan="2">建設省告示
国土交通省告示</td><td rowspan="3">通　達</td></tr>
<tr><td>駐車場法
（駐車場法）</td><td>駐車場法施行令
（駐車令）</td><td>運輸省令
建設省令
国土交通省令</td></tr>
<tr><td>消防法
（消防法）</td><td>消防法施行令
（消防令）</td><td>消防法施行規則
（消防規則）</td><td>自治省告示
総務省告示</td></tr>
</table>

上記以外にも都市計画法、道路運送車輌法等があります。

(2) 地方自治体

東京都建築安全条例（都安全条例）
大阪府建築基準法施行条例（阪施行条例）
東京都駐車場条例（都駐車場条例）
その他地方自治体の各種条例

注）（　）は本章における略称を示します。

2.駐車装置関連法規の要点

2.1 総則

パークリフトは下記に示すように建築基準法で規制される建築物であり、建設にあたっては建築基準法に従った手続きが必要となる。

(1)特殊建築物(建基法2条)

パークリフトは建基法２条に規定する「土地に定着する工作物のうち屋根及び柱若しくは壁を有するもの」に該当する建築物であり、更に学校・劇場・百貨店等と同じく用途が特殊で一般の建築物に比べ厳しい規制を受ける「特殊建築物」と定義づけられている。

(2)建築物の確認申請(建基法6条)

「建築主は建築物を建築しようとする場合、当該工事に着手する前にその計画が敷地・構造に関する法律に適合するものである事について建築主事の確認を受けなければならない」むね定めており、パークリフトも建設前に必ず建築確認の審査を受けなければならない。

(3)完了検査の申請(建基法7条)

「建築主は工事完了後４日以内に文章で建築主事に完了検査申請を提出せねばならない」と完了検査申請の提出を義務づけており、検査の結果、法規に適合している場合、検査済み証が建築主事から発行され、はじめて施設を利用できる建築物と定めている。

2.2 階数についての通達

吊上式自動車車庫の取扱について　　昭和35年12月8日
(住発第368号)

最近の自動車需要の激増及び道路交通法による駐車制限の強化に伴い、別添のような吊上式自動車車庫が考案され、各地で建築される予定と聞いているが、この種の自動車車庫については、下記により取扱われたい。

記

原則としては、階数が3以上で延べ面積が150㎡を超える建築物に該当するものと解されるが、次の各号の要件を満たすものについては、建築基準法第27条、第61条及び第62条の規定の適用に関しては、階数が1の建築物として取扱ってさしつかえない。

1　耐火建築物又は建築基準法第2条9号の3ロに該当する簡易耐火建築物とすること。

2　木造建築物が密集している市街地内で他の建築物(耐火建築物又は簡易耐火建築物を除く)又は隣地境界線から5メートル以下の距離に建築する場合には、外壁を不燃材料でおおい、かつ、地盤面からの高さが15メートル以下の外壁の部分を耐火構造とすること。

3　前号の場合で、延焼のおそれのある部分に車輌の出し入れ口を設ける場合には、これに甲種防火戸を設けること。

4　木造建築物が密集している市街地で既存の建築物又は他の建築部分と一体に建築する場合には、当該既存の建築物又は他の部分を第2号にいう他の建築物とみなして第2号及び第3号によること。

5　住居地域内には建築しないこと。

6　吊上機の騒音により周囲の安寧を害するおそれのないものとすること。

7　外周の美観に考慮を払うこと。

2.3 主仕様と構造

2.3.1 国土交通大臣による装置認定

下記の法規に準拠し、機械式駐車装置は構造面で審査を受け、国土交通大臣の認定を得なければならない装置と定めている。

(1)路外駐車場の構造及び設備の基準(駐車場法11条)

「路外駐車場で自動車の駐車の用に供する部分の面積が500㎡以上の場合、その構造及び設備は建基法及びその他の法令の規定・政令で定める技術的基準によらなければならない」

(2)特殊の装置(駐車令15条)

「この節の規定は、その予想しない特殊の装置を用いる路外駐車場については国土交通大臣がその装置がこの節の規定による構造又は設備と同等以上の効果があると認める場合においては適用しない」

2.3.2 自動車の出入口

4.駐車装置の出入口 を参照下さい。

2.3.3 車路(駐車令8条)

4.駐車装置の出入口 を参照下さい。

2.3.4 照明装置(駐車令13条)

自動車の車路の路面　10ルックス以上
自動車の駐車の用に供する部分の床面　2ルックス以上

2.3.5 耐火構造

隣家等の火災が容易に延焼せず、内部火災に際しても内部での鎮火を目的として下記の法規制があり、パークリフトにおいても建基令107条で壁・主要構造材に対しては1時間耐火が、屋根に対しては30分耐火が要求されている。

(1)防火地域内の建築物(建基法61条)

防火地域内で3階又は延面積100㎡以上の建築物を建設する場合、建築物は耐火建築物とし、その他の建築物は耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない。

(2)準防火地域内の建築物(建基法62条)

準防火地域においては階数と延面積に応じて規定された耐火建築物又は準耐火建築物とせねばならない。

(3)特殊建築物の耐火(建基法27条)

建基法 別表1に定める特殊建築物は耐火建築物又は準耐火建築物とせねばならないとし、別表1-(6)で150㎡以上の自動車車庫は耐火を要求される特殊建築物と定めている。

2.4 機械式駐車装置の床面積の算定(住指発第115号通達)

下記の通達に基づき普通自動車の場合、車の大小にかかわらず車1台/1パレット当たり15㎡とみなして算定する。

「特殊装置の駐車の用に供する部分の面積の算定にあたっては、垂直循環方式、水平循環方式などのように駐車の用に供する部分に該当する車箱(ケージ)、パレット(トレイ)などの面積の算定の容易なものについては、その面積によるものとし、その算定が困難なものについては、小型自動車又は軽自動車(二輪自動車を除く)のみの駐車の用に供する特殊装置については自動車1台当たり12㎡と、普通自動車(大型のバス、トラック等を除く)の駐車の用に供することができる特殊装置については自動車1台当たり15㎡とみなして算定する」

2.5 建築物における駐車装置の附置義務

適正な駐車装置を確保するため、一定規模以上の建築物を建設する場合、駐車装置を下記の法規制に基づいて準備しなければならない。

(1)駐車設備の附置義務(駐車場法20条関係)

地方公共団体は駐車装置整備地区内又は商業地域内もしくは近隣商業地域内において、延べ面積が2,000㎡(標準駐車場条例における基準値は都市規模、建物用途に応じ1,000～1,500㎡)以上の建築物を新築し又は建築物の延べ面積が当該規模以上となる増設をしようとするものに対し、条例で駐車のための施設を設けなければならない旨を定めることができる。

(2)駐車台数の算定(都駐車条例17条)

駐車場整備地区内、商業地域内、近隣商業地域内において、床面積の合計が1,500㎡(非特定用途にあたっては2,000㎡)を超える部分の面積に対して200㎡、250㎡又は300㎡(区域、用途による)ごとに1台の割合で算定した駐車台数を有する駐車装置を附置しなければならない。ただし、6,000㎡以下および10,000㎡以上については台数に緩和措置がある。

※ 尚、各都道府県では違法駐車の減少を目的として、各種の条例・行政指導を行っており、駐車装置の建設にあたっては都道府県条例を確認して下さい。

2.6 有料路外駐車場の届出義務

都市計画区域内において、次の有料路外駐車場を設置する場合は、国土交通省で定めるところにより、位置、規模、構造、設備等その他必要な事項を都道府県知事に届ける必要があります。(駐車場法第12条)

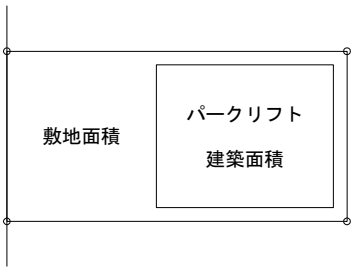
(1)自動車の駐車の用に供する部分の面積が500㎡以上の路外駐車場(駐車スペースと車路が構造上判然と分離されていない場合は車路面積を含む。)

(2)一般公共の用に供される駐車場(時間貸し駐車場のこと。月極契約のみの駐車場や、会社や特定の施設の駐車場などはこれに該当しません。)

上記の(1)及び(2)に該当する駐車場は届出を必要とし、駐車場法および同法施行令の適応を受けます。

3. 規模・高さの制限

3.1 建ぺい率(建基法53条)



建築面積の敷地面積に対する割合

$$\frac{\text{建築面積}}{\text{敷地面積}}=\text{建ぺい率}$$

建ぺい率の限度

用途地域区分毎の建ぺい率の上限は下記の通りである。

敷地の条件など / 用途地域	一般の敷地	特定行政庁の指定する角地など	防火地域の耐火建築物	
			一般の敷地	特定行政庁の指定する角地など
第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域	6/10・8/10	6/10・7/10・9/10	6/10・7/10・9/10	7/10・8/10・10/10
工業地域	5/10・6/10	6/10・7/10	6/10・7/10	7/10・8/10
準工業地域	6/10・8/10	6/10・7/10・9/10	6/10・7/10・9/10	7/10・8/10・10/10
近隣商業地域	6/10・8/10	7/10・9/10	7/10・9/10	8/10・10/10
商業地域	8/10	9/10	制限なし	制限なし
用途地域の指定のない地域(都市計画区域内)	3/10～7/10	4/10～8/10	4/10～8/10	5/10～9/10

3.2 容積率(建基法52条)

建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合

$$\frac{\text{建築物の延べ面積}}{\text{敷地面積}}=\text{容積率}$$

(1)容積率の限度

用途地域区分毎の容積率の上限は下記の通りである。

用途地域	容積率限度
第1種住居地域・第2種住居地域・準住居地域	10/10・15/10・20/10・30/10・40/10・50/10
工業地域	10/10・15/10・20/10・30/10・40/10
準工業地域	10/10・15/10・20/10・30/10・40/10・50/10
近隣商業地域	
商業地域	20/10・30/10・40/10・50/10・60/10・70/10・80/10・90/10・100/10・110/10・120/10・130/10
用途地域の指定のない地域(都市計画区域内)	40/10

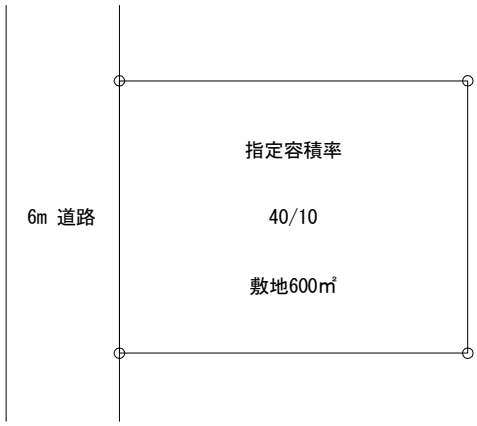
(2)道路の幅員による容積率の制限

前面道路の幅員が12m未満の場合には、前面道路の幅員に6/10又は4/10を乗じたもの又は(1)項容積率限度の小さい方が許容限度容積率となる。

6/10が適用される用途：近隣商業地域・商業地域・準工業地域・工業地域のうち行政で指定のない地域

4/10が適用される用途：第1、2種の住居専用地域・住居地域又は都市計画審議会の指定した用途区域内

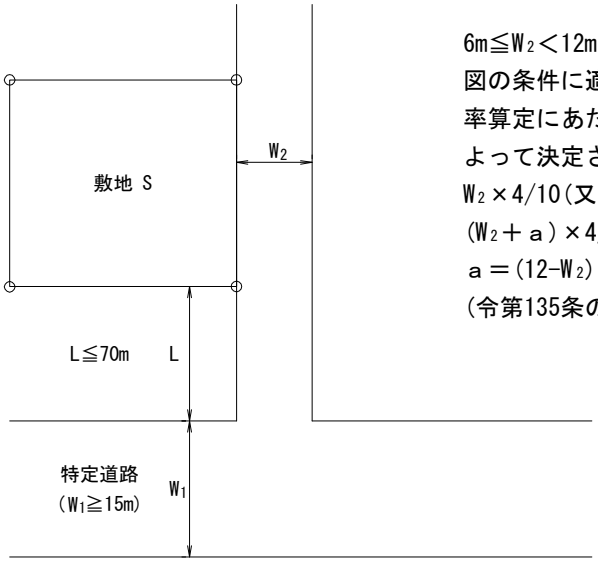
例）用途：近隣商業地域



敷地の指定容積率から計算すれば延べ面積は600㎡×40/10＝2,400㎡となるが、前面道路が6mのため許容限度容積率は6m×6/10＝36/10となり、許容限度延べ面積は600㎡×36/10＝2,160㎡となる。従って、2,160㎡以上の床面積を持つ建築物の建設はできない。尚、敷地が幅員の異なる複数の道路に接する場合、最も広い道路を適用することができる。

(3)特定道路に接続する一定幅員の道路に接する場合の容積率の緩和

建築物の敷地が幅員15m以上の道路(以下「特定道路」とする)に接続する幅員6m以上12m未満の前面道路のうち、特定道路からの延長が70m以内の部分においては、前面道路の幅員による容積率制限の算定にあたって、前面道路幅員を特定道路からの距離に応じて一定の数値を割り増すことができる。



$6m \leqq W_2 < 12m$
図の条件に適合する敷地 S の容積率算定にあたっての前面道路幅員によって決定される容積率制限は、$W_2 \times 4/10$(又は6/10)ではなく、$(W_2 + a) \times 4/10$(又は6/10)となる。
$a = (12 - W_2) \times (70 - L)/70$
(令第135条の4の4-5項による)

3.3 前面空地(各都道府県条例)

パークリフトに出入りする車が前面道路の車の円滑な流れを阻害しないよう、車が一時待機できる前面空地を設ける事が義務づけられている。

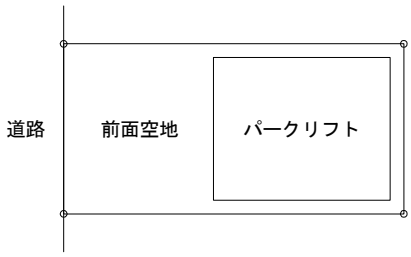
(都安全条例28条2項)

自動車を昇降させる設備を設ける自動車車庫等における当該設備の出入口は、奥行き及び幅員がそれぞれ6m以上(長さが5m以下の自動車用の設備にあっては、それぞれ5.5m以上とする)の空地又はこれに代わる車路に面して設けなければならない。

(機械式駐車場技術基準・同解説2.3.1項)

機械式駐車場の出入口付近は、その装置に収容可能な自動車が安全に出入りできるものとし、駐車装置の出入口の前面には当該装置に収容可能な自動車2台以上を停留し、または、方向転換装置(ターンテーブル)を設けることができる車路に相当する空地を設けること。

ただし、通り抜けのように当該装置の入口と出口が分離された構造の場合は、入口側にのみ、当該装置に収容可能な自動車1台分に相当する空地を設ければ良い。



前面空地長さは自治体により異なります。
計画時にご確認下さい。

例) 東京は 6×6m 以上
大阪は車2台分に相当する空地

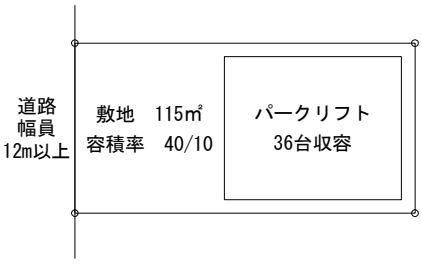
3.4 延べ面積

(1)自動車1台当りの面積は15㎡である(2.4参照のこと)

例)32台収容式パークリフト　32×15㎡＝480㎡

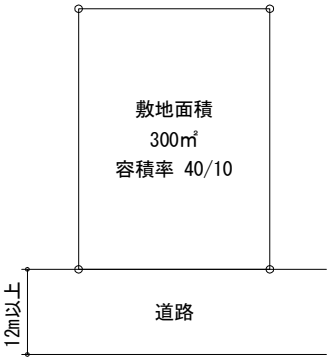
(2)駐車施設の延べ面積の緩和　(建基令2条の1の4項、2条の3項)

(ｉ)「パークリフトで駐車の用に供する部分の床面積は同一敷地内の建物の延べ面積の1/5を限度として算入されない」と、延べ面積の緩和を定めている。



例)36台収容式パークリフト
(a)許容延べ面積＝115㎡×40/10＝460㎡
(b)パークリフトの床面積＝36×15㎡＝540㎡
(c)駐車装置建設に伴う緩和後の
可能延べ床面積＝460㎡×5/4＝575㎡
(b)＜(c)であり36台式の建設が可能

(ⅱ)「基本法 52 条(容積率制限)の適用において建築物に自動車の駐車施設がある場合は、その部分の床面積は敷地内の延べ面積(ビル＋駐車装置)の1/5までは延べ面積に算入されない」



例)容積率40/10の可能延べ面積B㎡はいくらか。
ただし、前面道路は12m以上とする。
A (許容床面積)＝300×40/10＝1,200㎡
B (可能延べ床面積)＝5/4×A＝1,500㎡
1,000㎡のビルを建築する場合、500㎡までの駐車用面積がとれる。
300㎡が緩和され、延べ面積は1,200㎡とみなされる。ただし、緩和された部分にビルを建設することは不可。

(3)用途地域及び容積率限度の異なる2以上の地域にわたる場合

(建基法53条の2項、56条の5項)
　建築物の敷地が制限を受ける地域又は、区域の2以上にわたる場合においては、それぞれの区域の制限を受ける。

3.5 高さに対する制限

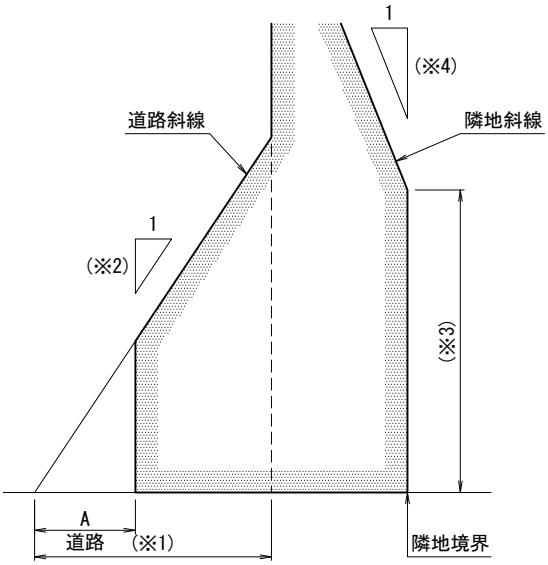
(1)道路斜線制限(建基法56条の1項)

前面道路反対側境界線から下図に示す角度を高さの制限とする。

※セットバックによる緩和については(3)を参照のこと。

(2)隣地斜線制限(建基法56条の2項)

建築物の高さに対し、隣地境界線から下図に示す角度を高さの限度とする。



前面道路との関係についての建築物の各部分の高さ制限

建築物がある地域又は区域		容積率限度	距離(※1)	数値(※2)	高さ(※3)	数値(※4)
1	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域	20/10以下の場合	20m	1.25	20m	1.25
		20/10を超え、30/10以下の場合	25m(20)			
		30/10を超え、40/10以下の場合	30m(25)			
		40/10を超える場合	30m(30)			
2	近隣商業地域 商業地域	40/10以下の場合	20m	1.5	31m	2.5
		40/10を超え、60/10以下の場合	25m			
		60/10を超え、80/10以下の場合	30m			
		80/10を超え、100/10以下の場合	35m			
		100/10を超え、110/10以下の場合	40m			
		110/10を超え、120/10以下の場合	45m			
		120/10を超える場合	50m			
3	工業地域、準工業地域 工業専用地域	20/10以下の場合	20m			
		20/10を超え、30/10以下の場合	25m			
		30/10を超え、40/10以下の場合	30m			
		40/10を超える場合	35m			

(3)セットバックによる緩和

道路斜線緩和(建基法56条の1項)

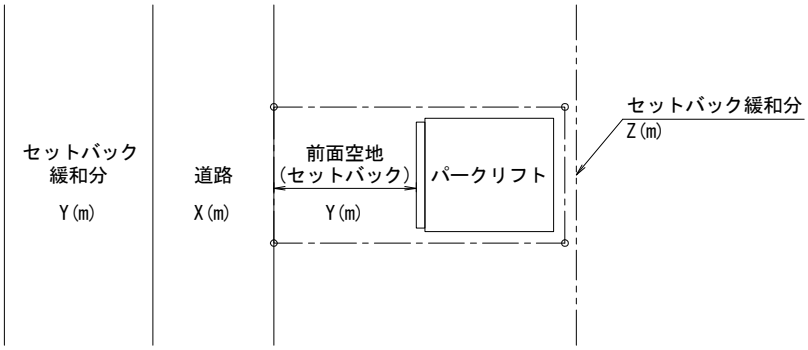
道路斜線制限の算定には、前面道路反対側境界線が、当該建築物が後退した距離だけ外側にあるものとみなして算定することができる。

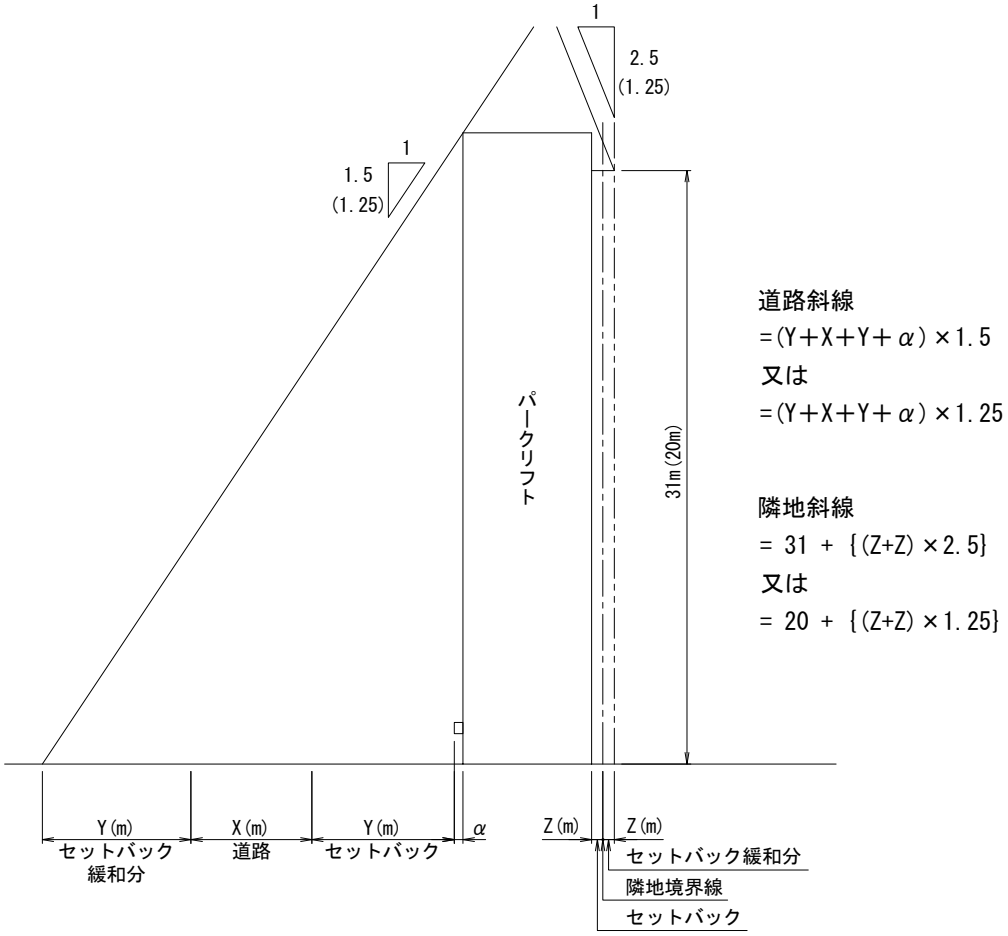
※下図を参照下さい。

隣地斜線緩和(建基法56条の2項)

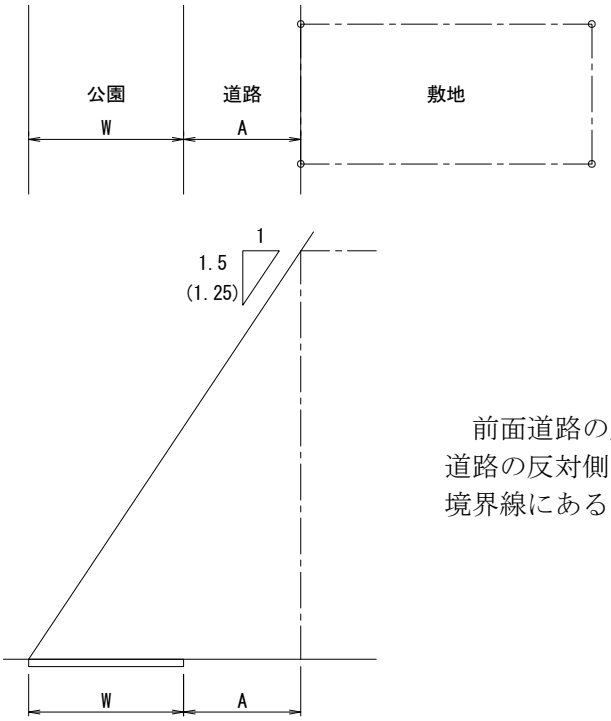
隣地斜線制限の算定には、隣地境界線が、建築物から隣地境界線までの水平距離のうち最小のものを加えた距離だけ外側にあるものとみなして算定することができる。

※下図を参照下さい。



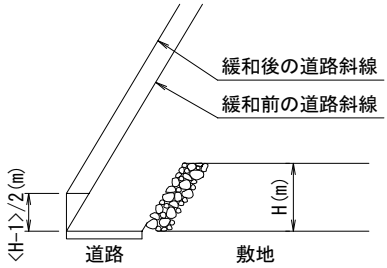


(4)前面道路の反対側に公園、広場、水面等がある場合の緩和(建基令134条)



前面道路の反対側に公園等がある場合は、道路の反対側の境界線は公園等の反対側の境界線にあるものとみなすことができる。

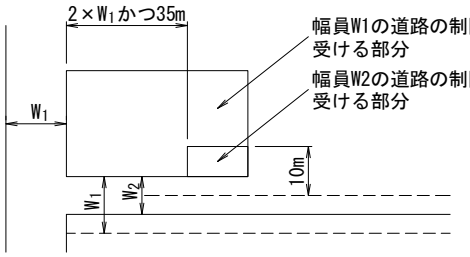
(5)前面道路より敷地が高い場合の緩和(建基令135条の2項)

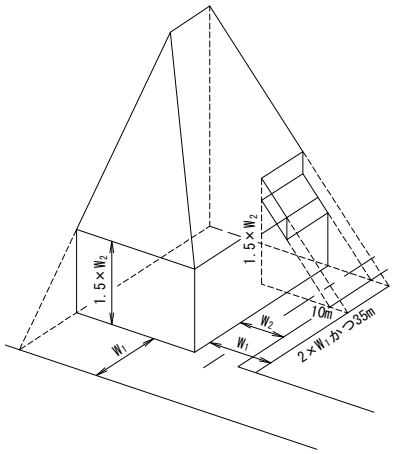


敷地が前面道路より1m以上高い場合、その高さをH(m)としたとき<H-1>/2(m)だけ道路が高い位置にあるものとみなすことができる。

(6)二つの道路に接する敷地の道路斜線制限の緩和(建基令132条の1項)

建築物の前面道路が二つ以上ある場合においては、幅員の最大な前面道路の境界線からの水平距離がその前面道路の幅員の2倍以内で、かつ、35m以内の区域及びその他の前面道路の中心線からの水平距離が10mを超える区域については、すべての前面道路が幅員の最大な前面道路と同じ幅員を有するものとみなす。





(7)庇のある場合のセットバック距離の算定(建基施行令130条12の項)

「軒高2.3m以下、床面積5㎡以内、敷地の前面道路に面する長さの1/5以下のもので、道路境界線から1m以上後退して設置する場合は、セットバック幅中に含んでも良い」と定めている。該当するものはごく小さな小屋程度であり、パークリフトの庇等は幅が広いため、適用できない。

(8)天空率による緩和(建基法56条の7項、建基令135条の5項)

高さ制限に適合した建築物と当該建築物の天空率を比較して、高さ制限を緩和することができる。

3.6 日影による高さの制限 (建基法56条の2項、建基令135条の4の2～3項、条例)

第１種中高層住居専用地域又は第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域、近隣商業地域又は準工業地域の全部又は一部で、地方公共団体の条例で指定する区域内にある高さが10mを超える建築物は日影による高さ制限を受ける。日影の高さ制限の算定は市条例又は県条例の規定による。

4.駐車装置の出入口

4.1 出入口の設置制限(駐車令7条、都安全条例10条の2、27条)

駐車の用に供する部分の面積が500㎡以上の駐車装置の出入口は下記の部分に設置してはならない。(都条例は500㎡に代えて50㎡を超えるものとしており、全国的に小規模駐車装置にも適用)

(1)道交法44条各号に掲げる道路の部分
- 交差点、横断歩道、自転車横断帯、踏切、軌道敷内、坂の頂上付近、勾配の急な坂又はトンネル
- 交差点の側端又は道路の曲り角から5m以内の部分
- 横断歩道又は自転車横断帯の前後の側端からそれぞれ前後に5m以内の部分
- 安全地帯が設けられている道路の当該安全地帯の左側の部分及び当該部分の前後の側端からそれに前後に10m以内の部分
- 乗合自動車の停留所又はトロリーバス若しくは路面電車の停留場を標示する標示柱又は標示板が設けられている位置から10m以内の部分
- 踏切の前後の側端からそれぞれ前後10m以内の部分

※ただし、交差点の側端及びそこから5m以内の道路の部分であっても、国土交通大臣が認めるものについては、規制の適用外とする。

(2)横断歩道橋、地下横断歩道の昇降口から5m以内の部分

(3)小学校、盲学校、聾学校、養護学校、幼稚園、保育所、知的障害児通園施設、肢体不自由児通園施設、情緒障害児短期治療施設、児童公園、児童遊園、児童館の出入口から20m以内の部分(柵の設けられた歩道と上下線を縁石等によって区切られた車道を有する以外の道路では、反対側についても左右20mについて適用)

(4)陸橋の下、橋、トンネル

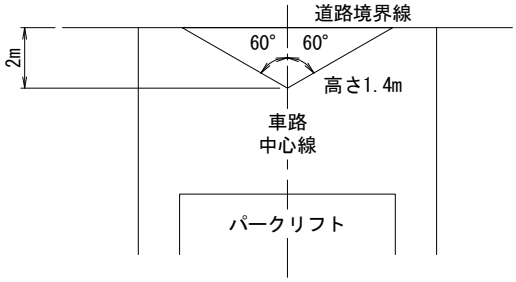
(5)幅員が6m未満の道路

(6)縦断勾配が10%を超える道路

(7)駐車の用に供する部分の面積が6,000㎡以上の駐車装置では、出口と入口を分離した構造とし、その間隔を道路に沿って10m以上とする。ただし、前面道路が中央分離帯等により分離されている場合には、規制の適用外とする。

4.2 出入口の見通し角(駐車令7条)

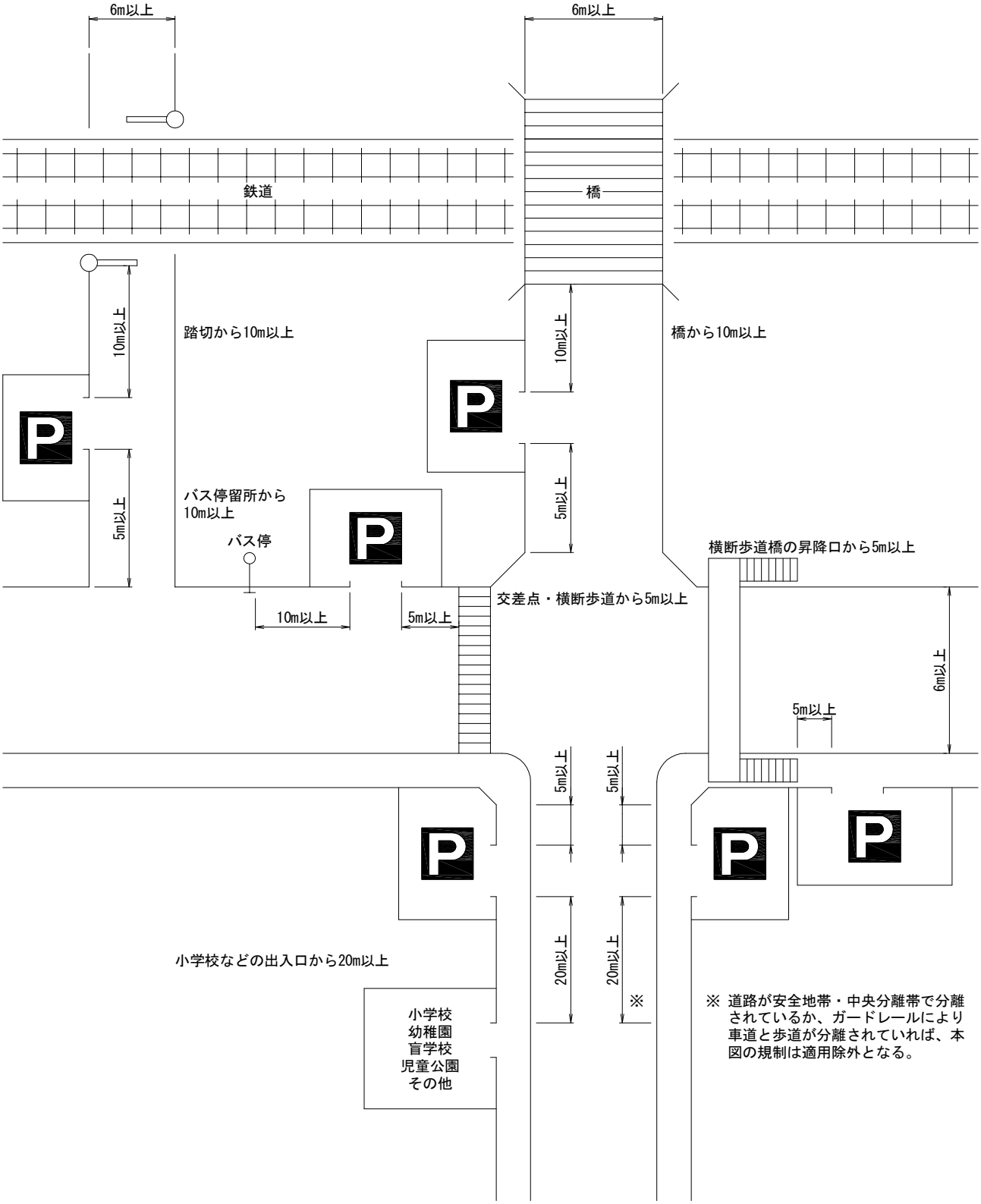
自動車の出入口付近の構造は、当該出入口が2m後退した自動車の車路の中心線上1.4mの高さにおいて、道路の中心線に直角に向かって左右それぞれ60°以上の範囲内において、通行する者の存在を確認できるようにしなければならない。



4.3 車路(駐車令8条)

車路の幅員は5.5m以上としなければならない。ただし、一方通行の車路にあっては3.5m以上とすることができる。

出入口の例


6m以上
6m以上
鉄道
橋
10m以上
踏切から10m以上
10m以上
橋から10m以上
5m以上
5m以上
バス停留所から
10m以上
バス停
横断歩道橋の昇降口から5m以上
交差点・横断歩道から5m以上
10m以上
5m以上
6m以上
5m以上
5m以上
5m以上
20m以上
20m以上
※
小学校などの出入口から20m以上
小学校
幼稚園
盲学校
児童公園
その他
※ 道路が安全地帯・中央分離帯で分離されているか、ガードレールにより車道と歩道が分離されていれば、本図の規制は適用除外となる。

日本コンベヤ株式会社

https://www.conveyor.co.jp